

平成29年度  
オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト  
成果報告書

新潟県教育庁高等学校教育課





## 目 次

|    |              |     |
|----|--------------|-----|
| 1  | 新発田南高等学校     | 1   |
| 2  | 新発田農業高等学校    | 7   |
| 3  | 新発田商業高等学校    | 11  |
| 4  | 長岡農業高等学校     | 17  |
| 5  | 長岡工業高等学校     | 22  |
| 6  | 長岡商業高等学校     | 28  |
| 7  | 新潟県央工業高等学校   | 33  |
| 8  | 三条商業高等学校     | 39  |
| 9  | 加茂農林高等学校     | 45  |
| 10 | 栃尾高等学校       | 50  |
| 11 | 吉田高等学校       | 56  |
| 12 | 小千谷西高等学校     | 62  |
| 13 | 塩沢商工高等学校     | 68  |
| 14 | 十日町総合高等学校    | 74  |
| 15 | 柏崎工業高等学校     | 80  |
| 16 | 高田農業高等学校     | 86  |
| 17 | 上越総合技術高等学校   | 93  |
| 18 | 海洋高等学校       | 99  |
| 19 | 阿賀黎明中学校・高等学校 | 105 |
| 20 | 正徳館高等学校      | 111 |
| 21 | 佐渡総合高等学校     | 117 |

はじめに

新潟県教育委員会では、平成27年度から「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」事業を実施し、地域の産業と結びついた活動、地域と学校の連携強化、地域活性の拠点化の取組をとおして「地域産業の担い手確保」や、「地域に貢献する人材の育成」、「生徒の地元定着」などにつなげることを目指してまいりました。

最終年度となった今年度は、生徒が積極的に自校の魅力を発信する様子が報告されるなど、地域の方々との協働や、地域人材を活用した教育活動等の展開をとおして、生徒の自発性や郷土愛が育まれるとともに、学校の特色化による地域活性化が図られてまいりました。また、県内各校においても、自校の強みを生かしたオンリーワンの取組に対する意識が高まり、選ばれる学校づくりが進められてきたことは大きな成果と考えております。

本事業は「県立高校の将来構想」に基づいた今後の学校づくりの先駆けとしても重要な位置づけとなっており、これまでの各校における取組は、今後の地域連携のあり方など、新潟県の高等学校等の将来像を描く重要な指針を示すものと確信しております。

本書は、21校の今年度の取組内容及び3年間の成果等をまとめたものであり、本書を有効に活用し、今後も各校において特色ある取組が継続して行われることを期待しております。また、県教育委員会といたしましても、明日の新潟の飛躍につながる魅力と活力ある学校づくりに一層取り組んでまいります。

平成30年3月

新潟県教育庁高等学校教育課長 藤澤 健一

(様式1)

芝南高第375号

平成30年2月21日

高等学校教育課長 様

学番 24 県立新発田南高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新発田南高校(新発田農業高校、新発田商業高校)

【テーマ】 芝TAC

～地域活性化プロジェクト～

【目標】

- ① 各校と連携しながら、HPによる商品の宣伝活動や商品開発、インターネット販売等の活動により地域の課題解決を図り、地域の活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。
- ② 地域との連携による地域イベントの企画・運営などの取組等により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識を持った人材の育成を図る。

【取組の概要】

- ① 3校連携による商品開発やインターネットを活用したPR活動を実施
  - ・地域の課題解決に向けた新商品開発や新サービスの提供などの実践に取り組む。
- ② イベントの立案や企画・運営
  - ・イベントの立案や計画、運営に参加することにより、起業意識を持つ人材育成につなげる。
  - ・地域と連携したイベントを開催する。
- ③ 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得
  - ・地域産業の現状及び課題を把握するために、先進的な取組をおこなっている産官等と連携する。
  - ・「課題研究」で習得した知識・能力を上級学校でさらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。

【取組の成果】

新発田市内の専門高校(新発田農業高等学校、新発田南高等学校工業科、新発田商業高等学校)が連携して、地域の企業や大学・専門学校の協力をえて新発田地域の活性化を図るとともに、地域貢献できる人材を育成する事が出来た。

3校協同企画商品としてそれぞれの学校の特徴を活かした「苔庭」を提案し、地域の方々より意見や指導をいただきよりよい商品となるよう工夫を積み重ね、今後の協働活動の礎を築く事が出来た。

## 【今年度の取組】

### 1 芝TAC生徒会議

(1) 第1回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年8月4日(金)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 今年度の芝TAC活動について  
② 3校協同企画商品について  
③ 3校連携取組活動について



(2) 第2回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年8月30日(水)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 各校文化祭におけるイベント内容について  
② その他のイベントによる活動について  
③ 3校協同企画商品について

(3) 第3回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年9月22日(金)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 3校協同企画商品について  
② 各校文化祭におけるイベント内容について

(4) 第4回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年10月18日(水)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 3校協同企画商品について  
② 各校文化祭におけるイベント内容について  
③ ホームページによる活動紹介について  
④ しばた絆マルシェについて

(5) 第5回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年11月8日(水)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① しばた絆マルシェについて  
② 3校協同企画商品について  
③ 芝TACホームページについて

(6) 第6回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成29年12月7日(木)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 3校協同企画商品について  
② デリシャスパークについて  
③ 今年度の活動のまとめについて

(7) 第7回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成30年1月10日(水)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 今年度の活動のまとめについて
- ② 今後の活動について

(8) 第8回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

日時 平成30年2月7日(水)

場所 県立新発田南高等学校

- 議題 ① 今年度の活動のまとめ
- ② 今後の活動について

2 3校連携活動及び地域イベント活動

(1) 南高祭 平成29年9月16日(土)

(2) 稲穂祭 平成29年10月28日(土)

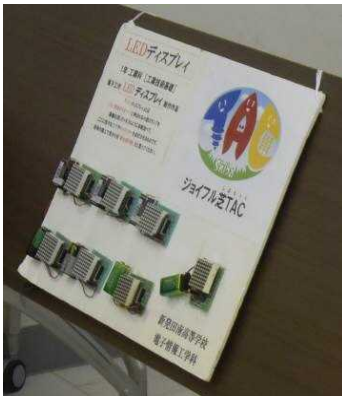


(3) 芝商祭 平成29年10月28日(土)





(4) 新潟職業能力開発短期大学校文化祭  
日時 平成 29 年 10 月 21 日 (土) 22 日 (日)



(5) しばた絆マルシェ参加 (しばた人権フェスティバル)  
日時 平成 29 年 11 月 26 日 (日)  
場所 新発田市民文化会館





(6) デリシャスカフェ参加

日時 平成 30 年 1 月 14 日 (日)

場所 新発田市役所ヨリネスしばた (札の辻広場&ラウンジ)



3 3校協同企画商品

3校協同企画商品として「苔庭」の製作を企画した。

器の木材加工を新発田南高校、苔の栽培を新発田農業高校、完成品のPRとしてホームページ掲載やパネル製作を新発田商業高校がそれぞれ担当した。

試作した苔庭を新発田市民の方々に見てもらい、よりよい商品とするための意見をもらい改良を重ね完成へと結びつけた。また、ホームページに苔庭の紹介を掲載するとともに、イベント掲示用のパネルも製作し、3校共同の取組である芝TACをPRする事が出来た。

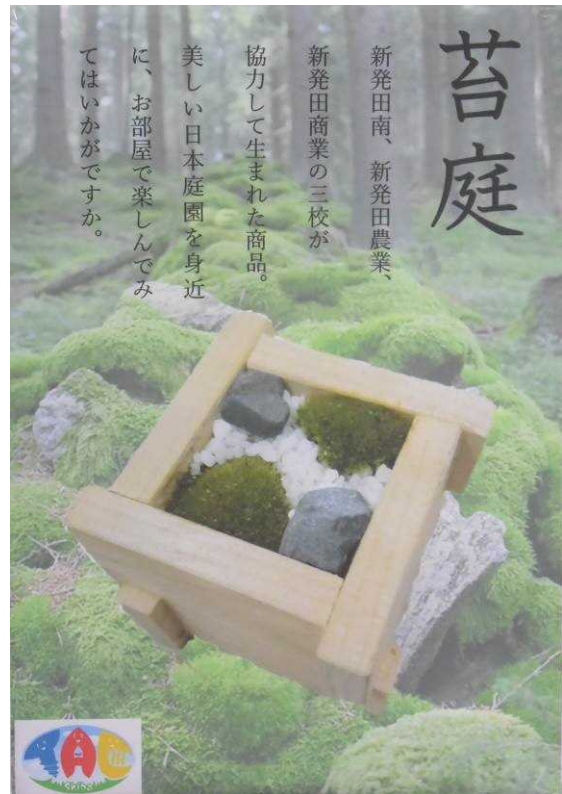
## 製作した苔庭



## 芝TACホームページ



## 苔庭紹介ポスター



## 4 生徒の感想

- いろいろなイベントに参加することで、地域の方々に芝TACの活動や、新発田南高校工業科のことをより知ってもらえる事が出来た。
- イベントなどではワークショップをおこなうため、商品のレパートリーが増え、加工技術など工業に関する知識が増えた。
- 新発田南高校工業科4学科の特徴を融合した一つの作品を作る事が出来ればこれからも継続的に活動が出来ると思う。
- 今年は3校共同作品を計画から製作、PRポスター展示までおこなうことができ、今後3校協働しての活動の礎が築けたので、是非来年はこの企画を商品化してほしい。
- いままで他の主催者のイベントに参加する形でしたが、今後は芝TAC主催のイベントを企画していきたい。

## 5 総合所見

昨年度までの活動実績により各校の生徒達は積極的に企画や運営に携わり、勇気と自信を持って多くのイベントに参加することとなった。また、昨年の課題であった連携した取組として取り組んだ「苔庭」は、それぞれの学校の持つ特徴を十分に取り入れ、地域の方々の意見を反映した立派な商品を作り上げることができた。この商品が芝TACオリジナルとして知名度を上げてくれることが期待できる。今後も継続的に地域との連携を深めた活動をおこなうことにより、地域から愛され応援される学校となるように取り組んでいきたい。

(様式1)

芝農第238号

平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番 25 県立新発田農業高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新発田農業高校(新発田南高校、新発田商業高校)

【テーマ】 芝TAC  
～地域活性化プロジェクト～

【目標】

- ① 「課題研究」等で各校と連携しながら、商品開発やインターネット販売等の活動により地域の課題解決を図り、地域の活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。
- ② 地域との連携による収穫祭等の地域イベントの企画・運営などの取組等により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識をもった人材の育成を図る。

【取組の概要】

- ① 3校連携による商品開発やインターネット販売等の活動を実施
  - ・3校連携による事業本部（組織づくり）の企画や運営、システムを学習する。
  - ・地域の課題解決に向けた新商品開発や新サービスの提供などの実践に取り組む。
  - ・芝TACのホームページを立ち上げる。
- ② 収穫祭等の地域イベントの企画・運営
  - ・イベントの立案や企画、運営に参加することにより、起業意識をもつ人材育成につなげる。
  - ・地域と連携したイベントを開催する。
- ③ 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得
  - ・「課題研究」の充実を図り、地域産業の課題解決を図る調査研究を実施する。
  - ・「課題研究」で習得した知識・能力を上級学校で、さらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。

【取組の成果】

- ① 3校連携による起業活動の取組はできなかったが、商品開発やインターネット販売などで連携し、企画を行うことができた。
- ② 芝TACで地域イベント（しばた人権フェスティバル、デリシャスパーク）に参加し、地域貢献できた。
- ③ 芝農カフェの開催や特別栽培米の栽培方法の確立など地域の活性化につながる活動を継続して行ってきた。

## 1 3校連携による活動の実施について

### (1) 芝TACの取組について

#### ① 連携会議の開催

毎月1回程度新発田南高校で開催

#### ② 連携事業

- ・09月16日(土) 新発田南高校文化祭にて各校紹介パネル展示
- ・10月28日(土) 本校稲穂祭にて各校紹介パネル展示
- ・10月28日(土) 新発田商業高校文化祭にて各校紹介パネル展示
- ・11月26日(日) 新発田市文化会館「人権フェスティバル」にて芝TACの活動紹介
- ・01月14日(日) 「Delicious Park」に参加

## 2 地域イベントの企画・運営等の取組について

### (1) 「芝農カフェ」の取組

#### ① 開催日時

- ・第1回：平成29年08月02日(水)
- ・第2回：平成29年11月03日(金)

#### ② 成果と課題

今年から会場をイクネスしばたに移動し、料理場はオープンキッチンとなり、飲食スペースも広くなり収容人数が多く活気あふれるカフェとなった。

生徒が、本校で生産した農産物、畜産物を使用し、いかに食材本来のおいしさを引き出し、魅力ある献立を考えることから取り組んだ。普段の授業では経験することのない実践的な授業を経験することができ、「芝農カフェ」は大変意義深い学習である。

献立を決定するまでに、何度も試作を重ね、味・見た目・栄養バランス・季節感・コストなど様々な課題を解決し、充実感と疲労感を実感することができた。

また、今年度は、新発田市からの依頼もあり、特に減塩を取り入れたメニュー、料理を考えて提案させてもらった。また、献立説明のために調べた、食材の栄養やカロリーについての学習もでき、そして何よりも、本校で仲間が生産した大切な農産物、畜産物を、地域の方々に食べていただいたという喜びも味わうことができた。

### 【第1回芝農カフェ】



料理の様子



芝農カフェ(献立)



メニュー(減塩の説明)

【第2回芝農カフェ】



料理の様子



接客の様子



看板

3 6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得について

(1) 特別栽培米の栽培について

① 取組内容

- ・ 10月～ 学校周辺における米の販売、PR
- ・ 10月12日(木) 県庁生協での米の販売、PRの企画・運営
- ・ 10月28日(土) 稲穂祭での米の販売、PRの企画・運営
- ・ 11月11日(土)・12日(日) 全国農業高校収穫祭での米の販売、PR(東京都)
- ・ 11月19日(日) 新潟伊勢丹での販売、PR



県庁生協での販売



稲穂祭での販売



オリジナル米袋



伊勢丹での販売



特別栽培米認証表示票

② 成果と今後

- ・ 有機質入りの元肥や穂肥等を購入し、栽培したことにより特別栽培米としての認証を受けることができた。
- ・ 特別栽培米認証表示票やオリジナル米袋等を作成したことにより販売が優位になった。
- ・ 校外販売を見通した特別栽培米の学習を計画したことで、起業意識が向上する生徒が増加するなど意欲的な活動につながった。
- ・ これまでの成果を来年度からの「新之助」の栽培につなげたい。

### ③ コンテスト及びコンクール等の結果

- 全国産業教育フェア全国高校生種苗交換会全国お米展：1等
- 全国農業高校お米甲子園：特別優秀賞
- あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト：特別金賞
- 2017 新発田の美味しいお米コンテスト：銀賞

## 4 総合所見

「課題研究」等で各校と連携しながら、商品開発やインターネット販売等の活動により地域の課題解決を図り、地域の活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図るという点では、芝TACの取組状況がまだまだ充分ではない。

企業等との商品開発については、本校は率先して行っているが、他校とのコラボする活動へと発展させていきたい。今後は、本校の農業生産物に対し、新発田南高校工業科で箱物の作成をし、新発田商業高校にラッピングやPR活動をしてもらうなどの連携を検討したい。

地域との連携による収穫祭等の地域イベントの企画・運営などの取組により、生徒に自主性と責任感を持たせ、起業意識をもった人材の育成については、数多くの地域イベント行事に参加し、多くの成果を上げている。携わった生徒は、各々に達成感を持ち自信をつけている。

今後も活動を継続して、地域との連携をより深め、地域創生に貢献できる人材育成の取組を行っていきたい。

(様式1)

芝商第209号

平成30年2月20日

高等学校教育課長 様

学番 26 県立新発田商業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

| 新発田商業高校(新発田農業高校、新発田南高校) |  |
|-------------------------|--|
| <b>【テーマ】</b>            | 芝TAC<br>～地域活性化プロジェクト～  |
| <b>【目標】</b>             | <ol style="list-style-type: none"><li>各校と連携し、新発田南高校と新発田農業高校で制作したオリジナルプランターで栽培した野菜を販売・イベント活動により地域の課題を図り、地域活性化につなげるとともに、地域産業を支える人材の育成を図る。</li><li>地域との連携による収穫祭等のイベントの企画・運営などの取組等により、生徒の自主性と責任感を持たせ、起業意識をもった人材の育成を図る。</li></ol>   |
| <b>【取組の概要】</b>          | <ol style="list-style-type: none"><li>商品開発や販売活動のPRの実施<ol style="list-style-type: none"><li>新発田農業高校と新発田南高校で栽培した野菜の販売促進活動に取り組む。</li><li>芝TACのホームページを作製し、取り組みのPRを行う。</li><li>地域の課題解決に向けて、PR活動等に実践的に取り組む。</li></ol></li><li>収穫祭等の地域イベントの企画・運営<ol style="list-style-type: none"><li>イベントの立案や企画、運営に参加することにより、起業意識をもつ人材育成につなげる。</li><li>イベントのPR活動を行う。</li></ol></li><li>6次産業化に対応した実践的な知識と技術の習得<ol style="list-style-type: none"><li>地域産業の現状及び課題を把握するために、先進的な取組を行っている産官等と連携する。</li><li>地域産業の課題解決を図る調査研究を実施する。</li><li>専門高校で習得した知識・能力を上級学校で、さらに向上させ、地域のリーダーとして地域産業の活性化を図る人材育成につなげる。</li></ol></li></ol> |
| <b>【取組の成果】</b>          | <p>学校独自商品の企画、企業と連携した商品開発やイベントの出店をとおして、地域の一員として貢献することの意義を再確認することができた。</p> <p>地域イベントに参画することは、異世代の方々とのコミュニケーションを図る機会となった。この取組をとおして、地域活性化や地域・社会貢献しようとする意識を高めることができた。</p>   |

# 1 3校連携による活動の実施について

## (1) 芝TAC打ち合わせ会議について

### ① 第1回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年8月4日(金)  
場 所 県立新発田南高等学校 電子制御実習室  
議 題 リーダー選出

各校文化祭におけるイベントについて、  
芝TACの活動の概要について



### ② 第2回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年8月30日(水)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 各校文化祭における取り組みについて  
芝TACホームページについて  
共同企画について



### ③ 第3回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年9月22日(金)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 農高祭、芝商祭での連携取組活動について  
共同企画について

### ④ 第4回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年10月18日(水)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 農高祭、芝商祭での連携取組活動について  
芝TACホームページについて  
共同企画について  
2017しばた人権フェスティバルについて



### ⑤ 第5回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年11月8日(水)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 2017しばた人権フェスティバルについて  
共同企画について

### ⑥ 第6回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成29年12月7日(木)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 共同企画について  
Delicious Parkでの連携取組活動について

### ⑦ 第7回芝TAC担当者及び生徒打合せ会議

期 日 平成30年1月10日(水)  
場 所 県立新発田南高等学校電子制御実習室  
議 題 Delicious Parkでの連携取組活動について

(2) 3校連携活動並びに地域イベント活動実施の取組

- ① 南 高 祭 平成 29 年 9 月 16 日(土)
- ② 農 高 祭 平成 29 年 10 月 28 日(土)
- ③ 芝 商 祭 平成 29 年 10 月 28 日(土)



【 農 高 祭 】



【 農 高 祭 】



【 芝 商 祭 】



【 芝 商 祭 】

⑤ 2017 しばた人権フェスティバル 平成 29 年 11 月 26 日(日) 新発田市民文化会館

新発田市民文化会館 1 階エントランスホールにて新発田南高校のペン立て、新発田農業高校の花、本校のフェアトレードのコーヒーとお菓子を販売した。本校の販売したフェアトレードのコーヒーやフェアトレード製品を使ったお菓子は来場者の興味・関心を引くものであった。



#### ④ Delicious Park 平成30年1月14日(日) 新発田市役所1F 札の辻広場

新発田市役所1階で開催した新発田商業高校が主催したイベントである。本校の生徒をはじめとした全国の商業高校生が企画・開発した商品の販売、豚丼やラーメン、お好み焼きといった食品製造販売、専門学校をはじめとしたワークショップ、市内保育園児の絵画展や地元団体によるステージイベントが行われた。新発田南高校のロボット操作体験や新発田農業高校の卵の販売、本校の企画・開発商品ともに好評であった。

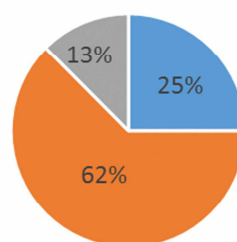


#### (3) 共同企画

3校合同による「苔庭」作りを行った。新発田南高校の生徒がプランターを作り、そこに新発田農業高校の生徒が苔を植え、本校生徒がポスターを作成した。プランターを木材で作成したため乾燥した際に隙間が空き、また苔の大きさなど何度も試作を行った。

平成29年11月26日(日)新発田市民文化会館で行われた「2017 しばた人権フェスティバル」にて3つの「苔庭」を展示した。来場者の中には販売品と間違え「販売価格」を聞く人もいた。そのため本校生徒が急遽口頭にて「希望購入価格」の聞き取り調査を行った。

「希望購入価格」聞き取り調査結果



■ 500円以下 ■ 500円～1,000円 ■ 1,000円以上



#### (4) 芝TACホームページについて

芝TACを多くの方に知ってもらうため、本校生徒がホームページを作成した。各学校の取り組みは、各学校から入力してもらうことにした。夏休み中にホームページは完成したが、学校によってはパソコンが不得意な生徒もいて更新する回数も少なかった。またホームペー

ジと合わせブログも開設すれば、「会議の様子や苔庭の進捗状況など、より多くの情報やイベントの告知ができたのではないか」といった感想もあった。



【芝TACのホームページ】



【本校のページ】

## 2 地域との連携

### (1) 商品開発の取組

社会貢献と地域活性化を目指し、フェアトレード製品と地域特産品を使った商品を企画・開発した。



【東ティモール産  
ドリップタイプコーヒー】



【ビスコッティ】

神田農園の越後姫の  
セミドライフルーツ

People Tree の  
チョコレート



【フロランタン】

宮村製麩所の  
新発田麩

キャラメルに  
マラウイ産白砂糖

## (2) 販売活動の取り組み

平成 29 年 7 月 9 日(日) 軽トラ市

平成 29 年 7 月 14 日(金)～16 日(日) ウオロク東新町店

平成 29 年 7 月 29 日(土) サマーフェスティバル

平成 29 年 10 月 7 日(土) 健康づくりフェスティバル

平成 29 年 10 月 22 日(日) しばた「食」のふれあいフェスタ

平成 29 年 11 月 3 日(金)～5 日(日) しばたうまいもん横丁

平成 30 年 1 月 7 日(日) 雑煮合戦



【7月9日 軽トラ市】



【7月14日～16日 ウオロク】



【7月29日 サマーフェスティバル】

## 3 生徒の感想

- 「苔庭」は商品化できませんでしたが、各校が役割を果たしてサンプルを作ることができ、今までで一番協力してできた活動だと思います。
- 「苔庭」の商品化を実現させたい。
- 商業は販売活動を中心に行ってきたので、次回からは芝TACの宣伝・広報活動、ホームページの更新を頻繁に行っていきたい。
- どうすれば商品の魅力が伝わるか、何度もPOP広告を変更して考えるのに苦労した。
- 3校合同なので中々予定が合わず、活動できた回数も少なかったのですが、芝TACのことが少しでも新発田市民に認知してもらえたと思う。
- 積極的に声を出したりお客様に笑顔で接することができて、とても良かったと思う。しかし、商品説明でうまく伝わらない場面があった。
- 地域の生産者や製造業者、商店街と連携して、授業で学んだことを実践できて多くのことを学ぶことができた。

## 4 総合所見

- 当初計画していた「野菜工場」は失敗したが、諦めず各校の特色・強みを生かした「苔庭」を完成させることができた。
- 今年度最終年度を迎えるが、新発田南高校工業科と新発田農業高校、新発田商業高校の3校がそれぞれの特色を生かし、連携を進めていき、本プロジェクトが終了しても3校連携事業が継続できるように考えていきたい。
- 授業で学習した知識や技能を実践する良い機会となった。また商品開発や販売実習を通じて、コミュニケーション能力や企画力、発想力、問題解決能力など多くの能力が身に付いた。
- キャリア教育の観点からも、地域社会の一員として地域活性化と社会貢献に関心を持ち、他者と協力して主体的・対話的に問題解決に取り組もうとする姿がうかがえた。

(様式1)

長農 第249号

平成30年2月26日

高等学校教育課長 様

学番 36 県立長岡農業高等学校長

中村 満夫

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

長岡農業高校(長岡工業高校、長岡商業高校)

**【テーマ】 地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成  
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!**

**【目標】**

- 1 常設店舗運営のための商品の選定、また、オリジナル商品の開発と販路獲得、販売戦略の構築。
- 2 上記商品の常設店舗（アオーレ長岡ホワイエ内）での販売
- 3 「長岡CAT」合同研修の実施による共通理解の促進と部署ごとの意識形成、及び組織運営の基本の習得
- 4 地域行事やイベントへの積極的参加及びボランティア活動等による地域社会に貢献する意識及び高校生活満足度の向上

**【取組の概要】**

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク、地元商工会議所及び農業関連生産法人等との連携による地域行事やイベントへの参加・出店と商品開発
- 2 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等の指導、協力を得た常設店舗の店舗設計及び運営
- 3 セミナーハウス（長陵会館）を利用した「長岡CAT」合同研修の実施
- 4 食育活動やボランティア活動等による地域社会への貢献
- 5 感想文、アンケートによる「事後ふりかえり」の実施

**【取組の成果】**

- 1 常設店舗「にゃーけっと」の運営を行い、新たなオリジナル商品の開発と地域食材を使った地産地消、商品の販売戦略の構築となった。
- 2 月1回の常設店舗運営により、長岡市、ながおか未来創造ネットワーク等と連携協力し、まちなかの魅力創造と地域活性化、次世代の育成を図ることができた。
- 3 合同研修による生徒間連携と、講演会により常設店舗実施の共通理解と意識形成及びビジネス知識や知的財産権など、起業家意識の高揚を図れた。
- 4 新たな商品開発、販売を通じた「長岡CAT」の知名度の向上と、地域の専門高校の取組に対する理解の深化となった。また、オリジナルカップを使用した、カフェも軌道に乗り、長岡CATを広く市民へ浸透するきっかけとなった。

## 1 常設店舗運営のためのオリジナル商品の開発と地域食材を使った商品開発の取組について

### (1) 商品の開発や改良の実施

模擬株式会社長岡CATでは、これまで長岡農業高校が生産する米や花、加工品などの販売を行ってきた。その中で本年度は、本校が製造する長岡CAT定番商品「こめっころーる」の改良を実施した。

長岡CAT設立当初より販売されている「こめっころーる」は、地産地消をコンセプトに、長岡産米粉を使用した商品であった。しかし、大きさや価格、デザインなどよりプレミアム感を出し、知名度の向上のため、改良に取り組んだ。改良点として、米粉を長岡産から魚沼産のものを使用して材料にこだわった。また、サイズをひとまわり小さくして価格を抑えることとした。さらに、CATのロゴを生かしたデザインや包装方法にも工夫した商品にした。



＜こめっころーる製造＞

### (2) オリジナル商品の復刻と開発の実施

数年前、長岡CAT共同商品開発でMVPに輝いた「チェクレール」の復刻を行った。チーズタルトに洋なしやフルーツを乗せた商品の復刻となった。また、本年度新商品として、「米」を題材に、長岡の伝統食「おこわ」を、長岡花火をイメージして渦状に巻き込んだ「フェニックスパン」を製造した。その他にも、地域食材や長岡をテーマにした新商品の開発を行い、知名度の向上に努めた。



復刻「チェクレール」



新商品「フェニックスパン」

## 2 常設店舗運営「にゃーけっと」の運営と販売の取組について

### (1) 設立の経緯について

平成27年度以降のオンリーワン新潟未来プロジェクトにおいて、長岡CATは「第3のステージ」として「常設店舗」設置と運営を目標として取り組んできた。

平成27年度「準備」、平成28年「準備・市場調査」、そして平成29年「店舗運営」と位置づけ、長岡市やながおか未来創造ネットワーク、商工会議所などの指導と協力をいただき、常設店舗の店舗設計及び運営を行った。



常設店舗アオーレ会場

### (2) 「にゃーけっと」の名称について

常設店舗に先立ち、店舗名を生徒から公募して、取締役会で「にゃーけっと」と決定した。「にゃーけっと」の由来は、地域の人に覚えてもらいやすく、長岡CATらしさを出すことを

コンセプトに、「猫」のマスコットから、鳴き声である「にゃー」とお店の「マーケット」を組み合わせ、『にゃーけっと』と名付け、親しみやすい常設店舗名となった。



**店舗名の発表会議**



**常設店舗「にゃーけっと」とロゴ**

### (3) 常設店舗「にゃーけっと」の運営と販売について

平成20年に設立された長岡CATは、平成27年度よりプロジェクトの主課題として「常設店舗」の運営があった。この1年間、長岡市や、ながおか未来創造ネットワークとの連携と協力により、アオーレ長岡ホワイエを会場に月一回常設店舗を開催し、お客様の流れや商品の調達、会計の一元化などを実施できた。

昨年度より、アオーレ長岡のイベントでは、定番商品の販売だけでなく、オリジナルCATカップを使用した「カフェ」を導入し、常設店として役割を少しずつ構築してきた。

また、店舗名「にゃーけっと」が本年度正式に決まり、常設店だけでなく、この取り組みが各種のイベントで徐々に認知され、さまざまな方々のご協力とご支援により店舗運営ができた。

これらの活動が、微力ながらまちなかの魅力創造と地域活性化、次世代の育成に繋がったのではないかと考える。



**常設店舗「にゃーけっと」**



**常設店舗「にゃーけっと」販売**

## 3 合同研修実施による共通理解の促進と部署ごとの意識形成、組織運営の基本の習得

### (1) 合同研修会と企業講演会の実施について

平成29年6月17日、毎年恒例となっている、長岡CAT合同研修会を開催した。今年度の組織体制や運営について、長岡市の起業支援センターの高橋様より、「起業・常設店舗運営のための基本の「き」と題してご講演と生徒間のディスカッションなどを行った。また、オリジナル商品の決定や長岡まつり民謡流し練習など、常設店舗運営に向けた連携と意識形成、共通理解を図った。

### (2) 株主総会について

平成30年2月6日、模擬株式会社長岡CAT株主総会を実施した。常設店舗「にゃーけっと」設置1年目としての締めくくりとして、各校からの事業報告や収支報告をおこなった。

#### 4 常設店舗「にゃーけっと」や地域行事、イベントへの取組について

##### (1) 常設店舗「にゃーけっと」について

アオーレ長岡を会場とする常設店舗は7回（5月20日、6月10日、8月20日、9月2日、10月14日、11月11日、1月14日）を数え、その他のイベントを合わせると、月1回以上の出店となった。オンリーワン新潟未来プロジェクトの締めくくりとして、1年間の運営は試行錯誤の連続であった。しかし、様々な方々のご協力により、徐々に常設店舗としての機能を果たしてきた。アオーレ長岡には「にゃーけっと」がある、そんな役割を担っていきけるような、地域に貢献した店舗運営ができた。



「にゃーけっと」朝礼



「にゃーけっと」試食アンケート

##### (2) 地域行事やイベントへの参加について

毎年恒例の地域行事、イベントへの参加となった。特に「クリスマス」や「こどもドリームフェスティバル」参加は、販売だけでなくワークショップの開催、カフェの設置などもあり、生徒間の協力体制や地域社会への貢献も感じることができるようになった。

##### イベント参加日程

- 5月21日 県立歴史博物館「猫と人の200年～アートになった猫たち～」
- 8月1日 長岡まつり 大民謡流し（長岡市大手通）
- 9月24日 工業教育フェスタ（長岡工業高校）
- 10月7日 おっここ撰田屋市（長岡市宮内地域）
- 10月28日 長岡工業高校文化祭（長岡工業高校）
- 11月3日 長岡農業高校文化祭（長岡農業高校）
- 11月12日 長商全国食King～（E-Plaza）
- 12月9日 長岡CATのクリスマス（リバーサイド千秋）
- 12月16～17日 こどもドリームフェスティバル（アオーレ長岡）



大民謡流し参加



ドリームフェスティバル販売

## 5 農業高校代表として（模擬株式会社長岡CAT長岡農業高校代表 柿倉永遠）

「この一年、農業高校代表をさせていただきました。常設店舗「にゃーけっと」への参加だけでなく、ラジオ（FM新潟）に出演させていただきました、長岡CATや農業高校の商品説明など、長農ブランドを沢山の人の人知っていただけました。

また、今年は3校で常設店舗の運営を行い、多くのことを学ぶことができました。販売時には、早朝からの生菓子の製造がとても大変でしたが、仲間と協力して製造と販売ができたことは誇りに思います。今年は常設店舗の運営もあり、とても大変な一年でしたが、代表としてメンバーをまとめ、協力し合いやりきることができたのでよかったです。

今後は販売だけではなく、ボランティアに積極的に参加し、地域との関わりをもっと深いものにし、長岡CATをさらに発展してもらいたいです。」

## 6 総合所見

### (1) 成果と今後の展開

昨年まで模擬株式会社長岡CATの活動は、商品を持ち寄った販売と生徒連携がメインであった。その後、本事業の取り組みは、常設店舗「にゃーけっと」設置を目標に、「第3のステージ」として長岡市、企業支援センター、地元企業や生産組合の協力により、成長を遂げた。

特に、常設店舗を念頭に置いたプロジェクトは、起業家精神醸成、地域教育力活用、知的財産権や商品開発など、ビジネスに関する知識や能力、態度の育成と起業家意識の高揚を図るため、生徒間の交流や2回の県外視察研修を含め、これらの連携活動を通じて地域や社会の発展を担う人材の育成が図れたと感じる。

本年度より月一回の常設店舗「にゃーけっと」を、アオーレ長岡を会場に運営を行ってきたが、平成30年度には常設店舗の運営をさらに本格化させるため、喜ばれる商品の開発に取り組み、販売だけでなく地域の方々とのふれあいをとおして人材形成を行わなければならない。

### (2) まとめ

本校のプロジェクトは、長岡CATとしての取り組みの他に、農業高校として、地域の企業や生産組合との連携活動も取り入れながらの活動を行ってきた。

特に「農業」を取り巻く近年の社会情勢は非常に厳しく、後継者不足や耕作放棄地の増加、自給率問題など、多くの問題を抱えている。

このような中で、地域の方々と協力しながら、植物資源の発掘や新商品開発を行い、6次産業化や地域ブランドの確立などの地域連携活動により、これまで学習してきた知識や技術、技能をどのように伝え表現していくかなど、高校生が主体となって地域と関わりを持ち、地域に根ざした活動を行う長岡CATの活動は、生徒に自信をあたえ、生徒が実社会に出たときに、今までの学習が関連していることや、対話の中から思考を広げて判断し、将来、地域や社会に求められる実践力を身に付けた人材の育成に繋がると考える。

### (3) 今後の課題

長岡CATの活動も次年度からの常設店舗運営が非常に重要になってくる。

これまでの常設店舗の運営は、まだイベント要素が抜けていない面が多くある。模擬株式会社長岡CATとして、「にゃーけっと」の本格的な店舗の設置と運営にむけた場所、営業日、人員配置など、まだまだ多くの検討が必要である。

生徒がこの長岡CATの活動に主体的に取り組み、協力して商品開発や仕入れ、企業に発注するなどを行い、若い力とアイデアを形に変えていくような活動を続け、地域や社会の健全な発展を担い、活躍できる人材の育成を進めていきたい。

(様式1)

長 工 第 288 号

平成 30 年 2 月 21 日

高等学校教育課長 様

学番 37 県立長岡工業高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

長岡工業高等学校(長岡農業高等学校、長岡商業高等学校)

**【テーマ】** 地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成  
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!～

**【目標】**

- 1 常設店舗運営のための商品の選定、また、オリジナル商品の開発と販路獲得、販売戦略の構築
- 2 上記商品の常設店舗（アオーレ長岡ホワイエ内）での販売
- 3 「長岡CAT」合同研修の実施による共通理解の促進と部署ごとの意識形成、及び組織運営の基本の習得
- 4 地域行事やイベントへの積極的参加及びボランティア活動等による地域社会に貢献する意識及び高校生活満足度の向上

**【取組の概要】**

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等との連携による地域行事やイベントへの参加・出店
- 2 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等の指導、協力を得た常設店舗の店舗設計及び運営
- 3 オフィスラボ(榎熊ビル5F)を利用した「長岡CAT」合同研修の実施
- 4 感想文、アンケートによる「事後ふりかえり」の実施
- 5 「研究成果報告書」の編纂

**【取組の成果】**

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク、地元商工会議所等の協力を得て、アオーレ長岡「ホワイエ」内での常設店舗の出店と地域企業との連携によりオリジナル商品の開発をすることができた。
- 2 合同研修会を実施し学校間交流を行う中で「つながり」の意識が高まり、起業支援センターの講義を受け、店舗経営の基本的な知識を学ぶことができた。
- 3 長岡まつり「民謡流し」への参加等知名度向上のための取組やオリジナルイベント、地域イベントでの出店を通じて、地域の一員として貢献することの意義を再確認することができた。
- 4 「長岡CAT」の活動をとおして地域の方々とふれあうことの喜びや、他者と協力して物事を遂行することの大切さを学ぶことができた。

## 【平成 29 年度における取組の詳細】

平成 29 年

4 月 6 日(木)～10 日(月) 各クラスで校友会(生徒会)「長岡 C A T 委員」2 名の選出  
クラブ紹介で「長岡 C A T 同好会」の説明と勧誘活動

4 月 11 日(火) 第 1 回担当者(指導教員)会議

- (1)平成 29 年度の運営について (2)第 1 回取締役・監査役会について
- (3)合同研修会について

4 月 12 日(水) 長岡 C A T 委員会集會 取締役 4 名 監査役 6 名の選出

4 月 24 日(月) 第 1 回長岡市との連携協議

長岡市側の出席者 ながおか未来創造ネットワーク 川合事務局長・結城

- (1)平成 29 年度「長岡 C A T」の活動計画について
- (2)平成 29 年度の長岡市からの支援について
- (3)合同研修会について

4 月～9 月 オリジナル商品(Tシャツ、タオル、携帯電話ケース、バック)の開発(商品の決定、デザイン、販売価格の設定)の検討を行った。

5 月 9 日(火) 第 1 回取締役会議

- (1)平成 29 年度「長岡 C A T」の活動計画について
- (2)平成 29 年度の長岡市からの支援について
- (3)合同研修会について

5 月 20 日(土) 常設店舗「にゃーけっと」プレオープン アオーレ長岡ホワイトエにおいて出店



常設店舗「にゃーけっと」プレオープン

5 月 21 日(日) 「にゃーけっと」出店 「猫と人の 200 (にゃ～) 年ーアートになった猫たち」展  
新潟県立歴史博物館

5 月 25 日(木) 第 2 回取締役・監査役会

(長岡地区専門高校活性化会議)

- (1)各校役員の自己紹介
- (2)代表取締役社長選出選挙
- (3)今年度の活動及び参加・出店(予定)イベントについて
- (4)オンリーワンスクール

新潟未来プロジェクトについて

6 月 10 日(土) 常設店舗「にゃーけっと」プレオープン アオーレ長岡ホワイトエにおいて出店

6 月 13 日(火) 第 3 回取締役会議

- (1)合同研修会の内容と役割分担について
- (2)長岡まつり「民謡流し」の参加について

6月17日(土) 合同研修会 (於: オフィスラボ(榎熊ビル5F) 時間: 8時30分~17時00分)

内容 研修Ⅰ 長岡甚句と大花火音頭の踊りの習得

(昼食づくり=協力体制の構築)

研修Ⅱ 仲間づくりのためのグループワークトレーニング

研修Ⅲ 講義: 「起業・常設店舗運営について」

講師: 起業支援センターNAGAOKA 副センター長 高橋秀明 様

7月25日(火) 第3回担当者会議

(1)長岡まつり「民謡流し」参加についての最終確認

(2) おっここ撰田屋市について

8月1日(火) 長岡まつり「民謡流し」参加

8月8日(火) 県立専門高校メッセ「にゃーけっと」出店

8月20日(日) あそび・まなび体験ひろば参加&出店

9月2日(土) 常設店舗「にゃーけっと」オープン アオーレ長岡において出店



常設店舗「にゃーけっと」



オリジナル商品

9月15日(金) 第4回取締役会議及び担当者会議

(1) 今秋のイベント参加・出店について

①おっここ撰田屋市 ②運営各校文化祭 ③長商全国食King

④工業教育フェスタ

(2) 平成29年度常設店舗設営に向けた準備について

9月24日(日) 工業教育フェスタ「にゃーけっと」出店

10月7日(土) おっここ撰田屋市 出店 (於: 吉乃川酒造株式会社敷地内) 9:00~16:00

販売商品: メタルプレート 手織コースター など

10月14日(土) 常設店舗「にゃーけっと」アオーレ長岡において出店

10月28日(土) 長工祭(工業) 「にゃーけっと」出店

10月29日(日) 長工祭(工業) 「にゃーけっと」出店

11月11日(土) 常設店舗「にゃーけっと」アオーレ長岡において出店

11月11日(土) 長商全国食KING~「にゃーけっと」出店 (Eプラザ)

11月12日(日) 販売商品: オリジナルTシャツ・タオル、手織りコースター など

11月17日(金) 第2回長岡市との連携協議

ながおか未来創造ネットワーク 川合リーダー

(1) オリジナルイベント

「CATのクリスマス」について

(2) その他

12月8日(金) オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス」前日準備・会場設営(16:45 集合

17:00 準備開始 於: リバーサイド千秋アピタ1F イベントホール)

12月9日(土) オリジナルイベント「長岡CATのクリスマス～ニャンフォー2017～」開催 (於：リバーサイド千秋アピタ1F イベントホール)

〔日程概要〕

- (1)集合・点呼 8:00
- (2)朝礼 8:10 ～ 8:20
- (3)店舗設営 8:20 ～ 9:40
- (4)出陣式 9:40 ～ 9:55
- (5)販売等 10:00 ～15:30(売上げ集計)
- (6)片付け・清掃 15:30 ～16:30
- (7)解散・移動 16:30 ～

〔本校販売品〕

- (1)オリジナルTシャツ
  - (2)オリジナルタオル 等
- 〔本校ワークショップ〕
- (1)ミサンガづくり
  - (2)さかな釣り 等

12月11日(月) 合同研修会 (於：オフィスラボ(樋熊ビル5F) 時間：16時30分～17時30分)

研修 講義：「起業・常設店舗運営のための講評」

講師：起業支援センターNAGAOKA 副センター長 高橋秀明 様

第5回取締役会議及び第5回担当者会議



起業支援センターNAGAOKA 様の講演会



長岡CATのクリスマス

12月17日(日) アオーレ長岡イベント「こどもフェニックスフェスティバル」出店

(於：アオーレ長岡 アリーナ)

〔日程概要〕

- (1)集合・点呼 8:00
- (2)朝礼 8:10 ～ 8:20
- (3)店舗設営 8:20 ～ 9:40
- (4)出陣式 9:40 ～ 9:55
- (5)販売等 10:00 ～15:00(売上げ集計)
- (6)片付け・清掃 15:00 ～16:00
- (7)解散・移動 16:00 ～

〔本校販売品〕

- (1)オリジナルTシャツ
  - (2)オリジナルタオル
- 〔本校ワークショップ〕
- (1)ミサンガづくり
  - (2)さかな釣り

平成30年

1月10日(金) 第5回担当者会議

- (1)1月の常設店舗「にゃーけっと」の出店について
- (2)長岡CAT株主総会について
- (3)オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの報告書のまとめについて

1月14日(土) 常設店舗「にゃーけっと」アオーレ長岡において出店

2月6日(火) 模擬株式会社「長岡CAT」平成29年度株主総会(於:長岡工業高等学校 会議室)

- (1) 報告事項 事業報告及び各校活動報告
- (2) 議案審議 第1号～第4号議案
- (3) 指導講評 新潟経営大学経営情報学部 吉田一郎教授 学校評議員 ほか
- (4) その他



こどもフェニックスフェスティバル



株主総会

#### 【取組に対する生徒のアンケート結果】

##### 1 年度当初の取組に対する気持ち

- ・売るときのコツなど、役員はお話を聞く機会があつて良かった。
- ・活動が多くておどろいた。
- ・積極的に取り組めた。
- ・1年生の頃もやって楽しかったので2年生でもした。お客さんに積極的に声をかけた。
- ・全力で売ろうとしていたのでとても積極的な気持ちで臨めていたと思う。

##### 2 事前の活動に対する理解と当日の活動への積極性について

- ・しっかり取り組むことができた。
- ・ワークショップの事前に作り方を把握していたので、当日はスムーズにできた。
- ・地域の人に喜ばれていたのが良かった。
- ・自ら進んで参加できた。
- ・販売などはやったことが無かったが、意外と大変だった。

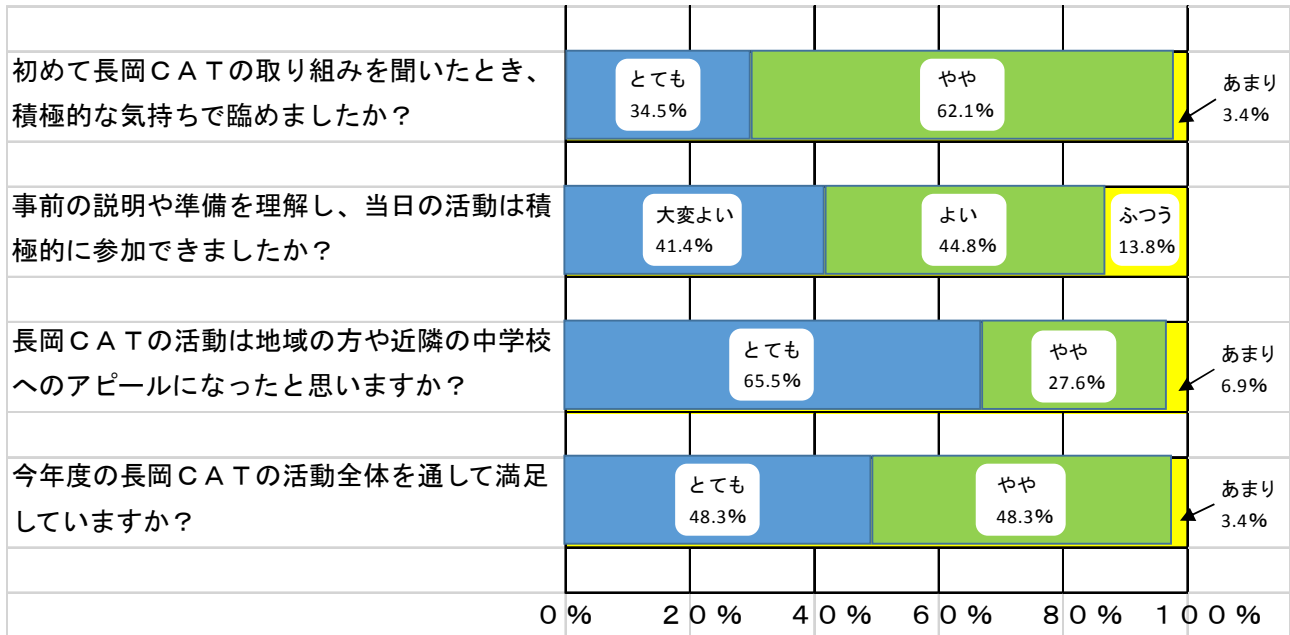
##### 3 活動の地域に対するPR度や地域の認知度について

- ・お年寄りや小さい子どもには伝わっていると思う。
- ・アオーレなどでたくさんお客さまがきたのでアピールになった。
- ・のぼり旗やはっぴ、PVも良いアピールになっていたと思う。
- ・ポスターなどでの宣伝があればもっといい。
- ・来てくれる人が多かったからとてもアピールになったと思う。

##### 4 今年度の活動の満足度

- ・工業に関しては宣伝が足りなかったと感じている。
- ・接客や商品売るコツなど、CATに関わらなかつたらあまり学べなかつたので良かった。
- ・役割分担をしっかりと取り組むことができたので良かった。
- ・もう少し農業や商業に負けないようにアピールしたらもっと良くなると思う。
- ・1年目は何も分からずに遅れてばかりいたが、2年目では1年目で学んだことを活かし、前もって行動したり後輩を引っ張ったりして積極的に活動ができた。

平成 29 年度「長岡 C A T」に関する生徒アンケート（長岡工業：対象生徒 29 名）



【総合所見】

長岡市やNPO法人「ながおか未来創造ネットワーク」との協議を重ね、平成 29 年度は年間 9 回、アオーレ長岡ホワイエ内で常設店舗の出店を実現することができた。また、地元企業と連携して、オリジナル商品の T シャツ、タオル、連帯電話ケース、バック等を開発して販売することができた。（長岡商業高校、長岡農業高校においても商品を開発して販売を行った。）

また、起業支援センターNAGAOKA 様からもご支援をいただき、起業の基本内容について学ぶこともできた。そして、生徒が地域を見つめ直し、地域の活性化に貢献する意識を育成することがで、高校生活の満足が向上した。

今後は、常設店舗を継続して、コンセプト(何を、誰をターゲットとしてどう売るか)について、3 校の共通認識を持ちながら、次年度は度早々に取締役の生徒を中心とした新体制作りを行い、常設店舗の運営確立をする必要がある。

(様式1)

長商 第192号  
平成30年2月9日

高等学校教育課長 様

学番38 新潟県立長岡商業高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

**新潟県立長岡商業高校(新潟県立長岡農業高校、新潟県立長岡工業高校)**

**【テーマ】** 地元理解と地域活性化を通じた海外をも視野に入れた経済的視点の育成  
～「緩やかな連携」から「強い絆」へ、長岡CAT第3のステージ!～

**【目 標】**

- 1 常設店舗運営のための商品の選定、また、オリジナル商品の開発と販路獲得、販売戦略の構築
- 2 上記商品の常設店舗（アオーレ長岡ホワイエ内）での販売
- 3 「長岡CAT」合同研修の実施による共通理解の促進と部署ごとの意識形成、及び組織運営の基本の習得
- 4 地域行事やイベントへの積極的参加及びボランティア活動等による地域社会に貢献する意識及び高校生活満足度の向上

**【取組の概要】**

- 1 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等との連携による地域行事やイベントへの参加・出店
- 2 長岡市、ながおか未来創造ネットワーク及び地元商工会議所等の指導、協力を得た常設店舗の店舗設計及び運営
- 3 セミナーハウス（長陵会館）を利用した「長岡CAT」合同研修の実施
- 4 感想文、アンケートによる「事後ふりかえり」の実施
- 5 「研究成果報告書」の編纂

**【取組の成果】**

- 1 ラボにて合同研修会を実施し3校の学校間交流を行う中で、「つながり」「強い絆」の意識を形成するとともに、起業支援センターの講義を受け、今年度の活動を振り返り、そして過去を振り返り、店舗経営の改善を行うことができた。
- 2 長岡まつり「民謡流し」、「歩行者天国」での出店によるPR活動、「全国産業教育フェア秋田大会」、常設店舗の運営、学校で学んだ知識を生かして地域イベントへの出店をとおして地域の一員として、地方創生に貢献する活動ができた。
- 3 長岡市、ながおか未来創造ネットワークの協力を得て、アオーレ長岡「ホワイエ」内にて常設店舗を運営することができた。地域に根ざした活動をさらに推進することができた。
- 4 模擬株式会社「長岡CAT」の活動をとおして地域の方々とふれあうことの喜びや、他者と協力して物事を遂行することの難しさや大切さを学ぶことができた。

## 【取組の概要】

### 1 「長岡CAT」の3校合同研修会（6月10日）

平成29年6月10日（土）、長岡市ラボにて、3校の生徒役員各10名（計30名）が参加して合同研修会を実施した。起業支援センターから「起業するための心構え等」の講義、研修会と盛りだくさんの内容を3校の生徒が協力して取り組んだ。特にキャラクターの名前をつける研修では、活発な討議がされ、「TAMARIN」と名付けることができた。長岡CATの3年間のテーマでもある「ゆるやかな連携」から「強い絆」をさらに強固にする合宿となった。

学校の垣根を取り払い、3校が連携すると大きな成果が上がることを特に感じた。次年度以降も3校の「強い絆」を育むだけではなく、ネクストステージをさらに模索し、発展する1年にしたい。

### 2 「長岡CAT」の知名度向上活動・地域貢献活動

#### (1) 歩行者天国（5月5日）出店

長岡大手通で毎月実施されている「歩行者天国」に2年連続で出店した。長岡市大手通商店街振興組合の方々の長岡市中心部の活性化に向けた熱意や考えを肌で感じることができ、有意義な1日となった。

生徒は今年度初めての出店ということもあり、戸惑いを隠せなかったが、店舗設営・接客について多くのことを経験し学んだ。お客様や関係者の方々と接することで予想以上に生徒は成長することができた。また、長岡CATのPRに繋げることもできた。



#### (2) 長岡ラーメン選手権（7月23日）出店

7回目のラーメン選手権出店ということで、今まで長岡市商工会議所青年部の方々や地域の方々から学んだ知識やノウハウ（前年は準優勝）を生かして準備から当日まで一貫した活動ができた。生徒たちが企画をしたラーメンが形となり、お客様に食べていただき、喜んでいただけたところに生徒たちも喜びを感じ、最後の一杯まで気を抜かずに頑張ってくれた。店舗経営をする上で、他校の店舗と競いながら、財務諸表から接客マナー、商品開発までの店舗経営の全てを学び、会社経営の難しさや楽しさ、商品に対する責任をイベントをとおして学ぶことができ有意義な1日となった。

結果として今年も準優勝だったので、今年の総括をしっかりと行い、改善し、地域に親しまれるような店舗経営を次年度も目指したい。

#### (3) 長岡まつり民謡流し（8月1日）参加

長岡まつり民謡流しに参加して3年目となる。地域の理解と郷土愛の醸成、長岡CATの知名度の向上のため、3校の役員が中心となって「長岡甚句」「大花火音頭」を精一杯踊った。3年目ということもあり、沿道の観客の方からエールをいただき、活動の成果を感じることができた。多くの企業の方や市民の方々と交流し、生徒たちが地域を愛し、地域の理解を深めるきっかけとしたい。そして、長岡CATを地域から愛される組織に育てていきたい。

#### (4)おっここ撰田屋市（10月7日）出店

醸造の町「撰田屋地区」で毎年行われる地域興しイベントに今年も出店した。個性豊かで創造的な活力のある地域社会づくりを目的としているところに共感し、9年前から参加させていただいている。

地域理解をする絶好の機会ととらえ、生徒は販売をとおして地域の方々と毎年ふれあい、撰田屋地域の歴史を学んでいる。

長岡CATの出店を楽しみにしていたお客様の笑顔に救われた1日となった。心が和む販売実習となり、生徒の得たものはとても多かったようだ。



#### (5)全国産業教育フェア秋田大会（10月21日～22日）出店

全国産業教育フェアに新潟県代表として前年に引き続いての参加となった。平成31年の全国産業教育フェア新潟大会を見据えて、展示販売部門の「全国高校デパート」に出店し、全国の14校と店舗運営を行った。参加している全ての学校が伝統校ばかりで、店舗運営の仕方や接客の仕方、商品開発、効果的なプロモーションの仕方など、学ぶことが非常に多かった。生徒も2日間にわたり、初めて県外で出店し、分からないことが多かったが、逆境にめげず2日間新潟県代表として来たことを忘れずに、また、長岡市のPRもしっかり行い、最後まで頑張ってくれた。長岡CATの中心役員6名が今年度1番成長したイベントとなった。



#### (6)長商全国食King～（11月11日～12日）出店

10年目の出店となる地域密着型イベントの長岡CATオリジナルイベント「長商全国食King～」を長岡駅前のE-P1azaにて出店した。今年度は予算削減の関係で新聞折り込みチラシの配布ができず、告知に苦慮したが、生徒の協力のもと長岡駅周辺約1000世帯にチラシを配布し、2日間とも盛況のうちに終わることができた。生徒もそうだが、我々教職員も原点に立ち戻って「足で稼ぐ」ことの大切さを感じさせられた実りの多い出店となった。

また、同日開催でアオーレ長岡にて「常設店舗」も運営し、長岡駅を挟んでお客様を動かす実験も行ってみた。成果はあまり上がらなかったが、生徒ともに戦略を練ることもでき、マーケティング戦略の難しさを体験できた。



#### (7)長岡CATのクリスマス（12月9日）出店

5年目となる地域密着型イベントの長岡CATオリジナルイベント「リバ千で商農工がコラボ ちょっと早い長岡CATのクリスマス～ニャンダフォー2017～」と題しリバーサイド千秋1階イベント広場で出店した。地域の方々の認知度も上がり、開店から多くのお客様にご来店いただいた。毎年、生徒は趣向を凝らし、準備段階から丁寧に過去を振り返り、また今年度のお客様ニーズを再検討し、さらに今年度行った全てのイ



イベントを見直し、地域の方々に喜んでいただくための品揃えなど、例年になく趣向を凝らしたものとなった。1年間で生徒たちは多くの経験をとおして大きく成長し、より良い店舗経営を自ら考え、行動することができるようになった。毎年、厳しい店舗運営になるが、生徒の成長が伺える楽しいイベントとして定着できている。次年度以降も1年間の集大成として臨めるイベントになるようにしたい。

#### (8)株主総会（2月7日）開催

今年度の総決算として「株主総会」が長岡工業高校会議室で開催された。3校の役員30名、未来創造ネットワーク（アオーレ長岡）、3校のPTA会長様、3校の株主など多くの方にご出席いただいた。多くの方々にご出席いただき、担当職員と生徒役員ともに緊張感が高まるものとなった。

株主総会においては、

- ①報告事項 1年間の事業報告および各校の事業報告
- ②議案審議 第1号～第4号議案
- ③指導・講評

以上の報告・審議がされた。

その中で、長岡CAT社長からは、

- ①3校の「強い絆」を築くことができた。
- ②長岡CATのPR効果が現れ、地域に根ざした活動になってきた。
- ③常設店舗の経営の礎を築くことができた。次年度以降も継続して欲しい

以上の成果が話された。

温かいご指導をいただき、次年度の活動の糧となった。今年度の長岡CATとしての総括と、3校それぞれの総括を行い、次年度の活動に反映させたい。

### 3 長岡市、ながおか未来創造ネットワークとの協力、常設店舗の定着に向けて

#### (1)常設店舗 出店

（5月20日、6月10日、8月20日、9月2日、10月14日、11月11日、12月16日・17日、1月14日）

昨年の県外研修（三重県立相可高等学校の生徒が運営している「まごの店」）を参考とし、常設店舗の運営・定着に向けた取組をおこなった。今まで行ってきたイベント出店と違い、常設店舗のPR活動に終始した8月までであった。各校の役員たちは通常のイベントと違い客足が遠く、お客のニーズの把握やストアコンセプトに迷いを感じる日々となった。転機となったのは、起業支援センターからのアドバイスとアオーレ長岡の援助だった。特にアオーレ長岡の常設店舗のPR活動（市報への掲載、オーロラビジョンによるCM、イベントカレンダーへの掲載、HPによるPR、アオラジへの出演・告知など）が大きな転機となった。9月以降は、僅かではあるがリピーターのお客も現れ、各校の生徒もこだわりの商品を揃え、常設店舗の定着に向けて努力を重ねてくれた。



常設店舗を継続して出店する難しさを痛感した1年であった。次年度も多くの方々から援助を

頂き、定着するように努力を重ねたい。

## (2)長岡こどもDREAMフェスティバル（12月16日～17日）出店

今年度最後の長岡CATのイベントとなった。3年目の出店ということもあり、「アオーレ長岡」「みらい創造ネットワーク」から多くの協力をいただき、最後のイベントを無事に終えることができた。初めての2日間開催だったが、生徒たちは、趣向を凝らし、集客するためのアイデアを出し、大盛況で終えることができた。1年間の経験の全てを出し切ることができた。

### 【総合所見】

- 1 3校合同研修会、長岡まつり民謡流しへの参加、3校合同でイベントへの出店（おっここ撰田屋市、長商全国食King～、長岡CATのクリスマス、長岡こどもDREAMフェスティバル）をとおして、3校の生徒の交流が深まり、「強い絆」を育むことができた。今後もこれらの活動を継続していきたい。
- 2 「アオーレ長岡」「未来創造ネットワーク」様の全面的なご支援により、常設店舗を出店することができた。生徒のアイデアと今まで培った知識・経験を融合し、長岡市民から愛される店舗経営を継続していきたい。また、出店回数を増やしてもいきたい。
- 3 多くの体験的な活動をとおして「長岡」の魅力を発見し、地域理解が深まった。特に3校での長岡地域に根ざした商品開発にそれぞれ成果を上げることができた。次年度はさらに長岡の魅力を発見し、市外へ発信することを「アオーレ長岡」「未来創造ネットワーク」様と検討し、実践してみたい。
- 4 しっかりと話し合い、基礎を固めて行った「常設店舗」の経営を実現できた。3校で試行錯誤を繰り返し、本年度最後の出店ではリピーターのお客が多く来場し、成果を実感できた1年となった。3校の「深い絆」をさらに強固とし、長岡市民のニーズに合った店舗経営を行いたい。
- 5 オンリーワンスクール未来プロジェクトの締めくくりとして、3校の専門性を生かし、長岡地域に根ざした活動を実施することができた。将来の長岡地域を支える人材の育成と長岡市とのつながりを育み、地方創生の一助となるように次年度以降も継続していきたい。

(様式1)

県央工 第 240 号

平成 30 年 2 月 21 日

高等学校教育課長 様

学番 4 4 新潟県央工業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

新潟県央工業高等学校(加茂農林高等学校、三条商業高等学校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト  
～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行う。

【取組の概要】

○3校が設立したNPO法人による活動

NPO法人トライ・フューチャーにより各校の特色を全面に打ち出した各事業企画を立案し、地域活性化に向けて取り組む。

○地域イベントへの積極的な参加及び開催

三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベント、ロボット競技大会や全国防災サミット、防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールする。

○教育・学習・体験ツアーの実施

観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。

○地域活性化のための諸活動

観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。高校生が発案した商品開発・販売活動をすることにより企業家教育に結びつける。

【取組の成果】

NPO法人活動を中心に連携して事業に取り組み、各校の強みを活かした複合的で高度化された新事業を行うことができた。地域連携や合同イベントを通じて、斬新で新しいアイデアを創造することにより、県央地域に貢献し発展させていく人材の基盤を作ることができた。

## 1 オンラインスクール新潟未来プロジェクト

新潟県央工業高等学校、三条商業高等学校、加茂農林高等学校の取組

### (1) 平成29年度NPO法人トライ・フューチャー理事会・総会の開催

- 1) 日 時 平成29年4月26日(水) 15時00分
- 2) 場 所 新潟県央工業会議室
- 3) 参 加 理事長(1名)、副理事長(2名)、監事(1名)、社員(9名)
- 4) 内 容 ①定款の変更(第23条)  
②事業計画書及び活動予算並びにその変更  
③事業報告及び活動予算  
④役員を選任、解任、(第17条)  
⑤ジェラートコンテスト表彰式並びに試食会

### (2) 三条マルシェへの出店

- 1) 日 時 平成29年5月7日(日)、7月16日(日)、10月7日(土)
- 2) 場 所 三条市中央商店街、昭和通り商店街、東三条商店街
- 3) 参 加 県央工業機械工作部
- 4) 内 容 ネームプレートや鋤起銅器の体験工作と販売。



### (3) アグリスタディーツアー

- 1) 日 時 平成29年5月28日(日)、10月21日(土)
- 2) 場 所 加茂農林高等学校
- 3) 参 加 県央工業課題研究焼き芋器製作班
- 4) 内 容 加茂農林高校の畑でサツマイモを植え、秋に収穫したサツマイモを県央工業高校で製作した焼き芋器で焼き試食を行った。
- 5) 感 想 「自分たちで植えた苗が成長し、焼き芋を作って食べてもらった時はとても嬉しかった。」「今年の焼き芋器で初めて焼きました。うまくできるか心配でしたが、うまく焼けて良かった。」

### (4) 7. 13メモリアルキャンドル

- 1) 日 時 平成29年7月13日(木)
- 2) 場 所 三条防災ステーション三条市水防学習館前広場
- 3) 参 加 県央工業建設工学科都市防災コース2・3年生
- 4) 内 容 加茂農林高校、三条商業高校に協力を依頼し、ろうそくで表現する文字等を県央工業高校でCADを用いて設計図を作成。713個のろうそくで「KIZUNA」の文字等を須頃小学校児童、県央工業高校生徒で協力して配置した。水害で亡くなった人たちを追悼し、支え合い、思いやりの心の大切さを次世代に継承していくイベントとなった。
- 5) 感 想 「みんなが分かりやすいものにと、シンプルなデザインにしました。中央のハート形には災害で被災した人たち全てが笑顔になれるようにとの思いを込めました。」



## (5) NPO法人トライ・フューチャー考案ジェラート販売開始

- 1) 日 時 平成29年7月24日(月)
- 2) 場 所 三条市福島新田直売所「ただいまーと」
- 3) 内 容 トライ・フューチャーの考案したジェラート3種類が販売開始された。「KORIS ジェラート」380円・「MOMO レクチュ」 「ピーチヨーグルト」320円
- 4) 感 想 「自分の案が選ばれると思っていなかった。試食会の時からおいしいと思っていた。」  
「自分たちが考えたものが形になって嬉しい。」



## (6) 防災キャンプ

- 1) 日 時 平成29年7月27日(木)
- 2) 場 所 三条市立大島小学校
- 3) 参 加 県央工業建設工学科都市防災コース2年代表
- 4) 内 容 地域の小中学生が水害について学び、非常食体験、避難所体験を高校生がリーダー役となってサポートした。



## (7) 第25回全国高等学校ロボット競技大会新潟大会

- 1) 日 時 平成29年8月26日(土)
- 2) 場 所 加茂市産業センター ホール
- 3) 参 加 新潟県央工業ロボット競技部
- 4) 内 容 ・アイデアロボット競技の部  
専門高校で学ぶ高校生が、毎年春に出題される競技ルールに従い、自らのアイデアで製作したロボットを操作し得点を競う競技  
・マイコンカーラリー競技の部



ジャパンマイコンカーラリー実行委員会の支給するマイコンボードを搭載し、独自に製作およびプログラミングした手作りのマシンで規定のコースを自走し、完走したスピードを競う競技

- 5) その他 上記大会は新潟県央工業が、(株)コロナの内田エネルギー科学振興財団の後援を受けて開催する。今年度はNPO法人トライ・フューチャーの協力を得て、三条商業からはいかパン、加茂農林高校からは農産物の販売を会場ロビーで行った。

## (8) 第6回 燕三条工場の祭典

- 1) 日 時 平成29年10月7日(土)、10月8日(日)
- 2) 場 所 北興商事株式会社
- 3) 参 加 新潟県央工業機械加工科3年生代表
- 4) 内 容 金属加工の産地、燕・三条地域とその周辺で毎年秋に開催される恒例イベント。日本を代表する多種多様な製品の製造過程を一般開放してワークショップや販売を行う。本校の生徒も2日間北興商事の方々と共に作業をしながらイベントに協力した。

## (9) 全国高校生防災サミット 2017

- 1) 日 時 平成29年11月10日(金)
- 2) 場 所 新潟県央工業高校 講堂
- 3) 参 加 兵庫県立舞子高等学校、宮城県多賀城高等学校、県立柏崎工業高等学校  
県立加茂農林高等学校、県立三条商業高等学校、県立新潟県央工業高等学校
- 4) 内 容 全国の防災を学ぶ高校生が交流し、互いに学習成果を発表すること等により、防災に関する学びを深め、その成果を広く伝播することを目的として開催
- 5) 式次第
  - ①開会式
  - ②防災・減災ワークショップ  
新潟気象庁による水害のメカニズムと防災・減災への取り組み
  - ③記念講演会  
講 師 NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李仁鉄 様  
演 題 「地域における防災活動～高校生の取り組みに期待すること～」
  - ④防災系学科教育活動報告  
多賀城高校、舞子高校、柏崎工業高校、新潟県央工業高校
  - ⑤パネルディスカッション 司会 李 仁鉄 様  
テーマ 「各校の防災教育活動から学んだこと」  
パネリスト 気象台担当者、多賀城高校生徒、舞子高校生徒、  
柏崎工業高校生徒、新潟県央工業高校生徒
  - ⑥高校生 防災・三条宣言2017
  - ⑦全国高校生防災サミット2017交流会
- 6) 感 想 「とても大きなイベントとなり、他県や他校の生徒も多く参加していたので、緊張した。大成功したと思う。」「交流会では思ったより早くうち解けることができた。楽しかった。」「都市防災コースで学んだことで、防災の輪をもっと広めて行きたいと思う。」

### 高校生 防災・三条宣言2017

平成16年7月13日、ここ三条市に大きな痛みをもたらした水害を経験し、ひとりで抱えることなくみんなで助け合い、その結果、「絆」が生まれました。

私たちは、日本全国で発生している災害を忘れてはいけません。災害の教訓を胸に刻み、命の大切さを考える場にしたいと思います。そして、私たち、高校生が新しい防災の道を切り開くこと、地域の防災リーダーとしてこの街を守ることをここに宣言します。

平成29年11月10日

新潟県央工業高等学校 生徒会副会長 近藤優希



## (10) 防災フォーラム in 三条

- 1) 日 時 平成29年11月11日(土)
- 2) 場 所 三条市水防学習館・交流広場
- 3) 参 加 兵庫県立舞子高等学校、宮城県多賀城高等学校、県立柏崎工業高等学校  
県立加茂農林高等学校、県立三条商業高等学校、県立新潟県央工業高等学校
- 4) 内 容 ①全国高校生防災サミット2017報告会  
②新潟県教育委員会あいさつ  
③三条市あいさつ  
④閉会あいさつ 新潟県央工業工業校長  
⑤記念撮影
- 5) 県外高校の観光案内  
①観光ガイド 三条商業高校生徒  
②参 加 多賀城高校、舞子高校  
③解散式 燕三条駅



## (11) 第2回高校生と先輩たちのユーストーク～青少年による座談会～

- 1) 日 時 平成29年11月18日(土)
- 2) 場 所 三条ものづくり学校 多目的ホール
- 3) 参 加 県立加茂農林高校、県立三条商業高校、  
県立新潟県央工業高校  
の代表生徒並びにOB、OG
- 4) 内 容 ①各校の取組発表会  
②各校の生徒およびOB、OGと地域の若者代表  
(聖工房 山本様)によるトーク  
座談会 司会：サンデー和田(新潟お笑い集団NAMARA)  
③各校PR・物販・焼き芋器のデモンストレーション
- 5) 感 想 「三条地域の一員として、これからも防災の視点から貢献できたら良いと思う。」



## (12) オール世代防災リーダーワークショップ

- 1) 日 時 平成29年12月9日(土)
- 2) 場 所 燕三条地場産業振興センターメッセピア
- 3) 参 加 建設工学科都市防災コース3年代表
- 4) 内 容 ①レクチャー「地域を支える防災リーダー、県央地域での活躍への期待」  
～頻発する自然災害への対応に関する全国的な防災リーダーの働き～  
講師 NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李仁鉄 様  
②パネルディスカッション  
③災害食試食タイム  
④意見交換
- 5) 感 想 「小・中・大学生の他、多くの人たちが防災にかかわる活動をしていることを知りました。都市防災コースの卒業生としてこれからも何かできれば良いと思いました。」

### (13) 災害時に役立つ用品の開発

- 1) 目的 災害時にライフラインが遮断されたときでも、身近にある廃材などを使用してコンロとして活用できる用品を開発する。
- 2) 用品 ドラム缶を活用した焼き芋器、鉄板焼き器の製作
- 3) 生徒 県央工業機械加工科課題研究焼き芋器製作班
- 4) 内容 廃材、薪、新聞紙などの他、ガスボンベを活用できる汎用性の高いコンロを製作した。NPO法人トライ・フューチャーの活動を始め、様々な場所へ移動して焼き芋器としてデモンストレーションを実施し好評を得た。



### (14) 7. 13 水害の水深リーフレットの考案・製作

- 1) 災害概要 平成16年7月13日、新潟・福島梅雨前線により新潟県中越地区を中心とした地域を大規模な集中豪雨が襲い、五十嵐川や刈谷田川など6河川11カ所が破堤し市街地は浸水するとともに、各地でがけ崩れなどが多数発生し、三条市では死者9名、重傷者1名、被害棟数10,935棟、被害世帯7,511世帯と甚大な被害を被った。
- 2) 目的 新潟県央工業校舎も甚大な被害を受け、渡り廊下には当時の水深を示す矢印が今も描かれている。都市防災コースの生徒はこの災害を風化させることなく、長きに渡って後輩に伝えていくことができるように渡り廊下に「水害のリーフレット」を設置することを考案し製作した。
- 3) 製作 建設工学科都市防災コース課題研究班



## 2 総合所見

今年度の中心的な取組として「全国高校生防災サミット2017」を県内外からの参加校と共に開催した。防災というキーワードを通じて多くの高校生が一同に集まり、互いに連携できたことは、これからの本校の防災活動の基礎となった。今後はこの輪を少しずつ広げながら防災リーダー人材の育成につながる活動に育てたい。

NPO法人トライ・フューチャーとして活動を開始して一番の変化は連携活動の幅が大きく広がったことである。高校と地域の垣根は意外に高く、NPO団体というフィールドがそれを押し下げてくれた。上記に述べた多くの取組を通じて生徒は、普段交わることの少ない小学生、中学生、大人との交流からコミュニケーション能力や積極性を身につけた。それが自信となって活動の前と後では明らかな変貌ぶりが現れている。次年度以降もこれらの活動を継続、進化させながら今までになかった新しい活動につなげたい。

(様式1)

三商第 203 号  
平成30年2月21日

高等学校教育課長 様

学番45 県立三条商業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

三条商業高等高校(新潟県央工業高等学校、加茂農林高等学校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト

～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行う。

【取組の概要】

- 3校が設立したNPO法人による活動  
NPO法人トライ・フューチャーにより各校の特色を全面に打ち出した各事業企画を立案し、地域活性化に向けて取り組む。
- 地域イベントへの積極的な参加及び開催  
三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベント、ロボット競技大会や全国防災サミット、防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールする。
- 教育・学習・体験ツアーの実施  
観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。
- 地域活性化のための諸活動  
観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。高校生が発案した商品開発・販売活動をすることにより起業家教育に結びつける。

【取組の成果】

NPO法人活動を中心に連携して事業に取り組み、各校の強みを活かした複合的で高度化された新事業を行うことができた。地域連携や合同イベントを通じて、斬新で新しいアイデアを創造することにより、県央地域に貢献し発展させていく人材の基盤を作ることができた。

# 三条商業高校の取り組みについて

## 1 主な活動の取組状況

- 4月26日 第1回3校合同委員会の開催（新潟県央工業高校）  
27日 五十嵐川土手整備（ゴミ拾い）
- 5月28日 アグリスタディーツアー（ふれあい農園）の参加（加茂農林高校）  
「三条まんま塾」総会での活動発表（三条市 四季の里 千翔）
- 29日 **NPO法人トライ・フューチャー理事会及び定時総会（新潟県央工業高校）**  
オリジナルジェラートコンテスト表彰式及び試食会（新潟県央工業高校）
- 6月 2日 **NPO法人トライ・フューチャー 関係書類一式提出（三条市役所）**  
8日 **資産総額の変更届提出（新潟地方法務局）**
- 7月 4日 オリジナルジェラート試食会（JAにいがた南蒲「ただいまーと」）  
21日 防災キャンプ in 三条打合せ（三条市役所栄庁舎）  
27日 防災キャンプ in 三条（三条市立大島小学校）  
24日 オリジナルジェラート一般販売（JAにいがた南蒲「ただいまーと」）
- 8月26日 ロボット競技大会参加（いかパン販売）（加茂市産業会館）
- 10月6日 金沢商業高校の高校生による観光ガイド視察（石川県金沢市兼六園、金沢城）  
～7日  
14日 三条商業高校学園祭（新潟県央工業高校、加茂農林高校参加）  
21日 アグリ・スタディー・ツアー（ふれあい農園）（加茂農林高校）  
28日 新潟経営大学、加茂農林高校、新潟県央工業高校3校への学園祭参加
- 11月10日 ・全国防災サミット in 三条への参加  
～11日 ・弥彦、県央地区の本校の生徒による観光ガイド実施
- 11月 8日 高校生と先輩たちのユーストーク打合せ（三条市青少年育成センター）  
18日 第3回高校生と先輩たちのユーストーク（三条市青少年育成センター）
- 1月20日 楽天IT学校甲子園2017 楽天市場部門出場 優勝
- 2月 5日 観光に関する講演会の実施（1学年対象）  
演題 「県央の観光資源と持続可能な取り組みについて」  
講師 新潟経営大学准教授 滝沢憲一 様

## 2 主な活動の取組の成果

### ○アグリ・スタディー・ツアー（ふれあい農園）の参加

加茂農林高校を会場にして春と秋2回アグリ・スタディー・ツアーを実施した。  
内容は加茂市内の小学生とその保護者に参加してもらい、春は数種類のさつまいもの苗を定植し、花の苗を植えた。秋は春に植えたさつまいもを収穫し、そのさつまいもを新潟県央工業高校の生徒がドラム缶を元にして制作した「焼き芋器」で焼き、全員でその焼き芋を食べ、さつまいもの炊き込みご飯を試食した。  
この企画には加茂農林高校の生徒を中心に、新潟県央工業高校、三条商業高校の生徒がNPO法人トライ・フューチャーの一員として、それぞれの学校の特徴を生かし、運営スタッフとして参加し大きな成果を上げた。

### ○オリジナルジェラートコンテストの実施

NPO法人トライ・フューチャーの最初の事業として、佐久間食品（株）でジェラテリア・ココを運営する佐久間様の全面協力のもとで、オリジナルジェラートコンテストを行い、3校の高校生がオリジナルジェラートのアイデアを出し合った。  
コンテストで入賞した3種類のデザートが商品化されることになり、試食会を重ね改良を加え、三条市福島新田のJA直売所「ただいまーと」のジェラートショップで販売された。地元の食材を生かし、地域色豊かなジェラートが完成し好評を得た。地域活性化の活動として地元の企業と連携して、商品開発をすることにより、起業家教育に結びつけることができた。  
また、NPO法人で組織する3校が協力してこの事業を企画運営することができた。

### ○石川県立金沢商業高校生による観光ガイドの視察

11月の「全国防災サミット in 三条」に参加する兵庫県の舞子高校、宮城県の多賀城高校の

生徒を招待し、新潟県の県央地区の防災学習を兼ねた観光ガイドを行うため、「観光」の分野の先進校である石川県立金沢商業高校の生徒が実際に行う観光ガイドを、本校の2年生の生徒3名及び職員1名で視察を行った。

当日は東京都立南大沢学園の修学旅行生約100名を20班に分け、それぞれの班に金沢商業高校の生徒1名が付いて観光ガイドを行った。場所は金沢城や兼六園で行った。本校の生徒2名は、実際どのようにガイドを行うのか修学旅行生の班に入り、視察の中でガイドを行っている金沢商業高校の生徒にガイドの方法、資料の作り方、ポイントなどを質問して、知識やノウハウを学んだ。

## ○全国防災サミット in 三条への参加

3年計画のオンリーワン新潟未来プロジェクト事業の集大成として、11月に2日間わたり、開催された。初日は新潟県立工業高校で行い、開会式から始まってその後、新潟地方気象台による防災気象情報を活用した安全行動のシミュレーションを行う気象庁ワークショップ、次にNPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク理事長 李 仁鉄様による「地域における防災活動 ～高校生に取り組みに期待すること」について記念講演が行われた。

防災系学科教育活動報告として兵庫県立舞子高校、宮城県立多賀城高校、柏崎工業高校、新潟県立工業高校による発表があった。最後に「各校の防災教育活動から学んだこと」をテーマにしてパネルディスカッションを行った。閉会後参加した招待した県外の高校2校と柏崎工業高校、三条商業高校、加茂農林高校、新潟県立工業高校の交流会が行われ、親睦を深めた。

2日目は会場を三条市水防学習館に移し、全国高校生防災サミット2017報告会を行った。来賓として新潟県教育委員会、三条市から出席していただき、各学校から防災サミット報告や各学校防災活動報告を行った。その後、防災・減災体験を行った。降雨体験車、地震体験車、非常食体験、防災ライト作りなどを体験した。それと平行して3校合同のNPO法人トライ・フューチャーの活動として三条商業高校のいかパン販売、加茂農林高校の農産物販売、新潟県立工業高校の焼き芋の無料配布などを行った。

2日間に及ぶこの企画は、後述する三条商業高校生による観光ガイドを含め、3校の専門高校生がNPO法人を組織し、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト事業の集大成の企画である。県内外の高校生を招待し、3校それぞれの学校が協力・連携して取り組み、今までにない新事業を行うことができ、生徒にとって貴重な社会的体験をすることができた。

## ○弥彦、県央地区の本校の生徒による観光ガイド実施

全国防災サミット in 三条が開催された2日目の11月11日（土）の午前10時過ぎから午後2時半頃まで、兵庫県の舞子高校と宮城県の多賀城高校の生徒を対象に本校の生徒3名が観光ガイドを実施した。この時期は全国有数の規模を誇る弥彦菊まつりの時期と重なったので、弥彦神社やもみじ谷付近中心にガイドを行った。

また、舞子高校のある兵庫県と多賀城高校のある宮城県はどちらも地震で大きな被害を受けた地域であることから、もう一つの見学地は大河津分水資料館を案内することにした。

新潟市や県央地域発展のきっかけとなった大河津分水路の見学とガイドを、NPO法人信濃川大河津資料館友の会の方から協力してもらい、本校の生徒が実施した。大河津分水の仕組みやその働きについて学んだ。他県の生徒は、実際に日本海方面に向かって流れる大河津分水路を見てそれが自然の川ではなく、人工の川であることに驚き、感心した。

今回のガイドは単なる観光ではなく、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの活動目的であるである観光と防災と環境の3つの視点から考えた取組となった。

生徒にとってガイドは初めての経験であったが、事前に観光ガイドの先進校視察を行ったので、予想以上に成果を上げることができ、大変有意義なものとなった。

## ○高校生と先輩たちのユーストーク

今年で3回目となるこの企画は、三条市青少年育成市民会議が主催し、三条市教育委員会とNPO法人トライ・フューチャーの共催で行われた。司会は新潟お笑い集団NAMARA所属のサンデー和田氏が担当した。

最初にNPO法人トライ・フューチャーを組織する3校の活動報告があった。本校は今年商業クラブの活動として「安心・安全な食育が地域貢献につながる」をテーマに報告を行った。

その後、各学校の先輩（卒業生）とのフリートークがあった。

物販販売としては本校の定番のいかパン、新規に企画したドライフルーツのはちみつ漬けの販売を行った。加茂農林高校は学校で栽培したネギ、白菜、梨、シクラメンなどの販売を行い、新潟県立工業高校は自作した「焼き芋器」の実演を行い、無料で配布した。

3校の専門高校生がNPO法人を通して、それぞれの専門分野を生かした活動報告を行うことにより、お互いの連携を深め、一体感を得ることができた。

### ○楽天IT学校の取り組み（楽天（株）及び地域企業との連携）

「楽天IT学校」は、インターネット・ショッピングの運営の実体験を通じ、実践的な電子商取引を学ぶことができる授業で、インターネット・ショッピングモール「楽天市場」の店舗ノウハウを高校生向けにアレンジした内容である。生徒は一年を通して、インターネット販売における販売戦略の立案、販売ページ作成による売り場の構築、商品企画、販売までを実践していく。授業は楽天スタッフに加え、「楽天市場」ショップ「株式会社シバデン」を運営する地元企業が講師を務めた。

創造ビジネスコース3年生1クラスの生徒を7班に分け、各班が販売商品を選定。生徒が立案した販売企画は、講師を務める「株式会社シバデン」の楽天市場にて実際に販売された。また、「楽天IT学校」を実施している全国55校の代表チームが集まって、1月に成果発表「楽天IT学校甲子園」を行い、本校代表チームは予選をトップで通過し本戦に出場、楽天市場部門で優勝した。

高校生たちが普段見ることのできないネットショップオーナーの試行錯誤を知り、“商品を売る難しさ”や“働くことの大切さ”への理解を深めるとともに、グループワークやプレゼンテーションなどコミュニケーション能力の育成にもつながる授業であり、校内発表会や楽天IT学校甲子園など大勢の前で発表を行うなど、有意義で貴重な体験ができた。また地域企業と連携した取り組みの中で、地域活性化の視点から起業家教育に結びつけることができた。

## 3 総合所見

今年度のオンリーワンスクール新潟未来プロジェクトの活動は、3年計画の最後の集大成の年となった。

最初の1年目は3校の専門高校生が県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクトをテーマに専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取り組みを行うことを目標にスタートした。この活動を通して社会的な自覚と責任を生徒に身に付けさせるため、NPO法人を設立することになった。

設立にあたり、生徒をNPO法人の理事にした場合の生徒の負う責任のリスクや、県の事業をNPO法人で行う場合の組織編成の課題、さらに単独の高校でNPO法人を設立した例は全国で数校あるが、3つの高校が合同で行うNPO法人は全国でも例がなく、まずこれらのハードルを一つずつクリアしていくことから始まった。

初めての試みであることから定款作成等手続きに時間がかかってしまい、当初の予定より遅くなったが2年目の1月によりやく設立の運びとなった。

3年目の最後の年はオリジナルデザートコンテストや春のアグリ・スタディー・ツアーから始まり防災サミットin三条、高校生による観光ガイド、高校生と先輩たちのユーストークなど1年間の活動を3校が合同でおこなった。3校の専門高校生がそれぞれの活動目的である観光・防災・環境をテーマにして活動することにより、各校の特色を生かすことができた。

特に防災サミットin三条では本校の活動目的である観光について単なる物見遊山的な観光ではなく、県央地域の防災・環境に絡めたテーマと目的を持って観光ガイドを実施できた。また、3校の生徒が共同作業を進めていく中で、将来社会に出て働いていくための資質を養うことができた。最後にこのオンリーワン新潟未来プロジェクト事業をNPO法人化することにより、他のNPO法人や団体から声がかかったり、協力をしていただいたり、新聞社などの報道機関からの取材を受けたり、対外的な認知度が増した。

## 4 主な活動風景

4月 五十嵐川土手整備（ゴミ拾い）



5月 三条「まんま塾」での活動発表



5月 NPO法人トライ・フューチャー  
理事会。定時総会



7月 オリジナルジェラード一般販売



7月 防災キャンプ i n 三条



8月 ロボットコンテスト (いかパン販売)



10月 高校生による観光ガイド視察



10月 アグリ・スタディー・ツアー  
サツマイモ収穫 (その1)



10月 アグリスタディツアー  
焼き芋作り・試食 (その2)



11月 全国防災サミット i n 三条  
発表会 (その1)



11月 全国防災サミット in 三条  
気象庁ワークショップ (その2)



11月 高校生による観光ガイド  
大河津分水資料館



### 「楽天IT学校」の活動風景

授業風景 (その1)



授業風景 (その2)



授業風景 (その3)



12月 校内発表会



1月 楽天IT学校甲子園2017  
(その1)



1月 楽天IT学校甲子園2017  
(その2)



(様式1)

加 農 第 359 号

平成 30 年 2 月 22 日

高等学校教育課長 様

学番 4 9 県立加茂農林高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

加茂農林高等学校(新潟県中央工業高等学校、三条商業高等学校)

【テーマ】 県央地域に最新未来都市を創造する地域活性化プロジェクト

～レトロフューチャーからリアルフューチャーへ～

【目標】

災害に強く、豊かな生活環境を保ち、地域の歴史や文化を守りながらも若者が集い、活気あふれる街を創造し、最新の未来都市、「リアルフューチャー」な都市のイメージを県央地域に創造することを目指し、専門高校生が観光・防災・環境の3つの視点から新たな未来都市作りに資する取組を行う。

【取組の概要】

○3校が設立したNPO法人による活動

NPO法人トライ・フューチャーにより各校の特色を全面に打ち出した各事業企画を立案し、地域活性化に向けて取り組む。

○地域イベントへの積極的な参加及び開催

三条マルシェ、三条市のイベント等の地域イベント、ロボット競技大会や全国防災サミット、防災フォーラムを開催し、地域に参加をアピールする。

○教育・学習・体験ツアーの実施

観光・防災・環境の3つの視点を取り入れた「教育・学習・体験ツアー」を企画・立案し、県内外に案内して参加者を募り、高校生ガイドが案内する。

○地域活性化のための諸活動

観光・防災・環境をテーマにして、地域活性化のための新商品の開発、防災標識の設置、自然ふれあい体験等を展開する。高校生が発案した商品開発・販売活動をすることにより企業家教育に結びつける。

【取組の成果】

NPO法人の活動を中心に連携して事業に取り組み、各校の強みを活かした複合的で高度化された新事業を行うことができた。地域連携や合同イベントを通じて、斬新で新しいアイデアを創造することにより、県央地域に貢献し発展させていく人材の基盤を作ることができた。

# 1 オンラインスクール新潟未来プロジェクト 加茂農林高等学校における事業報告

## (1) 防災キャンプ高校生ボランティア … 平成 29 年 7 月 27 日(木) 三条市立大島小学校

三条市では、被災時に自らの危険を回避するのに必要な技術や知識を児童生徒が体験的に学習し、「生き抜く力と姿勢」を育むことを目的とした防災キャンプを毎年開催している。

今年は大島中学校区の小・中学生 51 名が参加し、3 校の高校生が防災キャンプ・体験プログラムのサポート役を務めた。本校からはボランティアで希望した 6 名が参加した。

本校から参加した生徒は全員 1 年生で、ボランティア経験も少なく、子どもたちの扱いに慣れていないこともあり、思うように進まないことも多くあった。しかし、担当したグループをうまくまとめるため、同じグループ内の大学生や他校生徒と協力し、子どもたちの目線で物事を考え、注意して声をかけるなど、絶えずコミュニケーションを図っており、イベントを成功させ達成感を得たことは、今後の取組を進める上で貴重な経験であった。



避難所開設体験：施設班



避難所開設体験：調理班



高校生ボランティア解散式

## (2) 全国高校生防災サミット 2017 … 平成 29 年 11 月 10 日(金) 新潟県央工業高等学校

全国の防災を学ぶ高校生が交流し、互いに学習成果を発表すること等により、防災に関する学びを深め、その成果が広く伝播することを目的に開催された。

県外からは兵庫県立舞子高等学校、宮城県多賀城高等学校の 2 校、県内からは柏崎工業高等学校、新潟県央工業高等学校、三条商業高等学校、加茂農林高等学校の 4 校が参加し、本校からは NPO 法人理事と青海会（生徒会）・農業クラブ役員、計 12 名が参加した。

防災についてあまり知識のない中でのサミット参加だったが、県央地域で発生した水害を体験した生徒も多く、その経験から積極的に発言する場面が多く見られた。また、サミット終了後に行われた交流会では、NPO 法人オリジナルジュラートを試食しながら、お互いの学習内容や学校での様子を情報交換するなど終始和やかな雰囲気、予定された 1 時間はあっという間に過ぎてしまった。



防災系学科教育活動報告



気象庁ワークショップ



サミット参加者交流会

### (3) 防災フォーラム in 三条 … 平成 29 年 11 月 11 日(土) 三条市水防学習館

防災フォーラム in 三条には、前日開催された全国高校生防災サミットの参加者が引き続き参加した。全国高校生防災サミット 2017 報告会では、地域の方々に高校生による防災・減災の取組を広く知ってもらえる貴重な機会となった。

その後に行われた県外生徒の地域観光にも同行し、三条商業高等学校の生徒による案内のもと、弥彦神社と大河津分水資料館を見学した。弥彦神社では菊まつりが開催されており、本校バイテクコースが展示している古典キクについての説明を行った。

防災・減災体験ワークショップでは、来場者が楽しみながら防災・減災を学べるプログラムが準備されており、本校からは季節の野菜や草花、果物販売の他に、緑地工学コースの生徒による my 箸づくりの体験ブースが参加し会場を盛り上げた。当日は大荒れの天気で来場者が少なかったのは残念だったが、来場された方々へ良い PR ができた。



全国高校生防災サミット 2017 報告会



地域観光：弥彦神社



農産物販売

### (4) 第 3 回高校生と先輩たちのユーストーク … 平成 29 年 11 月 18 日(土) 三条ものづくり学校

次世代を担う青少年が社会の一員として積極的に意見表明できる機会を設けることで、青少年の社会参加の意識を高め、青少年のふるさとへの愛着と誇りを醸成させ、未来を切り拓く人材の育成を図ることを目的に開催された。本校からは 6 名が参加した。

『地域の活性化を考える』をテーマに各校の取組が紹介され、地域で活躍している先輩たちとのフリートークで意見交換を行った。本校からは、「農業高校生が地域を盛り上げる」と題して加茂市内での外部連携事業について発表を行い、参加者から高い意識を持って地域の活性化に貢献しているという高評価を受けた。会場には学校紹介用パネルや農産物販売ブースが設けられ、来場された方々に生徒が積極的に説明し、短い時間ではあるが本校の魅力を広めることができた。



取組発表



フリートーク



農産物販売

## (5) 各種イベントへの農産物等の販売

- ア 三条マルシェ … 平成 29 年 7 月 16 日(日) 東三条商店街 他  
イ 新潟県高等学校ロボット競技三条大会 … 平成 29 年 8 月 26 日(土) 加茂市産業センター  
ウ 三条商業高等学校文化祭 … 平成 29 年 10 月 14 日(土) 三条商業高等学校

3校が協力して各種イベントを盛り上げた。  
本校の農産物販売を通して、本校のPRにもつながったものと考えている。

また、生徒は他校生徒との交流を通して、普段あまり見ることのできない他校の様子を知ることができ、参加した生徒たちの視野を広げる活動ともなった。



三条マルシェ出店

## (6) 地域循環型農業に関する講演会 … 平成 29 年 11 月 29 日(水)

講師：有限会社フジタファーム代表取締役 藤田 毅 氏  
対象：生徒・教職員 650 名

「地域循環型農業の実践」と題して、全校生徒対象の講演会を実施した。講師からは、耕畜を主体とした地域循環型農業や直営のジェラート店運営など6次産業化の取組について具体例を用いてご説明いただいた。講演の最後には、今後の地域農業の活性化を進めるにあたり、高校生に期待することについてもお話いただいた。

講演を聴いた生徒から、「循環型でかつ利益につながる農業に興味をもった」、「現場を見ることがや信頼できる仲間を作ることの大切さを感じた」などの感想があり、学ぶものが多い講演会だった。



講師：藤田 毅 氏



フジタファームにおける地域循環型農業の取組説明



## (7) 体験型観光農場に関する農業体験プログラム：アグリ・スタディー・ツアー

- 第1回：平成 29 年 5 月 28 日(日) サツマイモの定植、草花寄せ植え体験 62 名参加  
第2回：平成 29 年 10 月 21 日(土) サツマイモの収穫体験、焼き芋試食 80 名参加

高校生と地域の方々をつなぎ、地域の子どもたちに農業の楽しさや命の大切さを学んでもらうことを目的に、農業クラブ役員が中心になって、小中学生向け継続型農業体験講座「アグリ・スタディー・ツアー」プログラムを考案し、年2回実施した。

今年度よりNPO法人トライ・フューチャー事業として、新潟県中央工業高等学校、三条商業

高等学校の生徒も活動に参加し、子どもたちとの交流を楽しんだ。第2回目では新潟県中央工業高等学校の手作り焼き芋機が大活躍し、参加した全員で収穫の喜びを実感した。

参加した保護者からは、「普段は土をいじる機会が少ない子どもだが、生徒の皆さんがやさしく丁寧に教えてくれて、楽しく農業に触れることができた」、「自分たちが植えたサツマイモを収穫し、調理して食べるというツアーの内容に感心した」、「毎日、食や生命に触れて学校生活を送っている農業高校の素晴らしさを感じることができた」、「子どもは収穫に喜び、大きな虫に驚き、おいしい焼き芋をお腹いっぱい食べて、大満足の日だった」など、うれしい感想が寄せられた。

トライ・フューチャー事業として初めて参加した他校生徒からは、「普段体験できないようなことをすることができて楽しかった」、「農作業をとおして、とてもやりがいを感じた」、「普段、私たちが食べている野菜の生育や農業に触れることができる良い機会だった」など、アグリ・スタディー・ツアーに参加して良かったという声が多く聞かれた。

指導役の生徒からは、「子どもたちと触れ合うことができて、楽しかった」、「自分たちが活動することで、喜んでくれる人がいたことがうれしかった」「子どもたちに対する接し方や距離感が分からず、難しかった」、「自分のコースではできないことを体験できたので、とても楽しかった」などの意見が出て、アグリ・スタディー・ツアーを成功させた達成感と同時に、人に教えることの難しさを実感する貴重な機会となった。

トライ・フューチャー事業として、今年度より3校連携の取組として実施したが、各校の特色を活かした内容となるよう今後、しっかりと総括を行い、次年度に活かしていきたい。



草花の寄せ植え体験



サツマイモの収穫体験



手作り焼き芋機

## 2 総合所見

昨年の1月に設立したNPO法人トライ・フューチャー事業を本格始動するため、本年度は全国高校生防災サミット2017・防災フォーラム in 三条の開催や三条マルシェ等の地域イベントへの積極的参加など、各校の長所を活かして連携し、活動の質を高め、成果に結びつけた年となった。

特にアグリ・スタディー・ツアーでは、新潟県中央工業高等学校、三条商業高等学校の生徒も活動に参加し、子どもたちと一緒に農業体験を行った。次年度、この事業を深化、発展させるための課題として、NPO法人の安定的な運営と3校が無理なく特色を出し合う連携の具体的な方策があげられる。例えばオフィシャル商品の開発、販売活動を通して、広く地域の方々に認知され、支援者を増やすことなどが考えられる。

今後とも、地域密着型の様々な事業を、3校の特色を生かしながら生徒が主体的に取り組むことで、将来この県央地域を支えていく人材の育成につながるような活動にしていきたい。



(様式1)

栃高第 191 号

平成30年2月20日

高等学校教育課長 様

学番 40 県立栃尾高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

| 新潟県立栃尾高等学校  |                                |                                  |    |
|---|--------------------------------|----------------------------------|----|
| <b>【テーマ】</b>  |                                | 地域とともに進める学校づくり<br>～将来の自己実現を目指して～ |    |
| <b>【目標】</b>   |                                |                                  |    |
| 1 組織的・計画的なキャリア教育の実践をとおして、総合学科の特性を發揮した教育に取り組む。                               |                                |                                  |    |
| 2 地域の企業や福祉施設、幼保、小・中学校、行政、住民等との連携・交流を推進する。                                   |                                |                                  |    |
| 3 新たな問題の解決や探求活動に主体的、創造的に、協働して取り組む態度や能力を養う。                                  |                                |                                  |    |
| <b>【取組の概要】</b>  |                                |                                  |    |
| これまでの本校教育活動に、地域の住民、産業、行政とその相互交流事業を加えると共に、地域の自然、歴史及び文化等の再認識をすることで、郷土愛の醸成を図る。 |                                |                                  |    |
| 1 地域の人材を活用した取組や体験活動等を実施する。  |                                |                                  |    |
| 2 世代間交流をとおした学校づくりのため、生徒と住民が集う地域コミュニティの場をつくる。                                |                                |                                  |    |
| <b>【取組の成果】</b>  |                                |                                  |    |
| 評価項目  | 実際の取組例                         | 評価方法                             | 評価 |
| 1 地域に対する愛着と誇りの醸成  | (1) 地域探訪の実施                    | ・ 生徒アンケート、感想                     | 3  |
|   | (2) 地域探訪展の実施                   | ・ 職員、地域の方からの感想                   | 3  |
| 2 学校と地域の活性化   | (3) 地域PRビデオの制作                 | ・ 職員、保護者等の感想                     | 3  |
|   | (4) LINE スタンプの制作販売             | ・ 職員、地域の方からの感想                   | 3  |
| 3 地域に求められる学校へ   | (5) 来て！見て！作って！<br>体験フェスティバルの実施 | ・ 来場者および生徒感想、<br>職員の感想           | 3  |
|   | (6) 商品開発と販売                    | ・ 生徒、職員、地域の方からの感想                | 3  |
| 「評価」 3：達成できた 2：概ね達成できた 1：達成できなかった<br>(内容については、別紙参照)                         |                                |                                  |    |

# 1 実際の取組例

## (1) 地域探訪（地元外部講師による栃尾地区の町並み・歴史・産業等の理解）

### ① 目的

日頃の学校生活から離れ、学校のある地域の自然や名所・歴史に触れ、地域理解を深めるとともに、伝統文化を体験することにより地域への愛着を醸成する。

### ② 取組の概要

#### (ア) 実施日時

平成 29 年 10 月 6 日（金） 10:00～16:00

#### (イ) 内容

#### ● 1 年

😊 は、写生ポイント

SHR  
8:40～8:50

→

前期終業式  
8:55～9:25  
制服着用

→

学校出発  
10:10  
1組2組3組  
の順で出発

→

新刈谷田橋 → 新金橋 → 栃尾新町 →

😊

大町 雁木通り

→

大布橋

→

谷内通り

→

西蔵寺小路

→

神明橋

→

😊

表町 雁木通り

→

雁木の駅

→

入道坂

→

😊

秋葉公園（秋葉神社、奥の院石川雲蝶彫刻、上杉謙信公像）

→

😊

常安寺

→

とちパル

→

谷内通り

→

栃尾本町

→

文化センター

→

12:30（昼食）

→

文化センター

→

美里絵制作

→

13:30～15:10

→

学校到着

→

終礼

→

15:20

#### ● 2 年

午前 全生徒体験 おかめカボチャ絵柄付け

午後 コース別体験 コース1「栃尾消防署員による救命救急法講習会」

コース2「〈あげお・あげみ〉レジンマグネット作り」

コース3「〈あげお・あげみ〉マスコットづくり」



#### ● 3 年

自然コース ふるさと交流広場、道院高原巡り

歴史コース 永林寺、西福寺開山堂巡り

### ③ 取組の成果（生徒感想：抜粋）

・今回の体験を通じて、昔ながらの伝統が体験できて良かったです。絵を描いてみて発想の力が欠けていると思ったので、何事にも全力で取り組んでいきたいと思います。

・地域探訪に行くまでは、秋葉神社に彫刻作品があるという事くらいしか知らなかったが実際行って作品を見たりガイドさんの話を聞いたりして 石川雲蝶について興味を持てた。



- ・栃高のマスコットキャラクターあげお・あげみを実際に作ることで、より地域に貢献することができたと思う。班のみんなで協力して、「どんな風にしたらよいか」など考えて作業を分担できたのも良かった。なにより楽しく作れたのが良かったと思う。

## (2) 地域探訪展

### ① 目的

地域に関する学習成果を栃尾文化センターに長期間展示することで、栃尾地区の魅力を施設に集う地域住民に広く浸透させるとともに、施設利用者の増加に貢献して地域を活性化させる。



### ② 取組の概要

#### (ア) 実施場所・日時

場所 長岡市栃尾文化センター

日時 平成 29 年 12 月 16 日（土）～平成 30 年 1 月 8 日（月）9:00～17:00

#### (イ) 内 容

開催初日となる 12 月 16 日（土）に行ったオープニングセレモニーには、来賓として、今年度本校の地域連携の取組にご尽力いただいた皆様にお越し頂き盛大に行うことができた。また、地域の園児や中学生もお祝いに駆けつけてくれ、栃尾地域の魅力や本校の取組について発信することができた。

展示は地域探訪での学習内容をはじめとし、各系列・部活動等で地域に関する取組を時系列で展示し、来場者に栃尾地域及び栃尾高校の魅力を発信することができた。

### ③ 取組の成果

地域でご活躍されている講師先生の作品も展示することができたことにより、日頃栃尾高校を身近に感じる機会が少ない方にも足を止めていただくことができ、栃高生の取組を知ってもらえることができた。

## (3) 地域PRビデオの制作

### ① 目的

栃尾地域の魅力をPRする。

### ② 取組の概要

#### (ア) 取組期間

平成 28 年 2 月～平成 29 年 10 月

#### (イ) 内 容

- 音楽選択者がテーマソング制作。
- 体育の授業でダンスを制作。
- 生徒会総務や美術部写真班がこれまで地域探訪等で訪れた場所等のビデオを撮影。
- 生徒会総務を中心にビデオの構成等を考え、地域の方から編集指導を受け完成させた。



### ③ 取組の成果

今年度のキーワード「発信」の方法について検討した結果、PRビデオを制作することにした。ビデオで使用する曲やダンスについては、授業で取り組み各教科が連携してDVDに仕上げることもできた。

長岡市の「アオーレ長岡」の大画面で3ヶ月間の上映をしていただくことになり、栃尾高校・栃尾地域の魅力を発信できた。



#### (4) LINEスタンプの制作・販売



##### ① 目的

SNSで使用するLINEスタンプを製作・販売することで、より幅広い年代に本校をPRするとともに、新たなメディアの商品を生み出すことで、生徒に自信と達成感を持たせる。

##### ② 取組の概要

- 平成 28 年 3 月上旬 生徒会がアンケートを作成し、どのようなスタンプがいいか意見を集約した。
- 3 月中旬～ 美術部を中心に、あげお・あげみの絵を作成した。
- 平成 29 年 4 月上旬～ 科学部を中心に、文字を入れた画像に加工し、LINE スタンプの形式にした。
- 4 月下旬 申請、許可

##### ③ 取組の成果

広く全国に「あげお・あげみ」を発信することが出来た。様々な人に興味をもってもらうことができ、ネットユーザーを中心に本校の取組にも関心をもってもらえた。

#### (5) 来て！見て！作って！体験フェスティバルの実施

##### ① 目的

栃尾高校での活動で得た知識や技術を活かし、地域の子どもたちに、夏休みの自由研究のヒントを提案するとともに、イベントをとおして栃尾地域や栃尾高校の魅力を伝える。

##### ② 取組の概要

###### (ア) 実施日時

平成 29 年 8 月 10 日(木) 13:00～16:00

###### (イ) 内 容

| 企画                      | 企画名       | 内容   |
|-------------------------|-----------|--|
| 企画①<br>13時～             | 書道パフォーマンス | 書道パフォーマンス<br>(20分)   |
| 企画②<br>13時30分から15時30分まで | 押し花教室     | ・「とちおしおりに作って」<br>農芸部の生徒が準備した押し花を使いラミネートでしおり製作。<br>加フリー。制限なし。   |
|                         |           | ・「押し花アクセサリ」<br>押し花を閉じ込めたレジックアクセサリ作り。<br>(13:30、14:15、15:00の10人×3回のみ実施)   |
|                         | 体力診断      | ・「あなたの体力は何歳？」<br>何種類かの器具を用いて体力測定診断をおこなう。参加フリー。   |
|                         | おもしろ商業教室  | ・「100円ピッタリ？」<br>何種類かのお菓子等を計算して100円ピッタリなお買い物をする。<br>無事にピッタリならかわいくラッピングしてお持ち帰りできる。<br>参加フリー。1人1回。                                      |
|                         | おもしろ美術教室  | ・「ブラバンアクセサリ作り」   |
|                         | おもしろ工業教室  | ・「ゴムでっぽうで景品Get！」<br>ゴムでっぽうでピンを倒し、倒した本数により景品をプレゼント<br>参加フリー。1人1回。<br><br>・「オリジナルキーホルダーをつくろう！」<br>工業科主催。ネーム入りキーホルダーを作る。<br>参加フリー。1人1回。 |
| おもしろ家庭科                 |           | ・「変身！！おりがみ」<br>折り紙を変形させて色々な物を作る。<br>自由参加。参加フリー。  |
|                         |           | ・「とちおクルマボタンをつくろう」<br>栃尾の布地を選んでもらいくるみボタンを作り、ヘアゴムにする。<br>(13:30、14:15、15:00の15人×3回のみ実施)  |
| 企画③                     | クイズラリー    | ・「文化センター内ぐるぐる廻ってクイズラリー」<br>企画展を実施している箇所すべてにクイズを展示。全問解答する景品をプレゼント<br>参加フリー。   |

### ③ 取組の成果（来場者感想：抜粋）

- ・とても素敵な会でした。学生の皆様も一生懸命子ども達の相手をして下さり感謝です。夏休みの思い出になりました。
- ・お揃いのスタッフTシャツは、どこで売っていますか？買いたくなりました。
- ・昨年よりも体験が増えて楽しく、あっという間の時間でした。来年も楽しみにしています。
- ・小切手の作り方体験やそれを使った買物あそびなどもできて、物作りの面白さを実感できました。とても楽しかったです。子ども達が嬉しそうにしている姿に見ていると、親の私も嬉しかったです。また来たいです。
- ・工夫してある物が多くて楽しかったです。高校進学を考えると、地元には選択肢となる高校がないなと思っていましたが、栃尾高校に行ってみたいと思いました。
- ・普段出来ない事など、色々出来て子どもが喜んでいました。おもしろかったです。



## (6) 商品開発と販売

### ① 取組の目的

総合学科の特徴を活かし、地元企業と商品開発に取り組むことで地域の活性化につなげる。

### ② 取組の概要

(ア)平成 29 年 5 月 「あげおいなり・あげみいなり」を商品開発

ビジネス情報系列の生徒が企画した案をもとに、福祉家庭系列が試作品を作成し、地元企業「丸五食堂」様に商品の製造・販売を依頼した。

丸五食堂様と検討を重ね、「あげおいなり・あげみいなり」が完成した。土日を中心に道の駅等で販売をしている。

(イ)平成 29 年 10 月 「あげおのじゃがお」の商品開発とイベントでの販売実習

一昨年、生徒が考案・制作したポストカードの油揚げを使ったレシピを元に、エスポワール様、クリーンリード様、及び、栃尾文化センター様と共同で「あげおのじゃがお」を制作した。

ビジネス情報系列の生徒が地元農協との試食会に参加するなどして、意見交換、商品のネーミング、しおりやポスター制作をおこない完成させた。地域イベント「街道まつり」で販売実習をおこなった。

### ③ 取組の成果

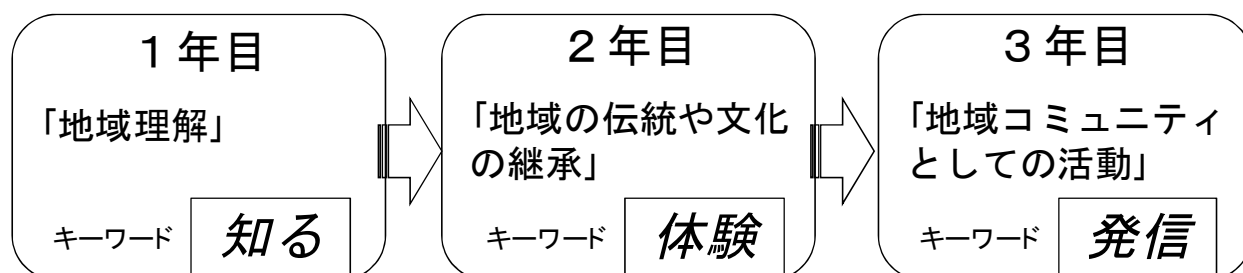
いずれの商品も大好評で、地域内外から常時販売を希望する問い合わせがきている。



## 2 総合所見

### (1) 3年間で振り返って

栃尾高校では、本事業の取組に対して3年間にわたり、次のとおりテーマとキーワードを設定して、活動を計画・実施してきた。



総合高校である本校は、必修科目「産業社会と人間」等において、すでに地元企業見学や講演会は数多く実施していた。他にもインターンシップや教科での福祉施設訪問など、様々なキャリア教育にも取り組んでいた。そのような中で1年目に『地域探訪』に取り組んだ。この活動は在校生の6割が栃尾地域以外からの通学者であることから、まずは栃尾を「知る」ことを目的に計画をした。そしてこの活動を基に、2年目、3年目へとキーワードに合わせて新たな取組を加えながら実施していった。

さらに、ビジネス情報系列と工業技術系列が共同で取り組んだ『商品開発と常設店舗での販売活動』も大きな成果であるといえる。この活動をきっかけに、地元企業から様々な活動に協力をしていただけるようになったことや、マスメディアにもとりあげてもらえるようになったからである。3年目の商品開発においては、1年目に制作したポストカードのレシピをもとに企画・開発がすすめられた。

2年目の取組の中で大きな成果があった活動は、『来て！見て！作って！体験フェスティバル』の実施である。日頃、各系列で学んだ知識や技術を、地域の子もたちに体験させることを通じて、生徒が主体的に活動に取り組む姿勢が見られるようになった。このイベントは地域の方からも大好評で、高校生にしか出来ないイベントになった。

そして、3年目を見据えて取り組んだ『地域探訪展』では、生徒が地域の伝統や文化を継承し、発信していくという役割を担えることが証明された。

最終年度である今年度は、キーワードを『発信』とし、地域PRビデオやLINEスタンプの制作をおこなった。生徒も職員もそれぞれの得意分野を活かした取組である。3年目となり、生徒や職員から様々なアイデアが生まれ、楽しみながら活動に取り組む姿が多く見られた。『商品開発と販売』『地域探訪展におけるオープニングセレモニー』など、幅広い世代の地域の方との活動の中でも自発的に積極的に行動する様子が見られ、地域の方から「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」の取組を通じて成長したとの感想をいただいた。

これらのことから、このプロジェクトに対する目標であった、

- ① 組織的・計画的なキャリア教育の実践をとおして、総合学科の特性を發揮した教育に取り組む
  - ② 地域の企業や福祉施設、幼保、小・中学校、行政、住民等との連携・交流を推進する
  - ③ 新たな問題の解決や探求活動に主体的、創造的に、協働して取り組む態度や能力を養う
- の3つ全てが達成できた。

3年間の「オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト」事業で積み上げてきた地域連携を、今後も教育活動に活かし、生徒が楽しみながら主体的に自分の未来を切り拓いていく力をつけていけるよう努力を続ける。

(様式1)

吉高 第 264 号

平成30年2月9日

高等学校教育課長 様

学番 46

県立吉田高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

## 県立吉田高校

### 【テーマ】 燕市の明るい未来を担う人材の育成

#### 【目標】

- 1 体験や学びを通して自尊感情を高め、生涯にわたって能動的に学び続ける力を育成する。
- 2 チームの中で自分の役割を見つけ、考えたり行動することができる力を育成する。
- 3 吉田高校の教育活動を活性化させ、その内容を地域に情報発信する。

#### 【取組の概要】

- 燕市教育委員会、燕商工会議所、吉田商工会、燕市観光協会、社会福祉協議会等との連携により事業を行った。主な取組は以下のとおり。
  - ・ 酒呑童子行列や桜フェスティバルなど観光協会主催行事におけるボランティア活動
  - ・ 地域進路探究講演会（全校生徒対象）
  - ・ 地域啓発講演会（1年生対象）、インターンシップ（2年生対象）
  - ・ 上級学校およびJICAの講師による特別講義
  - ・ 地場産業学習会、ビジネスマナー講習会
  - ・ 地域特色スポーツ体験と地元アスリートによる進路講話
  - ・ 赤ちゃん交流会、高齢者疑似体験、地域の食と文化を学ぶ講座

#### 【総合所見】

- 1 3年間の事業を通じて、燕市教育委員会、燕商工会議所、吉田商工会、燕市観光協会など地域の関係機関との連携が深まった。今後は、燕市及び弥彦村が新たに設置する「吉田高校サポート協議会」をはじめとして、本事業終了後も継続して地域連携に基づいた多様な教育活動を行うための基盤づくりができた。
- 2 上述のように、本事業終了後もその趣旨に基づいた教育活動を継続していけるようなシステムの構築が求められる。上述の「吉田高校サポート協議会」と、本事業の本旨を継続するため校内で新設する「地域連携推進委員会」の円滑な協働体制の確立とともに、次期学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントを進めていくことが課題となる。
- 3 後述するように、参加した生徒及びご協力いただいた地域の関係者からは、概ね好評価を得ている。2年生で行ったインターンシップでの事業所に就職を決めた生徒が数名出てきており、本事業は本校にとって非常に有効なものであった。

## 【取組の成果】

アンケート結果の評価はすべて、「4：とても 3：まあまあ 2：あまり 1：全く」である。

◎全事業の評価の平均値は「3.6」であり昨年度を0.2ポイント上回った。

### 1 インターンシップ

【2年生希望者対象：54名参加】

○目的 地元企業等からの協力を受け、勤労観、職業観を養うとともに、生徒自身が自己の進路について地域に根ざす企業から自分自身で選択することができるようになることを目指す。

○内容 夏休み期間を利用し、製造・販売・接客・保育・介護・美容・自動車整備のうち、自ら希望する業種について3日間のインターンシップを経験する。



| アンケート結果                           | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-----------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| インターンシップについて先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 30% | 60% | 10% | 0%  |
| 自分から積極的にインターンシップに参加できましたか         | 62% | 36% | 2%  | 0%  |
| インターンシップは楽しかったですか                 | 56% | 32% | 12% | 0%  |
| 地元企業について興味・関心は高まりましたか             | 52% | 42% | 6%  | 0%  |
| 進路や将来を考える上で役に立つものでしたか             | 64% | 34% | 2%  | 0%  |

○生徒の感想から

「1人1人の行動の細かいところまで見られていて、仕事を甘く見てはいけないと思った。これからの自分の行動を見直そうと思った。」 「3日間立ちっぱなしで足がクタクタでしたが、自分の扱っている商品がお店に出るという緊張と責任感を味わうことができました。」

### 2 燕市観光協会、吉田商工会、吉田地区まちづくり協議会等との連携事業 地域イベント等でのボランティア活動

【文化教養コース、茶道部・男子バスケットボール部員、生徒会役員、有志生徒】

○目的 地域について理解を深めることで郷土愛を育み、異世代と交流することで望ましいコミュニケーションのあり方を考える。さらに、奉仕活動等を通じ自己有用感を抱く。

○内容 桜フェスティバル・分水おいらん道中(4月8日・18日)

普段着でお茶を楽しむ会(5月13日)

酒呑童子行列(9月24日)

文化財修復ボランティア(8月11日)

地元イベントでの食品開発アイデア授業(7月5日、他)



| アンケート結果                       | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 68% | 32% | 0%  | 0%  |
| 自分に与えられた仕事への取組は満足できるものでしたか    | 72% | 28% | 0%  | 0%  |
| 活動は楽しかったですか                   | 80% | 20% | 0%  | 0%  |
| 地域の行事について興味・関心は高まりましたか        | 75% | 25% | 0%  | 0%  |
| 進路や将来を考える上で役に立つものでしたか         | 62% | 38% | 0%  | 0%  |

○生徒の感想から

「自分たちのアイデアが実際に商品になるのは、本当に嬉しかった。（文化教養コースの生徒）」  
「ボランティア活動を通じて他校生や地域の大人と知り合うことができた。（生徒会役員）」  
「学校の近くに文化財があることを初めて知った。中を見ることができて勉強になった。（男子バスケットボール部員）」

### 3 地域進路探究講演会

#### 【全校生徒】

○目的 地域で郷土愛を抱きながら活動している方のお話を伺うことで、地域についての理解と誇りを抱くようになる。さらに、自分自身も地域と関連した進路目標を設定できるようになる。

○内容 本校卒業生で「工場の祭典」5代目実行委員長で株式会社「MGNET」代表取締役 武田 修美様による講演。  
(11月9日)

「私たちの町でできること」と題し本校の前身である「吉田商業高校」時代から、地元を拠点をおきながら、世界中をマーケットにしてお仕事をされている様子を熱く語っていただいた。



| アンケート結果                        | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| この講演会について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 48% | 42% | 10% | 0%  |
| 自分から積極的に講演に参加できましたか            | 61% | 32% | 7%  | 0%  |
| 講演会は楽しかったですか                   | 65% | 32% | 3%  | 0%  |
| 地域について興味・関心は高まりましたか            | 42% | 48% | 7%  | 3%  |
| 地域と関わる進路や将来を考える上で役に立つものでしたか    | 65% | 29% | 6%  | 0%  |

○生徒の感想から

「夢を早く見つけたいと思いました。地元で就職するのもいいかなって思いました。（1年生）」  
「自分が選択してここまでの成功をするっていうのは大変なことだったと思うし、この講演を聞いて変わろうとする人もいるので自分も進路に活かしたい。（2年生）」  
「燕が金属加工で有名なのは知っていたけど、世界でも認められるようなイベント（工場の祭典）を行っていることは知らなかった。地域の魅力について詳しく知ることができた。（3年生）」  
「今回の講演会はとても聴きやすくおもしろいなと感じました。今後は自分のやりたいことや夢を見つけてそれに対して努力していきたいなと思いました。（3年生）」

#### 4 地域特色スポーツ体験

#### 【健康体育コース 2・3年生】

○目的 地域特有でありながら普段接することの少ないスポーツを体験することで地域理解につなげる。また、地元在住のアスリートから将来にわたって地域に根ざしたスポーツに親しむ気持ちと、困難にくじけない精神を学ぶ。

○内容 中学校時代まで吉田総合体育館で器械体操の練習を重ね、大学時代にユニバーシアード日本代表で活躍した新潟経営大学の星 陽輔様による講演と実技指導。(9月8日)



| アンケート結果                       | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 72% | 22% | 2%  | 4%  |
| 実技への取組は満足できるものでしたか            | 78% | 14% | 6%  | 2%  |
| 活動は楽しかったですか                   | 76% | 18% | 4%  | 2%  |
| スポーツについて興味・関心は高まりましたか         | 74% | 16% | 6%  | 4%  |
| 進路や将来を考える上で役に立つものでしたか         | 72% | 16% | 4%  | 8%  |

○生徒の感想から

「前転見ただけで感動しました。次元が違うと思った。」 「バック転がやばかった。」  
「講演の内容にとっても感動した。基本や基礎を大切にすることの重要性を改めて感じた。」

#### 5 赤ちゃん交流会

#### 【文化教養コース 2年生】

○目的 乳幼児とのふれあいにより、子どもの発達について理解するとともに将来自分自身が育児を行うことについて肯定的に受け入れられる土台作りをしていく。また地域の保育施設の機能や特性を理解する。

○内容 それぞれの実施日に 15 組ほどの乳幼児と母親及び地域の保育施設職員から来校していただき、乳幼児と遊んだり、母親から育児の体験談を伺ったりする。それまでの準備として手遊び歌の練習や手作りプレゼントの作成等を行う。

(9月19日・26日)



| アンケート結果                       | 評価4  | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-------------------------------|------|-----|-----|-----|
| この取組について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 68%  | 32% | 0%  | 0%  |
| 自分に与えられた仕事への取組は満足できるものでしたか    | 76%  | 20% | 4%  | 0%  |
| 活動は楽しかったですか                   | 100% | 0%  | 0%  | 0%  |
| 保育について興味・関心は高まりましたか           | 84%  | 16% | 0%  | 0%  |
| 進路や将来を考える上で役に立つものでしたか         | 72%  | 20% | 8%  | 0%  |

○生徒の感想から

「赤ちゃんはお母さんの所から離れると、探したり泣いたりして、お母さんというのがとっても大きな存在というのを改めて実感しました。」「子どもを育てる大変さ、楽しさを聞くことができてためになった。」「身近に自分より小さい子がいないので、なかなか赤ちゃんに触れあう機会がないけど、想像していたより楽しかったし、勉強になった。」

## 6 キャリアプラン講演会

【2年生】

○目的 正しい勤労観や職業観を身につけることで、自身が社会で必要とされるために学ぶべき事柄を理解する。また、主体的に学ぼうとする力を身につけさせる。

○内容 キャリアとはどういったものかイメージを持たせるために、早期離職の問題点や適性と適職の関係性について講演をいただいた。

(11月1日)



| アンケート結果                        | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|--------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| この講演会について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 47% | 36% | 11% | 6%  |
| 講演会のテーマは満足できるものでしたか            | 56% | 44% | 0%  | 0%  |
| 講演会は参考になりましたか                  | 61% | 39% | 12% | 4%  |
| さまざまな職業について興味・関心は高まりましたか       | 53% | 42% | 5%  | 0%  |
| 進路や将来を考える上で役に立つものでしたか          | 64% | 36% | 0%  | 0%  |

○生徒の感想から

「自分の将来のことをしっかり考えなければいけないとあらためて思いました。毎日コツコツ勉強も部活も頑張りたいなと思いました。」「今から進路を意識して職業に対して自分なりのイメージを持ってプランを立てていかなければいけないということがわかった。」「早期離職をすることがないように今から就職先を分析していきたい。」「自己分析・自己理解をして、自分に合った職業に就きたいと思いました。」

## 7 グローバル教育体験講座

【文系・理系コース 3年生】

- 目的 グローバル時代を見据え、地元地域での国際化に対応できるきっかけとなるように英語以外の語学経験により、世界への関心の向上を図る。
- 内容 中国語、ロシア語の2講座を開講。各講師から自己紹介や簡単な挨拶や文化などについて学ぶ。(12月19日)



| アンケート結果                       | 評価4 | 評価3 | 評価2 | 評価1 |
|-------------------------------|-----|-----|-----|-----|
| この講座について先生から初めて聞いたとき興味を持ちましたか | 64% | 30% | 2%  | 4%  |
| 自分から積極的にこの講座に参加できましたか         | 90% | 8%  | 2%  | 0%  |
| この講座は楽しかったですか                 | 88% | 12% | 0%  | 0%  |
| 異なる国の生活や文化について興味・関心は高まりましたか   | 76% | 20% | 2%  | 2%  |
| 外国と関わる進路や将来を考える上で役に立つものでしたか   | 76% | 18% | 4%  | 2%  |

### ○生徒の感想から

「ロシア語、難しいけど楽しかった。隣の人とロシア語で話すことができて楽しかった。」「グローバル化が進んでいるので、仕事でロシアの方がいたら、少し話ができるといいなと思いました。」「違う文化のことを学ぶというのがとても好きになりました。本当にロシアに行ってみたいです。」「とても楽しかったです。中国語はもちろん、他の国の語学にも興味がわいてきました。」「中国語で自己紹介ができるようになったのでとてもよかった。」「中国は日本にとっても近い国でもあるので今日覚えたことが、何かの役に立てばいいなと思いました。」

(様式1)

谷西高 第 199 号

平成 30 年 2 月 22 日

高等学校教育課長 様

学番 5 1 新潟県立小千谷西高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

### 小千谷西高校

**【テーマ】** 地域の未来を切り拓く人材育成  
～地元とのコラボレーションによる「おぢやモデル」の構築～

#### 【目標】

- 小千谷の地において、小千谷西高校を核として、地元自治体、関係団体、企業等、地域の主要な各プレイヤーと連携した教育活動を行い、当該地域の未来を切り拓く人材育成プログラムを構築するとともに、その円滑な実施に努める。
- こうした活動の成果を発表する機会を通じて、地域の各小・中学校において行っている職場見学・職場体験等をもとよりキャリア教育全般について理解を深め、地域内での小・中・高一貫したキャリア教育を展開する。

#### 【取組の概要】

- 地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立
  - ・ 学校設定科目「キャリア実習」の定着と、内容の一層の充実を図った。
  - ・ メカトロニクス系列や機械部におけるこれまでの地域連携取組の一層の充実を図った。
  - ・ 工業科以外の教科における地元とのコラボレーションの可能性を追求し、実践した。
- キャリア教育を推進するためのイベントを市と連携して開催
  - ・ 小千谷市・小千谷市教育委員会と連携し、市内 5 中学校の 1・2 年生全員を対象として、地元企業や小千谷高校とともに、市内中学生の主体的な進路選択と将来の地元定住に資するべく、平成 27・28 年度の成果と課題を踏まえて「おぢやしごと未来塾」を開催した。

#### 【取組の成果】

- 様々な科目を有する小千谷西高校において、授業をはじめとした教育活動全体の一層の特色化を進めた。また、地域の中学校におけるキャリア教育の一端を理解することで、産業社会と人間や総合的な学習の時間等、ガイダンス的要素を持つ教育活動の工夫・改善につなげる必要性について職員の機運醸成を図った（総合学科におけるおぢやモデル）。
- 中学校 2 年生が、12 月に将来を見据える活動を行うことにより、一層主体的な進路選択が可能となることから、小千谷市・小千谷市教育委員会・小千谷高校とともに「おぢやしごと未来塾」を開催した（小・中・高一貫した早期からのキャリア教育におけるおぢやモデル）。
- 地域企業等においては、高校生受け入れ等の活動が、当該生徒（高等学校）に対する取組にとどまらず、地域の未来を担う中学生や高校生にひろくアピールする機会となることを「おぢやしごと未来塾」や「キャリア実習取組成果発表会」の開催により具体化した（地域の未来を切り拓く人材育成におけるおぢやモデル）。

## 【取組の成果（詳細）】

### 1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

#### (1) 科目「キャリア実習」（教科：産業社会）の取組

##### ア 科目の概要

- ・ 地域の企業等と連携し、授業時間において、長期間にわたり企業等での現場実習を行うことにより、生徒の勤労観や職業観を養い職業意識を高めるとともに、地域産業の発展に貢献することのできるより実践的な技術や能力を身に付けさせることを目的とする科目である。
- ・ 授業時間は火曜日の5・6限、年間のスケジュールは次のとおり。

4月～5月 校内指導、意識付け、実習先決定、企業への事前訪問

6月～11月 企業での実習（毎週火曜日 13:30～17:00 約15回）

12月～3月 校内指導、報告書作成、取組成果発表会



##### イ 平成29年度の工夫・改善

- ・ 平成29年度は15人が選択し、12事業所において実習を行った。受入意向調査、事前・実習中訪問、取組成果発表会などの機会をとらえて意見交換することにより、受入企業との連携の強化が図れた。また、今年度、科目選択者数が減ったことにより、実習先として依頼しなかった事業所を訪問し、「キャリア実習」について意見を伺うとともに、今後の協力要請を行うなど、地域企業との連携体制の強化維持ができた。

##### ウ おぢやしごと未来塾の開催 (H29. 12. 12)

- ・ 小千谷市内中学校2年生全員を対象に、パネルディスカッションを実施した。「キャリア実習」を履修した生徒もパネリストとして参加し、受入企業の方とともに、中学校2年生の進路選択の参考とするため、当校における「キャリア実習」や学校の様子についてお話しさせていただいた。

##### エ キャリア実習取組成果発表会・地域の声を聞く会（兼学校評議員会）の開催 (H30. 2. 13)

- ・ キャリア実習の成果発表会は、1年次生全員を対象として成果を共有するとともに、地域の声を聞く会を同時開催することにより、受入企業のみならず地元関係者等より幅広く参加していただくこととし、取組成果や地元企業の紹介をより多くの方に理解していく機会とした。
- ・ 生徒の司会で、パワーポイントを用いた発表の後、受入企業の方から指導講評をいただき、それを聴いた1年生が発表者の評価を行った。
- ・ 参加者の感想は概ね好評で、もっと多くの生徒に履修してほしい、この取組をもっと多くの人に知ってほしい等の声が聞かれた。



#### (2) 科目「調理」（教科：家庭）の取組 (H29 年度新規)

##### ア 取組内容

- ・ 消費者の一員として地産地消の大切さを理解させるために、生徒が地元農産物を用い、小千谷を象徴するお弁当を作成する取組を行った。
- ・ 7月には、小千谷の食の魅力についてご講演、8月にはレシピ作成指導、9月には「おぢや弁当」作成指導と、地元のおぢや食おこし隊の隊員様よりご協力をいただいた。

- 各グループがそれぞれ考案した「おぢや弁当」のレシピを10月に西高祭で展示発表した。その後、英語科と教科を横断して連携し、科目「英語会話」の履修者が、小千谷市に滞在する外国人留学生の協力を得ながら、このレシピを英語に翻訳し、学校ホームページに掲載した。



### (3) 科目「ファッション造形」(教科：家庭)の取組

#### ア 取組内容

- 11月、小千谷市織物同業協同組合の体験工房において、あらかじめ染められたよこ糸の柄をあわせながら機で織っていくかすり織を体験した。また、小千谷縮の歴史を学んだ。
- 1月、自ら制作した浴衣の着付け体験を、小千谷市総合産業会館サンプルザの和室を会場としておこなった。小千谷市織物同業協同組合の職員様より浴衣の着付け指導をしていただいた。

#### イ 平成29年度の工夫・改善

- 浴衣の制作、着付け、小千谷の伝統工芸の学習を有機的に関連づけながら指導計画の作成にあたった。



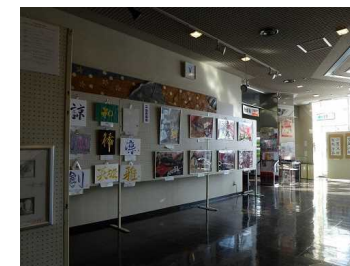
### (4) 科目「美術Ⅲ(美術)」、「版画(美術)」、「臨書技法(書道)」、「創作技法(書道)」、「工芸書表現(書道)」、「商業書表現(書道)」、「商業カリグラフィー(書道)」(教科：芸術)の取組(H29年度新規)

#### ア 作品内容

- 美術Ⅲ…金属加工の盛んな地元を意識し、ロストワックスを利用した鋳造により指輪を製作した。
- 版画…エッチング、アクアチントにより表現した銅版画を製作した。
- 臨書技法…半切4分の1の大きさに篆書、隸書を、半紙に仮名を臨書した。
- 創作技法…半紙に漢字2文字を創作し、また現代文を自由に表現した。
- 工芸書表現…好きな文字を自由に創作し板に刻した。
- 商業カリグラフィー…内容は下記(5)のとおり。

#### イ 小千谷市総合産業会館サンプルザでの展示(H30.1.26~2.9)

- 本校の特色である豊富な芸術科目の成果を広く認知してもらうために、作品を展示し、市民の方にご覧いただいた。



### (5) 科目「商業カリグラフィー」(教科：芸術)の取組

#### ア 科目の概要

- 伝統的な書作品や現代の様々な芸術作品の表現方法を学び、「商業書道」の表現方法を工夫する。郷土の文化や産業をテーマとするため地域との連携を図ることとしている。
- 今年度は、地元小千谷市の伝統行事である「闘牛」をテーマに、生徒がフレーズを書き込み、ポスターとして制作した。
- ポスターの画像素材は小千谷観光協会様よりご提供いただいた。また、外部講師として地域のデザイナーの方より11月と1月の2回、指導・助言をいただいた。



## イ 平成 29 年度の工夫・改善

- 外部講師の方よりポスターデザインについて説明いただくことで、1 学期に学習したコンセプトやプレゼンテーションの重要性について復習できるよう計画した。

## (6) 科目「英語会話」(教科：英語科)の取組

### ア 取組内容

- 小千谷の伝統や文化を紹介する文章を作成し、スピーチをおこなった。地域の教育資源を活用して地元の理解を深めつつ、生徒のより主体的な学びにつなげようと試みた。

### イ 授業での「小千谷の紹介」

- 紹介するテーマは、「ラーメン」、「錦鯉」、「山本山からの景色」、「そば」、「闘牛」、「雪」、「季節の花」、「おぢや祭り」、「制服」などである。
- 生徒は、3～4人のグループごとに、テーマやスクリーンに投射する画像を決め、それぞれの視点で紹介する英語の文章を作成して発表した。
- なお、スピーチに用いた画像の素材は、小千谷観光協会様より快くご提供いただいた。



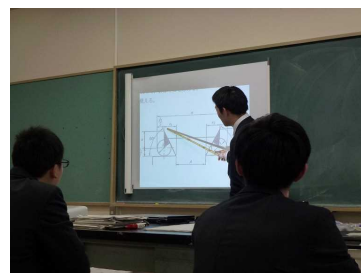
## (7) 科目「数学Ⅲ」(教科：数学科)の取組 (H29 年度新規)

### ア 取組内容

- 地元企業の協力を得て、実社会において数学がどのように使われているかを知り、学習意欲の向上を図るとともに、地元産業の理解にもつなげる。

### イ 授業における紹介事例

- 株式会社第一測範製作所様の協力を得て、業務において三角関数を用いる事例を様々紹介いただいた。授業では、アリ溝を加工した際に、正しい寸法に加工されたかを、三角関数を用いて確かめることができることを理解させた。



## 2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

### ～おぢやしごと未来塾～の開催

#### (1) 平成 28 年度の振り返り

2 年目の開催となった平成 28 年度は、前年度の反省を基に様々な改善を行い、参加した中学校の生徒及び教職員、事業所ブース出展者、さらには地元新聞等において、一定の評価を得た。今年度も、事後アンケートで寄せられた様々な意見を実施者である小千谷市、小千谷市教育委員会、小千谷高等学校並びに本校職員が分析し、改善策を立案して実施することとした。

#### (2) 平成 29 年度の改善点

- 県内大学のブース出展
- 社会人パネリストの職種の拡大
- 中学生への事前企業プロフィールの配付
- 中学生の事前グループ編成、行動計画作成 など

#### (3) 次年度以降の方向性

- 今年度の改善についても、参加した中学校の生徒及び教職員、事業所ブース出展者、関係



者等において、概ね好評であった。

- ・ 次年度以降については、今年度の取組をベースにしつつ、反省点や改善意見をもとにブラッシュアップして、中学生が地元の高等学校の取組や地域の産業の魅力を理解できて、より主体的な進路選択につなげることができるイベントへとさらに発展させていく。

### 3 その他

#### (1) 部活動「機械部」の取組

- ・ 平成 29 年 10 月 1 日、機械部が、「Honda エコ マイレージチャレンジ 2017 第 37 回全国大会」に、5 年連続で出場した。
- ・ 昨年の課題を克服するため生徒達がエンジンパーツや外装などを改良してマシンを仕上げた。その過程で、小千谷の鉄工と電子の両産業を担う人材育成の場として設けられた「テクノ小千谷名匠塾」にてクランクシャフトにキー溝加工を施した。
- ・ 成績は昨年の記録には惜しくも及ばなかったが、燃費 784.5 km/l であった。順位は 28 位(エントリー136 台、完走 94 台)で、出場した県内高等学校の中でトップであった。



#### (2) 部活動「写真部」の取組 (H29 年度新規)

- ・ 昨年度の小千谷市展で市長賞を受賞したことを受けて、各展覧会への出展要請をいただいていた。高校生のみずみずしい感性を期待してのことである。
- ・ 南魚沼市浦佐の池田記念美術館で 1 月 20 日から 3 月 27 日まで開催されている「魚沼ベストショット展 Part VII」に、江戸期より 260 年続く伝統の藍染めをテーマとした作品 8 点を展示した。



#### (3) インターンシップの実施

- ・ 夏季休業中に、小千谷市商工観光課の協力を得て、全学年の生徒の希望者を対象に、市内の企業等において 1～5 日のインターンシップを実施している。
- ・ 平成 29 年度は 21 事業所において、46 人が参加した。
- ・ 今年度は新たに小千谷総合病院より 4 名を受け入れていただき実施することができた。
- ・ 保育園や病院など、キャリア実習では受入が困難な分野について、インターンシップを利用することができ、生徒にとって職業体験の貴重な場となっている。

#### (4) 先進校等視察（筑波大学附属坂戸高等学校、群馬県立吉井高等学校）

- ・ 筑波大学附属坂戸高等学校で開催された総合学科研究大会・SGH 研究大会に出席し、生徒が主体的に取り組む少人数のアクティブラーニング型の授業を参観した。産業社会と人間や総合学習の時間で、自ら目標を立て、実行し、検証をして、次の活動に生かすというサイクルがしっかりとできているところは、様々な場面で活用していきたいと感じた。
- ・ 群馬県立吉井高等学校では、学校づくりのコアとなる総合学科について考える分掌があり、育てたい生徒の 3 年間のビジョンを、全職員で話をしながら作っていくとのことで、本校にも必要なことであると感じた。また、アクティブラーニングについても、研修を行うことで、多くの職員が取り入れられるように工夫がされていた。

## 【総合所見】

### 1 「地元企業での職場実習を授業に取り入れた人材育成プログラムの確立」について

#### (1) 科目「キャリア実習」

- ・ 平成 29 年度においては、これまでで最大の選択者数(23 人)、事業所数(20 事業所)であった前年度から数的には減少したが、科目の認知度も向上しており、取組自体は軌道に乗ってきた。また成果発表会出席者からも、高い評価をいただいている。
- ・ この科目をより充実・発展させるため、授業を通じて何を身に付けさせたいのか、今一度狙いを明確にして指導を行う必要がある。
- ・ 平成 30 年度の選択者数は 10 人となる見込みであり、引き続き前年度を下回る事となる。事業所との良好な関係を維持しつつ、持続可能な実施形態を模索していく必要がある。

#### (2) 上記(1)以外の科目等

- ・ 平成 27 年度以降、芸術科や家庭科の科目において、これまでの取組を踏まえつつ、地域の施設や外部講師、その他地域の教育資源をこれまで以上に活用した取組を進めてきた。
- ・ 今年度「調理」における地元食材を用いた弁当づくりの取組では、英語科との教科横断的な取組に加え、外国人留学生を活用するなど新たな方向性も見せた。来年度以降も引き続き地域の教育資源を活用しながら生徒の主体的な学びに結びつけ、「力」を身に付けさせることが課題であり、他の科目においてもこうした取組を進めることとしている。

### 2 「総合学科の特色をPRするためのイベントを市と連携して開催」について

#### (1) おぢやしごと未来塾

- ・ 中学校・高等学校・行政・企業や団体が関わった「おぢやしごと未来塾」を 3 年連続で開催することができた。小千谷市には、市内に異タイプの高校が 2 校、市立の 5 中学校の生徒数が 900 人以上、熱意や確かな技術を持つ魅力的な企業等、いくつかの要素が備わっている。
- ・ 今後も、すべての関係者の意向を尊重して、関わる人すべてが「win, win, win…」の関係となるべく継続的に開催することが課題である。引き続き、様々な団体がより参加しやすく、かつ継続して実施するのに最もふさわしい規模・内容・形態・実施主体を検討していく。

### 3 その他

#### (1) 部活動等の取組

- ・ これまでの機械部、書道部に加えて、写真部等の活動による地域との関わりが深まりを見せた。こうした取組は、生徒にとっては発表機会の増加、地域理解の深化等のメリットがあり、地域の方々にとっても活性化や高校生の活動への理解の深化等のメリットがある。今後も、地域の教育資源を活用した取組を一層充実させるべく、可能性を探る必要がある。

#### (2) キャリア教育グランドデザインの構築

- ・ 当校におけるキャリア教育の様々な取組を系統的に示す全体計画の再構築に向け、キャリア教育委員会が中心となって作業を進め、本校キャリア教育のグランドデザインが完成した。早速全職員で今年度の取組報告会を実施し、成果を踏まえつつ次年度への改善点を検討した。これからの生徒を育てるために必要な活動を今後も計画的に実施したい。その際、地域の小・中学校の取組や企業・団体の取組について情報収集を行い、小千谷の地における一貫したキャリア教育の構築を心がける必要がある。

(様式1)

塩商工第264号

平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番 57 県立塩沢商工高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

塩沢商工高校

【テーマ】 塩沢商工が創造する「南魚沼活性化プロジェクト」

【目標】

本校は魚沼地域の唯一の専門高校であり、商業科、機械システム科、更には機械システム科では建設土木の科目履修が可能などの特性がある。このプロジェクトをとおして、Employability（雇用されうる能力）を養い、専門高校としてキャリア教育の観点から、将来、この地域を支え活躍する人材を育成する。

【取組の概要】

- 建設業をはじめとする地元企業でのインターンシップの拡充を図る。
  - ・ 地元商工会や地域企業と連携を取り、職場実習・インターンシップを拡充し、人材を育成する。
  - ・ 地元建設企業と連携し、企業等から講師を招き、授業では学習することのできない内容を学習し、地域の問題に寄り添った技術者・技能者になるキッカケとし、地域を支え活躍する人材を育成する。
- 地域行事への参加や地元の産業・特産品のPR活動を行う。
  - ・ 地域の商業施設等で販売実習・イベント開催
  - ・ 地元企業と連携し、企業等から講師を招き、地元の産業・特産物等を取りあげて、特産物の良さを再発見し、企画立案からPR・販売実習と一連の活動を行い、地域の情報発信・PRを行う。
  - ・ 学校みどり創出モデル事業等の地域の小学校と連携し、地域活性化につなげる。
  - ・ 地域文化財の研究・PR、地元の産業や生活の活性化、克雪への試みを行う。

【取組の成果】

- ・ インターンシップは2年生全員が3日間取り組んだ。また、建設業はもとより、地域の企業60社からご協力をいただいた。就業体験を実施することで勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験し、各企業における本校への期待を感じることができた。
- ・ 建設土木の現場見学や地元建設企業並びに地元生産者の講演をとおして、建設土木企業の作業内容やその重要性、冬季時における降雪への対応、そして雪の有効利用について理解を深めることができた。
- ・ 地域のイベントである「建設土木フェア」に参加することで、地域貢献の一端を担うことができたとともに、地域が抱える課題を再認識することができた。
- ・ 講義等を通じて、南魚沼地域の観光資源や地元の商業活動の特徴について学習し、再発見するとともに、地元酒造や道の駅で行われている作業を見学することで、具体的な販売活動の様子を確認することができた。

## 1 地元企業と連携したインターンシップの取組について

「進路希望達成・学力向上対策事業」と連携し、平成 29 年 10 月 11 日（水）～13 日（金）の 3 日間、地元企業へのインターンシップを行った。インターンシップに参加した生徒は 2 年生全員の 124 名、建設土木系企業も含めた 60 社で実施した。

参加した生徒からは、インターンシップに行く前は、「不安で緊張していた」という感想が多かったが、インターンシップを体験した後は、「楽しかった」「充実感を味わった」「進路を考えていく上で参考になった」という感想が多かった。このことから、勤労観や職業観を育成するとともに、地域企業の魅力を体験できたといえる。

### 【生徒の主な感想】

- ・ 学校と違って、すべての作業（仕事）に重要な責任があることを知りました。ずっと気を張っているのは大変だと思いました。
- ・ 普段、当たり前のようにしていたことは、社会では通用しないこと、勉強がどれだけ必要なのかを改めて感じることができました。私がインターンシップをさせていただいた会社は、地域にすごく密着していて、素敵な会社でした。
- ・ 事務の仕事はすごく大変でした。挨拶の大切さを学びました。
- ・ アルバイトと同じ感覚だと思っていましたが、仕事内容も、お客様の年齢層も、想像していたことと全く違っていて驚きました。与えられた仕事をこなせるように、メモなどをもって、少しでも会社の力になれるように努力しました。とてもいい体験になりました。



## 2 現場見学や建設土木系の授業における地域企業連携

### (1) 国道 289 号 八十里越現場見学

機械システム科 1 年生による、建設土木の現場見学会を平成 29 年 6 月に行った。現場は、国道 289 号八十里越で新潟・福島県境の通行不能区間の解消を目的とした、三条市塩野淵から福島県南会津郡只見町叶津に至る建設土木作業現場である。トンネルを掘削する作業や作業に使用する建設機械を実際に見学することで、実際の現場を体感し、土木の重要性について理解を深めることができた。また、土木系の科目を選択するための動機付けをすることができた。

### 【生徒の主な感想】

- ・ 山中で橋を造る大変さが分かりました。土木系科目の履修を考えてみようと思います。
- ・ 暑い中での作業はとても大変ですが、人の役に立つものを造ることは、やりがいのある仕事だと思いました。

### (2) 仮設道路設置及び砂防堰堤建設工事における現場体験実習

機械システム科 2 年生建設土木系科目選択者は、平成 29 年 5 月に 4 週にわたって仮設道路の設置に関する実習を行った。全幅 5 m の仮設工事用道路の設置を通じて、図面の見方や測量（測設）、丁張り設置、機械施工、土の性質、施工管理、現場管理について学んだ。

また、平成 29 年 6 月には 4 週にわたり、砂防堰堤建設工事現場にて



見学と体験実習を行った。現場の方のご指導のもと、現場見学や簡易な施工作业を通じて、実践的な職業知識の習得や日頃の学習と現場技術との繋がりを知ることができた。

#### 【生徒の主な感想】

- ・はじめは自分たちだけで仮設置道路を本当に作れるのか不安でした。しかし、講師の先生方から分かりやすく教えていただいたおかげで、思っていたよりも上手くできたので、うれしかったです。ますます興味がわいてきました。
- ・バックホウやローラー、ランマー、プレートを初めて操作したことが、とてもいい経験になりました。これらの重機の操作は想像していたよりも難しかったです。もっと上達したいと思いました。
- ・講師の方から、測量の時にやさしく声をかけてくださったり、手帳の書き方やバックホウの操作を教えていただいたりしているうちに、土木系の学習に自信が持てるようになりました。



#### (3) 除雪体験及び防災教育

機械システム科3年生土木系選択者は、平成29年4月、魚沼地域の建設業における重要な業務である除雪を体験した。はじめに、土木と地域貢献及び除雪の形態について説明をうけ、その後、除雪機械（除雪グレーダ、除雪ドーザ、ロータリー除雪車）による除雪体験、最後に、除雪業務の実態について説明をうけた。実際の除雪車に触れたことや除雪作業の重要性を知ることによって、除雪に対する考え方が変化するとともに、これらの仕事への興味・関心と理解をさらに深めた。



また、5月には、災害発生時における地元建設業の役割（応急復旧の担い手）を理解することを目的として、防災教育を行った。はじめに、地元で発生した災害及び災害発生時における地元建設業の活躍について説明があり、次に、事例研究（応急復旧対策工法の検討）にグループで話し合い、各グループから考察した結果を発表し、講師（地元建設業の方）より講評をいただいた。授業をうけた生徒からは、災害復旧のやりがいや建設業は地域の暮らしを復旧し、市民の安全を守る仕事であることを学んだ。



#### 【生徒の主な感想】

- ・今回の実習では貴重な体験をさせてもらいました。実習で習ったことは、将来、土木の仕事に就くならば絶対に必要なことだと思うので、今日やったことを忘れないようにしたいと思います。
- ・貴重な体験ができました。今回のことを将来の進路選択に生かしたいと思います。
- ・今回の防災教育の授業では、自然災害の恐ろしさを改めて理解しました。その反面、土木建設者が、私たちの暮らしをどれだけ支えてくれているのかも理解することができました。
- ・事例研究で、「どのような工法で応急処置を行うのか」を考えるのはとても難しかったですが、みんなと一緒に考え、アイデアを出し合いました。良いアイデアが出て発表し、先生からも良い評価をいただけて、うれしかったです。



#### (4) 橋梁点検実習

橋梁補修の増大に対応できる技術者を指すため、橋梁点検を通じて橋梁に関する興味・関心を向上させるとともに、知識を増やすことを目的に実施した。橋梁の損傷状況の確認と点検方法の実体験の後、コンクリート橋の点検（国道17号上之入川橋）を実際に体験し、最後に、点検結果の整理及び補修方法について学んだ。

##### 【生徒の主な感想】

- ・ 私たちが安心・安全に暮らせるのも、点検をしてくれている人のおかげだなと今回の実習で感じました。
- ・ ハンマーでコンクリートを叩いて微妙な音の違いで、コンクリートの割れがあることを判断できることはすごいと思いました。
- ・ この実習を通して習ったことを将来、生かしていきたいと思えます。



### 3 地元の産業・特産品のPR活動の実施

#### (1) 南魚沼市のPR・情報発信の手法に関する講演

平成29年10月、南魚沼市名物「本気丼」や情報誌「美女旅」を企画・運営している南魚沼市商工観光課 平川様、h design project 代表 吉田様、MISS EARTH 新潟県代表 大塚様から、情報発信の手法や効果的なPR活動について講義をうけた。

この講義を通じて生徒は、南魚沼地域における情報発信の実際や地域の商業活動について理解を一層深めることができた。また、魚沼地域の観光や特産品などの特徴について再発見することができた。これらの内容をもとに、地域の観光資源や特産物を高校生の視点から、如何にPRし、情報発信していくか考えるきっかけとした。

##### 【生徒の主な感想】

- ・ コンセプトに合った情報発信をすることは、すごく大変だと思いました。南魚沼市の良さがもっと広まるためには何ができるか、私も考えてみようと思いました。



#### (2) 地域行事への参加及び販売活動

平成29年10月、塩沢宿新米の陣が開催され、「つむぎ通り軽トラ市」と「南魚沼グルメライド」が同日開催された。本校生徒もイベント補助として参加し、運営に貢献した。ぬか釜で炊いた南魚沼産の新米コシヒカリを訪れた方々にふるまう手伝いをした。本校生徒は、肉味噌を製造・販売し、午前中に完売するほどの盛況ぶりであった。

また、平成29年11月には、道の駅南魚沼において、「しおざわ秋の収穫祭」（主催：南魚沼市商工観光課）が、塩沢駅通りにおいて、「つむぎ通り 軽トラ市 2017」（主催：つむぎ通り町づくり実行委員会）へ販売実習（仕入販売）を行った。これまで学んできたマーケティングやビジネスマナーなどを活用し、自ら取り組むことで、生徒の資質の伸張を図ることができた。また、地域行事に参加することで、生徒は地域の魅力をさらに深めるとともに、地域の方々との交流を通して、地域と学校の信頼関係をさらに深めることができた。



### 【生徒の主な感想】

- ・ グルメライドでは、選手の方から「美味しかったです。」などの言葉をいただき、とてもうれしかったです。とても忙しかったです。やりがいのある1日でした。
- ・ 私が頑張ったことは、子供達にキャンディーをアピールすることです。子供に視線を合わせてキャンディーを見せることで、欲しいに繋がると考えました。子供達がたくさん買ってくれて、とてもうれしかったです。



### (3) 販売・接客に対応したビジネスマナー講習

平成 29 年 7 月、新潟会計ビジネス専門学校副校長 平 様より、ビジネスマナー講習の講義をうけた。「販売・接客の対応」や「顧客からの質問に対する受け答え」、さらに、「クレーム対応」について講義をしていただいた後、最後に、「働くこと」についてお話をいただいた。



### 【生徒の主な感想】

- ・ 接客用語は顧客としてお店に行った時に聞くことはありますが、発する機会はなかなかないので勉強になりました。姿勢も自分で意識して良くする機会はなかったので、方法を知ることができたのでよかったです。

## 4 生徒発表会

平成 29 年 12 月 18 日（月）、これまで取り組んできた学習活動等の成果を発表する場として、生徒による成果発表会を下記の内容で行った。また、講評を本校学校評議員の中島様よりいただいた。

<内容>

- ① インターンシップの取り組み発表
- ② 機械システム科の取り組みについて（概要説明）
- ③ 機械システム科生徒による取り組み発表
- ④ 商業科の取り組みについて（概要説明）
- ⑤ 商業科生徒による取り組み発表
- ⑥ 講評

当日は、「学校評議員」及びインターンシップ等で生徒をご指導いただいた「地域の企業」、本校の工業教育・商業教育充実のため組織している「企業・地域社会と学校のネットワーク協議会」、そして保護者からもご出席いただき、発表会を参観いただいた。参観した企業の方からは、「これまで、塩沢商工高校ことがよく分からなかったが、今日の発表会でよく理解できた。すばらしい取り組みであった。」と概ね好評であった。今後も、開かれた学校づくりに取り組み、情報発信に努めたい。



## 5 総合所見

これまでの取り組みの成果もあり、実施した全ての取組において、地域の企業と連携して実施することができた。地元企業から本校に対する期待が大きく、本校の生徒の育成のためにご尽力いただいたことに感謝したい。本校には、この南魚沼地域を支える人材の育成が地域から期待されていることから、今後も、より地域に密接した教育活動を行っていく必要がある。

本事業の最終年度にあたり、この取組により、生徒の意識がどのように変化したか把握するため、全生徒に対してアンケート調査を行った。結果は以下のとおりである。

[基準]

5…よくあてはまる                      4…ややあてはまる                      3…わからない、どちらともいえない  
2…あまりあてはまらない              1…全くあてはまらない

質問1 本校が、オンリーワン新潟未来プロジェクトに取り組んでいることを知っている。

| 5     | 4     | 3     | 2     | 1     |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 18.2% | 13.5% | 22.2% | 12.1% | 34.0% |

質問2 インターンシップの経験を通して、働くことについて理解を深めることができた。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 28.2% | 33.8% | 23.3% | 6.3% | 8.4% |

質問3 企業講話や企業見学、現場体験を通して、地元に対する理解が深まった。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 21.9% | 36.9% | 28.0% | 6.3% | 6.9% |

質問4 地域の方と一緒に取り組むことで、いろいろなことを学んだり、経験することができた。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 21.4% | 36.0% | 31.8% | 4.8% | 6.0% |

質問5 地元と連携して取り組むことは、これからの学校にとって大切なことだ。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 33.4% | 32.6% | 26.5% | 2.9% | 4.6% |

質問6 この取組をとおして、魚沼地域への理解が深まった。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 19.3% | 32.2% | 35.5% | 6.5% | 6.5% |

質問7 この取組で授業を受ける意欲が増した。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 15.0% | 26.5% | 41.8% | 7.8% | 8.9% |

質問8 この取組で学んだことや経験したことを生かし、将来、魚沼地域で活躍し貢献したいと思う。

| 5     | 4     | 3     | 2    | 1    |
|-------|-------|-------|------|------|
| 19.0% | 29.1% | 37.2% | 6.1% | 8.6% |

(様式1)

十 総 第 308 号

平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番 59 新潟県立十日町総合高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

|                |  |
|----------------|--|
| <b>十日町総合高校</b> |  |
| <b>【テーマ】</b>   | <b>希望を胸に未来へ羽ばたけ十総生<br/>～地元企業での就業体験をとおして地域を支える人材を育成～</b>  |
| <b>【目標】</b>    | 地元の産業や建設業協会や運輸業界、介護業界など各種業界団体が抱えている課題などを幅広く知り、インターンシップ等を通じて活動することにより、生徒自身が地域の課題を自分のこととしてとらえ、自分のキャリアを考える上で多角的な視点で解決策を考えられるようにする。  |
| <b>【取組の概要】</b> | <ol style="list-style-type: none"><li>1 地域キャリア教育支援協議会</li><li>2 地元企業研究 (1年次)</li><li>3 企業見学・上級学校見学 (1年次)</li><li>4 大学模擬授業 (1年次)</li><li>5 インターンシップ (2年次)</li><li>6 学校研究・企業研究 (3年次)</li><li>7 地域との連携<ol style="list-style-type: none"><li>(1) こどもまつり in 分じろう</li><li>(2) 笹山縄文 高校生プロジェクト</li><li>(3) ほくほく線感謝メッセージ</li><li>(4) 人を呼ぶきものプロジェクト</li><li>(5) まちなか×GAKUENSAI</li></ol></li><li>8 その他<ol style="list-style-type: none"><li>県外総合学科設置校の訪問</li></ol></li></ol> |
| <b>【取組の成果】</b> | <ol style="list-style-type: none"><li>1 地元企業を見学し企業研究を重ねることにより、卒業後の進路について考える機会となった。</li><li>2 地域の課題を企業と共に考えることにより、主体性や多角的な視野を持てるようになった。</li><li>3 受動的なインターンシップから、生徒一人一人が目的意識を持ったインターンシップとなった。</li><li>4 自分のキャリアを考える上で地域への貢献という視野を持たせることができた。</li><li>5 地域の課題を授業の内容と関連して学ぶことにより、地域理解を一層深めることができた。</li><li>6 部活動の一環として取り組むことで地域の活性化につながり、幅広い年代の方とのコミュニケーションを図ることができた。</li></ol>   |

## 1 地域キャリア支援協議会

### (1) 目的（平成27年度に設置）

本校において、インターンシップ実施等体験型の地域キャリア教育推進を図る上で、学校関係者はもとより、家庭、地域、産業界が一体となって積極的な取組が行えるよう、地域キャリア教育支援協議会(以下、「支援協議会」という)を設置する。

### (2) 支援協議会の開催

#### ア 第1回十総地域キャリア教育支援協議会

(ア) 期 日 平成29年5月16日(火) 15:00～16:30

(イ) 会 場 本校 会議室

(ウ) 出席者 キャリア教育支援協議会委員（産業界関係者、関係行政機関関係者、PTA関係者）

(エ) 協議内容  
 ・事業説明について  
 ・インターンシップ実施計画等について  
 ・地域産業との有機的連携方策（意見交換）

#### イ 第2回十総地域キャリア教育支援協議会

(ア) 期 日 平成29年12月1日(金) 15:45～17:00

(イ) 会 場 クロステン（一般財団法人十日町地域地場産業振興センター） 第1小会議室

(ウ) 出席者 キャリア教育支援協議会委員、インターンシップ受け入れ事業者、学校評議委員、市内中・高等学校

(エ) 協議内容  
 ・インターンシップ報告会について  
 ・インターンシップ受け入れ企業等について  
 ・本校の教育課題等について  
 ・次年度計画について

### (3) 出席者からの意見等

- ・インターンシップの受け入れ先企業を開拓するために、雇用協議会や商工会議所などのネットワークを利用すると良いのではないか。
- ・ただインターンシップに参加するのではなく、活動の中で「この仕事をやってみたい」というものがあると良い。
- ・現状は、企業見学やインターンシップの受け入れなどについて、それぞれの学校が独自に交渉をしているが、小中高と地域のキャリア教育を継続するためには、地元行政などとも協力し、学校間の日程調整や企業との交渉をする機関などがあると良い。

## 2 地元企業研究（職業人に学ぶ）

(1) 目 的 ライフプラン（今後の私）を作成する前段階として、製造・建設土木・運輸・自動車整備・農業・看護・介護・販売・サービス・行政など10業種の方々からの講演をおとして、様々な仕事の内容や「働くこと」の意義について理解する。

(2) 期 日 平成29年7月4日(火)、11日(火)

(3) 会 場 本校第一体育館他

(4) 参加者 十日町総合高等学校 1年次生

(5) 講演内容



| 7月4日(火)  |                 |                    |
|----------|-----------------|--------------------|
| 業種       | 事業所担当名          | 内容(予定)             |
| 建設・土木    | 十日町地域整備部        | 建設業、土木業の具体的な事業説明   |
| 介護       | (社) 清津福祉会       | 介護全般(保育)の具体的な事業説明  |
| 看護       | 県看護職員確保対策課      | 看護職員などによる講話        |
| 食品製造     | (株) 玉垣製麺所       | 食品製造の具体的な事業説明      |
| 自動車整備    | 北陸信越運輸局         | 自動車整備業界の具体的な事業説明   |
| 7月11日(火) |                 |                    |
| 業種       | 事業所担当名          | 内容(予定)             |
| 運送       | (公社) 新潟県トラック協会  | トラック運送事業の紹介、試乗     |
| 農業       | 佐藤可奈子           | 農業の魅力や諸活動の具体的な説明   |
| 行政       | 十日町市役所          | 行政機関の具体的な事業説明      |
| サービス①    | (株) 新潟ソフトストラクチャ | ソフトウェア開発の具体的な事業説明  |
| サービス②    | (株) 津南高原開発      | ホテル、レジャー業の具体的な事業説明 |

- (6) 成果と課題 地元企業・事業所で働く方々からの講演をとおして、社会人として必要なことや高校生の段階でやっておいた方がいいことなどを知ることができた。今回は10業種に限定したが、業種の幅を広げることにより、地元企業等の理解が一層深まるものとする。

### 3 企業見学・上級学校見学

#### ア 地元企業見学 (少人数グループ別)

- (ア) 目的 地元企業を見学し、地元産業の理解を深めるとともに、自分自身のキャリアを考える機会とする。

(イ) 期 日 平成29年7月26日(水)

(ウ) 参加者 1年次生 1グループ8名程度 5社×5クラス

(エ) 見学先等 製造業(金属加工・食品・織物)など6社  
 有限会社安全野菜新潟工場(食品製造)  
 株式会社根茂レース(繊維加工)  
 新潟アライ株式会社(製造生産)  
 株式会社山崎食品(水産物加工製造)  
 株式会社スタックス十日町事業所(精密板金)  
 吉澤織物株式会社(製造)



#### (カ) 成果と課題

仕事の大変さや厳しさを知ることができ、仕事をするのが自分の喜びになることに気付かされたようである。地域の企業や事業所側も、次代を担う人材の育成に関わりを持つことができたと同時に、教員以外の大人とのコミュニケーション能力を伸ばすとともに、社会で求められるルールやマナーなど、実際の現場で求められることについて直接、生徒に指導できたことを評価している。生徒は説明を聞き感想を書くだけで終わる傾向にあるため、この学習が他の学習とどう関連し次の学習にどう結びついていくのかを明確に示す必要があると考える。

#### イ 企業見学・上級学校見学 (クラス別)

- (ア) 目的 進路探索活動の1一つとして県内の産業を理解し、生徒の働く意欲や望ましい勤労観を育成するとともに、大学見学を通して進路意識の啓発を促す。

(イ) 期 日 平成29年7月28日(金) 13:25~14:45

(ウ) 参加者 1年生 199人

(エ) 見学先

| 午前・見学場所     | 午後・見学場所  |
|-------------|----------|
| 株式会社井関新潟製造所 | 新潟国際情報大学 |
| 株式会社サカタ製作所  | 新潟医療福祉大学 |
| 株式会社大谷      | 新潟青陵大学   |
| 新潟工科大学      | 原酒造株式会社  |
| 越後製菓片貝工場    | 長岡大学     |



#### (カ) 成果と課題

自分の夢との関連を考える上でも、早いうちから自分の将来の進路を深く考え、その実現のための方法を探るきっかけとして上級学校・企業理解は大切である。ただ、与えられる情報だけでなく、自ら情報を収集しようとする前向きな気持ちで取り組めるとさらに良い機会となると考える。

### 4 大学模擬授業(系列別体験模擬授業)

- (1) 目的 日頃の授業では体験できない内容を出前講義で体験することにより、それぞれの専門的分野や上級学校そのものに興味を持たせる。

(2) 期 日 平成29年12月25日(月)

(3) 参加者 1年生 168名

(4) 取 組 80分×2コマ。1コマ目は希望する系列ごとに、2コマ目は1コマ目と異なる授業を体験。

(文系) 人文科学、生活文化、ビジネス、(理系) 自然科学、農業生産、工業

(5) 参加大学等

| 系列   | 担当者(授業内容)   |
|------|---|
| 人文科学 | 長岡造形大学 池永 隆准教授<br>「デザインってなに？」                               |
|      | 新潟柔整専門学校 高橋 亜姫先生、上原 誠先生<br>「自分でできるコンディショニング法」               |
| 農業生産 | 新潟農業バイオ専門学校 栢澤 敬一先生、齋藤 順先生<br>「施設栽培など、新しい農業の動きをしよう」         |
|      | 新潟大学工学部機械工学 鳴海 敬倫教授、田村 武夫准教授<br>「創造工学実習 ゼロから何かを創ったことがありますか」 |
| 生活文化 | 国際調理製菓専門学校パティシエ学科 星野 香先生、相羽 暁先生<br>「製菓のお仕事の魅力」              |
|      | 長岡大学 栗井 英大准教授<br>「〇×屋」牛井店を開業する                              |



(6) 成果と課題

興味関心のある分野の授業を受講したことから、上級学校での授業の雰囲気を感じながらそれぞれの専門知識を得ることができ、有意義な授業であった。ただし、次年度の系列の学習内容に結びつくものとそうでないものが混在してしまったため、依頼する大学等を精査する必要がある。

5 インターンシップ

- (1) 目的 高等学校におけるキャリア教育の一環として、インターンシップを実施し、社会の一員としての自覚を持たせ、望ましい勤労観・職業観を身に付けさせる。
- (2) 期 日 事前指導：平成29年7月25日(火)、事後指導：平成29年8月25日(金)  
各事業所におけるインターンシップ：平成29年8月16日(木)～24日(木)の間の3日間  
インターンシップ報告会：平成29年12月1日(金)

(3) 受入事業所 68社

(4) 参加者 2年生 168名

(5) 具体的な取組 右表のとおり。

(6) 成果と課題

2年生全員の生徒が、事故等もなく参加できた。また、学年団の先生方全員で、事前指導から事後指導まで行えた。さらに、報告集の作成や報告会をとおした振り返りにより、充実したインターンシップが実施できた。地域や企業の方からの評価も高かった。

次年度は、学校全体の取組として位置付けて実施する。そのシステム作りが肝要になる。

| 期 日             | 具体的な取組  |
|-----------------|---|
| 平成28年12月        | 【1次希望調査】新規開拓についての検討   |
| 平成29年1月～3月      | 【受入事業所の開拓】<br>企業(109社)に趣意書をFAX 受入可企業一覧を作成   |
| 平成29年4月上旬       | 保護者宛文章を作成、配布  |
| 平成29年4月24日～28日  | 【2次希望調査】  |
| 平成29年5月～6月1日    | 【受入事業所の決定】<br>希望調査の開示・変更受付・抽選・最終決定  |
| 平成29年6月上旬～6月中旬  | 【受入事業所への正式な依頼・委嘱状・お断り文書送付】  |
| 平成29年6月14日～7月上旬 | 【インターンシップ事前指導①】<br>今後の日程・電話アポの取り方・企業レポートを書くこと等の説明<br>【事前訪問日等の決定】各事業所の代表生徒による電話      |
| 平成29年7月5日～7月下旬  | 【インターンシップ事前指導②】<br>事前訪問の注意・企業レポートの作成について<br>【就業体験先への事前訪問】                           |
| 平成29年7月25日～     | 【インターンシップ事前指導③】<br>礼儀作法・礼状書きの指導・日程の確認・事後レポートについての説明                                 |
| 平成29年8月16日～24日  | 【各事業所における「インターンシップ」】  |
| 平成29年8月25日・     | 【インターンシップ事後指導】<br>礼状書き、レポート作成   |
| 平成29年9月上旬～9月中旬  | 【アンケート(企業、生徒)、生徒の個人評価票の集計】<br>インターンシップの冊子編集   |
| 平成29年10月～11月    | 【インターンシップ報告会準備】<br>代表生徒の抽出、スライドの作成、プレゼンテーションの指導、<br>企業などへの案内の文書を発送                  |
| 平成29年12月1日      | 【インターンシップ報告会】<br>会場：クロスステン(一般財団法人十日町地域地場産業振興センター)<br>発表者：Aグループ6名、Bグループ29名<br>司会者：4名 |

6 学校研究・企業研究

- (1) 目的 学校選び・企業選びで比較検討の材料を生徒に持たせ、進路決定の一助にする。
- (2) 期 日 平成29年4月3日(月)
- (3) 参加者 3年次生 168名
- (4) 内容 進学希望者は午前1校、午後1校、就職希望者は午前1社、午後1社を見学する。
- (5) 取 組  
Aコース(生徒8名+教員1名)：大学・短大 新潟コース  
Bコース(生徒48名+教員1名)：専門学校 古町～万代～駅南コース  
Cコース(生徒30名+教員1名)：専門学校 駅南コース  
Dコース(生徒16名+教員1名)：大学・専門学校 長岡コース  
Eコース(生徒44名+教員1名)：企業訪問 就職コース

- (6) 成果と課題 参加した生徒には好評で、希望する上級学校をこの時初めて見学したという生徒もいて、所期の目的は概ね達成したと考える。

## 7 地域との連携

### (1) こどもまつり in 分じろう

- (ア) 目的 ボランティアスタッフとして参加し、市民との交流を深める。

- (イ) 主催者 NPO法人市民活動ネットワークひとサポと連携  
(ロ) 関係団体 十日町市、十日町高等学校、十日町総合高等学校、  
(エ) 内容 まつり会場での受付・スタンプラリー・販売等のボランティアスタッフ  
(カ) 場所 十日町市市民交流センター分じろう  
(キ) 期 日 平成29年5月5日(金)  
(ク) 参加者 希望者3名



- (ケ) 成果と課題 今年度初めての取組で、生徒への周知期間が少なく、部活動の大会などとの調整がつけられなかったため希望する生徒が少なかった。今年度の活動をきっかけに、地域での活動の様子が伝われば企画に携わってみたいという生徒も増えてくると考える。

### (2) 笹山縄文 高校生プロジェクト

- (ア) 目的 国宝火焰型土器群出土地である笹山遺跡や縄文文化のすばらしさを広く発信する。

- (イ) 主催者 笹山じょうもん市実行委員会 (NPO 法人笹山縄文の里、中条地区振興会)  
(ロ) 関係団体 十日町市、十日町地域振興局、大井田地区振興会、新産地区振興会、飛渡地区振興会、十日町高等学校、十日町総合高等学校、六日町高等学校

- (エ) 内容 笹山縄文とその周辺の宝ものの取材と撮影  
第18回笹山じょうもん市の撮影と出展コンテストの審査

- (カ) 場所 笹山遺跡広場とその周辺  
(キ) 日 時 平成29年5月21日(日) 9:00~16:00  
平成29年6月4日(日) 9:30~14:00  
(ク) 参加者 十日町総合高等学校 写真部生徒7名



- (ケ) 成果と課題 この企画に携わったことで、初めて笹山縄文遺跡を中心とした地元の素晴らしさに触れた生徒も多く、地元理解のきっかけになった。またNPOの方や他校の生徒と関わる中でコミュニケーション能力を磨く経験にもなった。今回は依頼されての参加であったが、今後企画段階から生徒が関わることで主体性なども高めることができればなお良いと考える。

### (3) ほくほく線プロジェクト

- (ア) 目的 ほくほく線は本校生徒の通学にとっても欠かせないものである。開業20周年を迎え、ほくほく線に対する感謝のメッセージを寄せることをとおして、ほくほく線の役割を理解する。

- (イ) 主催者 ほくほく線沿線地域振興連絡協議会 (新潟県十日町地域振興企画振興部内)

- (ロ) 関係団体 十日町地域振興局 ほくほく線松代駅・十日町駅  
十日町高等学校、十日町総合高等学校、六日町高等学校、松代高校など

- (エ) 内容 ほくほく線沿線地域振興連絡協議会と連携し、巨大ホワイトシートにメッセージ作成。  
「ほくほくフェスティバル2017」時、まつだい駅に展示。

- (カ) 場所 本校にて制作。まつだい駅まつだいふるさと会館で展示

- (キ) 期 日 平成29年7月5日(水)~14日(金) 寄せ書きの作成  
平成29年8月11日(金)~12日(土) 展示

- (ク) 参加者 3年次生 168名

- (ケ) 成果と課題 普段の感謝の思いを形にして残しておくことは、有義のあることであり、地域や環境に対する意識が高めることができた。今回は教員が主導して事業を行ったが、生徒会活動の一環として位置付け、生徒自身が主体的に取り組む体制づくりが、今後の課題である。



このような機会を活かし、生徒の自主性を涵養し、併せて積極性、社会性なども伸ばしていけるような取組を一層推進していきたい。

#### (4) 人を呼ぶきものプロジェクト

(ア) 目的 十日町市では地域の伝統産業で、世界に誇るべき技術と魅力を持つ「きもの」を活かして、交流人口の増加を図り、産地の活性化に結びつける「人を呼ぶきものプロジェクト」に取り組んでいる。その一環として「第10回越後十日町地そばまつり」に来訪されるお客様を、十日町総合高校生徒が着物姿で、十日町駅で出迎え、十日町とまつりを盛り上げる。

- (イ) 主催者 十日町地域振興局企画振興部  
(ロ) 関係団体 十日町服飾専門学校 十日町総合高校  
(ハ) 内容 着物姿での観光客の出迎え  
(ニ) 場所 JR十日町駅、キナーレ  
(ホ) 期日 平成29年10月21日(土)、22日(日)  
(ヘ) 参加者 本校学校設定科目「着付けと文化」の授業選択者を中心に  
両日各8名 合計16名の3年次生が参加。



(ウ) 成果と課題 生徒の感想として、「今まで自分たちと同じ手順で着付けていただいたのに、普段の着付けのできあがりとは全く違う雰囲気の振袖になって、やっぱりプロの人はすごいなと思った。」「帯の結び方や帯締めなどたくさんの工夫があっかわいかった。着物の雰囲気から帯の型などを決めていて多くのパターンがあるということがわかった。」「十日町の着物文化に触れることができ、着付けの授業で学んだことが役に立った。」など、寄せられた。授業と地域産業のつながりを理解する良い機会ととらえる生徒が多かった。

#### (5) まちなか×GAKUENSAI (各種部活動+関連授業+生徒会)

(ア) 目的 「学」～教える事は学ぶ事～  
教える事で学ぶ事はたくさんあり、教える側も教わる側も、学びを通じた自己研鑽や世代間交流を目指す。

- (イ) 主催者 NPO法人 市民活動ネットワーク ひとサポ  
(ロ) 関係団体 NPO法人 にぎわい、十日町市、アップルとおかまち、わかふえ、いこて  
十日町高等学校、十日町高等学校定時制、十日町高等学校松之山分校、十日町総合高等学校、小出特別支援学校川西分校、松代高等学校  
(ハ) 内容 「いこて」での調理・接客、「分じろう」の屋台での調理・接客、「まちなか」のライブ、「まちなか」のパフォーマンス  
(ニ) 場所 十日町市市民交流センター「分じろう」「十じろう」  
(ホ) 日時 平成29年11月12日(日) 10:00～14:00  
(ヘ) 参加者 3年次生の希望者5名、1年次生の希望者3名、音楽部  
18名



(ウ) 成果と課題 本事業は、学校という単位を超えて地域とつながれる貴重な機会であった。他校の生徒やNPO法人の方とともに活動する中で、地域おこしやまちの賑わいについて考えるきっかけとなった。今後、生徒が企画に「参加する」だけでなく、「企画の提言」や「運営」に深く携わることで、さらに視野が広がり積極性や社会性を身につける機会につながると考える。

### 8 その他

#### 県外総合学科設置校の訪問

期日・参加者 平成29年10月26日(木)、27日(金)・校長、教頭、本校教諭3名  
訪問校 長野県中野立志館高等学校、長野市立長野高等学校の2校。

### 9 総合所見

学校・家庭・地域・産業界が一体となり、生徒の活動を広げると同時にキャリア教育を支援していく環境が整いつつある中で、各活動の実施には各部署のより有機的な連携と明確な活動目的、各部署における責任の所在、それらの計画の早期提示が必要であると考え。また、高校生の行動力や積極性をより大きく育てることが求められており、このような諸活動を地域全体に盛り上げる機運を大きく広げていくことこそが重要であると考え。

次年度以降、生徒が主体のキャリア教育委員会と職員のキャリア教育委員会を作り、学校全体が、組織的な活動として取り組む計画である。

(様式1)

柏工 第 238 号

平成 30 年 2 月 15 日

高等学校教育課長 様

学番 65 県立柏崎工業高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

## 県立柏崎工業高等学校

**【テーマ】** 地域と連携してキャリア教育と防災教育を推進し、地域に貢献できる  
エンジニアを育成する  
～工業高校の特性を活かしたキャリア教育と防災・減災教育の推進～

### 【目標】

- ・高校生インターンシップ等推進地域協議会を中心に、地域の企業と連携し、インターンシップ、デュアルシステムを実施し、キャリア教育の充実発展を図る。
- ・各種ボランティア活動を実施し、地域に貢献する意識を育てる。
- ・地域と連携し、インターンシップ等を活用し、技術を修得し、防災、減災に繋がる製品を製作し、知的財産（実用新案、特許、意匠、商標等）の学習をとおり、実用新案の申請を試みる。
- ・地域の関係機関と連携し、工業の専門知識・技術を修得し、各種資格取得を図り、希望進路の実現に繋げる。（卒業までに、専門の資格取得をする）

### 【取組の概要】

- ・インターンシップ・デュアルシステムの実施
- ・インターンシップ等推進地域協議会の運営
- ・学校での企業説明会（保護者・生徒対象）の実施
- ・柏崎市の総合防災訓練への協力と参加
- ・保育園、福祉施設への訪問ボランティア
- ・地域と連携し、実用新案、特許等の申請を目指す
- ・地域と連携した起業家教育の推進による、模擬株式会社での生徒研究の実施

### 【取組の成果】

- ・取組を通して、地震や風水害などの自然災害から自らの生命を守るのに必要な能力や態度を身に付けさせるとともに、助け合いやボランティア精神など「共生」の心を育むことができる。
- ・地域と学校が連携した活動を実施することにより、一人一人が安全で安心なまちづくりに参画する防災マインドを醸成することができる。
- ・生徒の自主性を引き出し、キャリアアップに取組むことで就職や進路選択へつながることが期待される。

## 【平成 29 年度の取組】

### 【防災施設見学】

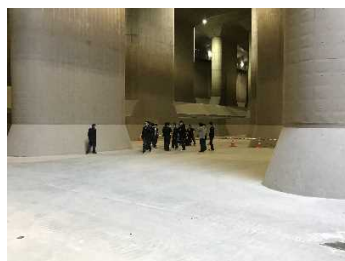
- (1) 見学先 首都圏外郭放水路（国土交通省江戸川河川事務所）  
東京臨海防災公園（そなエリア・国営公園 6.7ha 都立公園 6.5ha）
- (2) 実施日 平成 29 年 12 月 14 日（木）～15 日（金）
- (3) 担当 電気科 教諭 小池 弘・渡辺 知秀
- (4) 概要

#### ア 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、あふれそうになった中小河川の水を地下に取り込み、地下 50メートルを貫く総延長6.3キロメートルのトンネルを通して江戸川に流す、世界最大級の地下放水路である。日本が世界に誇る最先端の土木技術を結集し、平成18年6月に完成した。主要設備として大きく3つの機能で構成されている。地上の溢れた水を地下に取り込む機能、水を地下空間に溜めておく機能、そして貯まった水を吐き出す機能である。



写 1 首都圏外郭放水路併設  
学習施設「龍Q館」見学



写 2 「地下神殿」と呼ばれる  
巨大な調圧水槽



写 3 操作室

#### イ 東京臨海防災公園

東京臨海広域防災公園は国の災害応急対策の拠点として整備された6.7haの国営公園、6.5haの都立公園の計13.2haの広域防災公園で、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設である。ヘリポートや病院なども整備されている。また公園内のベンチは、かまどやトイレに変身するものが配置されている。



写 4 ヘリポート



写 5 地震発生直後の市街地



写 6 防災グッズ

#### (5) 成果と感想

今回の見学会では、防災・減災や生き抜く力について深く考え、行動していくための知識を得る良い機会になった。見学した生徒も教室で学んだ理論を体験的且つ実地的な知識と技術に発展させることができた。今後も全国さまざまな防災に関する施設設備を見学・学習し地元還元できるように取り組んでいきたい。

## 【研究の成果】

### < I 転倒しにくい清掃用具掛けの製作 >

#### 1 研究目的

通常使用されている清掃用具ロッカーは、地震が発生した場合に転倒して避難経路を塞いだり、避難の妨げになったりすることが予想される。また、通常使用されている清掃用具ロッカーは転倒した場合、一人で立てることが大変である。これらの問題を改善して、震災に備えた清掃用具置場を製作することを目的とする。

#### 2 研究開発の経緯

##### (1) 1年次（平成27年度）

通常使用されている清掃用具ロッカーを改良して対応するか、新しく清掃用具置場を設計して製作するかの方向性を決めるために検証及び試作を行う。

##### (2) 2年次（平成28年度）

平成27年度の検証を踏まえて、新しく清掃用具置場を設計して製作することに決めた。今年度は試作品を基にして、各部品の寸法や製作方法を検討して、実際の製作にとりかかる。

##### (3) 3年次（平成29年度）

平成28年度は試作品を基にして図面を作成し、その図面から清掃用具掛けを10台製作した。今年度は、学校の全ての学級にこの清掃用具掛けを設置するため、不足分を製作するとともに、平成28年度からの課題である地震に対する耐震性を検証し、評価をする。

#### 3 研究内容（平成29年度の取り組み）

##### (1) 不足分の製作

平成28年度に作成された図面を基にして、不足分の8台の清掃用具掛けを製作。

##### (2) 耐震性の検証及び評価

起震車（写4）に乗せて地震に対する耐震性の検証を行った。起震車の壁が傷つくため、清掃用具掛けにカバーを掛けて検証した。その結果、震度7で後側に倒れてしまったが、前側には転倒しなかった。（写5）

#### 4 まとめ

3年間を通して防災、減災につながるものづくりとして、転倒しにくい清掃用具掛けに取り組んだ。初年度は試行錯誤しながらも現在の原型になるものを製作した。2年目にはある程度の形を部品図、組立図等を作成しながら製作することができた。最終年度の今年度はフレームのR部の材料を薄鋼電線管E19に変更し、R部の完成度をさらに上げることができたが、肉厚が薄いためフックの溶接では大変苦労した。しかし、予定していた台数は何とか組み上げることができた。

本研究は高橋遙を考案者代表にし、出願人を学校長名で実用新案登録申請中である。



写1 製作した清掃用具掛け



写2 設置した掃除用具掛け（1台14Kg）



写3 旋盤を使用しての部品の製作



写4 地震を疑似体験できる起震車



写5 検証後の様子

## <Ⅱ 動物型ロボットの製作>

### 1 研究目的

リンク機構を用いた動物型ロボットの開発を通じて、生徒に機械加工・機械組立を学ばせる。今回取り組んだやどかりロボットはタオ・ヤンセンのリンク機構を利用したものである。大変滑らかな動きをするが、部品点数は少なくて済み、組み立ても簡単である。学校を訪問してやどかりロボットを小学生、中学生から組み立ててもらい、製作を通じた交流から柏崎工業高校の活動を地域に伝えていくことや、小学生・中学生からものづくりの楽しさを知ってもらうことを目的とする。



写1 やどかりロボットの組立作業

### 2 研究内容（平成29年度の取り組み）

- (1) やどかりロボットの製作手順は次の通りである。
  - ① シャーで大きなアルミ板を切断し、作業のしやすい寸法にする。
  - ② アルミ板から部品を1つ1つコンターマシンや金鋸で削りだしていく。
  - ③ アルミ板をハイトゲージでだけがき、ポンチで打ちボール盤で穴あけをする。
  - ④ やどかりの貝殻をつくる。ボール紙を切り取りカラースプレーで塗装する。
  - ⑤ しっかり動くようにドライバーやレンチを使い慎重に組み立てる。



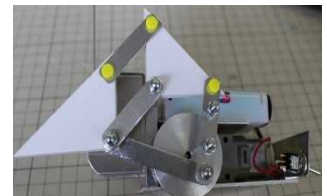
写2 本体完成



写3 貝殻製作



写4 貝殻完成



写5 足部組立後

- (2) 柏崎市立鯨波小学校訪問  
放課後の子供教室「くじらっこクラブ」で児童にやどかりロボットを作ってもらった。組み立てはマニュアルを使い児童と一緒にやった。貝殻は好きな模様を選んでもらった。
- (3) 県立柏崎特別支援学校訪問  
柏崎特別支援学校の皆さんとロボットを使ってロボット当てクイズをしたり、操作して遊んでもらった。やどかりロボットの組み立てもした。病棟訪問ではロボットに親んでもらった。



写6 鯨波小学校訪問



写7 鯨波小学校訪問



写8 柏崎特別支援学校訪問



写9 柏崎特別支援学校訪問

### 3 まとめ

今回、やどかりロボットを製作してもらうことや様々なロボットを体験してもらうことを目的に柏崎市立鯨波小学校と柏崎特別支援学校を訪問した。柏崎市立鯨波小学校の訪問では、一生懸命製作に取り組みロボットができたことに喜び、ロボットで楽しく遊ぶ児童を見て、生徒はやりがいや充実感を感じることができたのではないだろうか。柏崎特別支援学校の訪問では、普段ロボットを扱っていてもその不具合に気付かないでいたコードの長さやボタンの固さが問題となった。今後も周りから評価されるものづくりを目指し生徒と共に製作を行い、柏崎工業高校の技術を多くの人に知ってもらい広げていくために、これからも色々な所を訪問して行きたいと考えている。

## <Ⅲ 災害時に役立つ小水力発電機の製作>

### 1 研究目的

本研究は、災害時の電力確保に貢献できる製品開発を目指し、防災エンジニアコースの課題研究として平成 25 年度より取り組んだ。平成 26 年度には、地域の大学や企業の協力により実用性のある小水力発電機（3号機）が完成し、通信機器の電力確保という当初の目的が達成され、平成 27 年度は、3号機の改良（水車羽根のサイズダウン、軽量化など）を施し性能を向上した。平成 28 年度は、「D Wheel TypeⅣ（4号機）」の性能データを得るため、LED防犯灯の設置による長期実験を実施した。実験では、安定した発電が確認され災害時の利用が可能であることがわかった。今年度は、長期実験の際に水車のゴミ除去が課題となり、これを解決する目的で研究を進める。

### 2 研究内容（H29 年度の取り組み）

#### (1) アイデアで解決

昨年度の長期実験から、ゴミの除去が最も大きな問題点となった。石や異物による水力発電の停止は以前から懸念されており、TypeⅣの場合、小さなゴミを羽根の隙間で流し込んでしまう特徴をもっている。この特徴を活かしたアイデアの検討を始めた。



写1 D Wheel TypeⅣ

#### (2) メンテナンス作業と各種イベントへの出展

構造の理解やアイデアを検討するため、出展準備を兼ねたメンテナンス作業を行った。今年度も「中越地震復興10周年記念・みんなの防災フェア2017」など複数のイベントへの出展が行われた。メンテナンス作業では、発電機の回転に合わせて異音が発生していることに気がついた。長期間用水路に設置したため、汚れや発電機内の錆が原因と思われる。



写2 水車を停止させた異物

#### (3) 検討したアイデア

脚立やイスのように利用し、災害時に発電機に変形するというアイデアである。また、農村地の利用を想定しているため、農作物を運搬する台車などでも使用できないかと複数のアイデアが挙がった。（写4）



写3 イベントへの出展

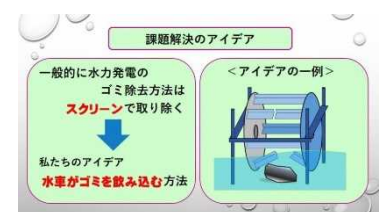
#### (4) アイデアの熟成

検討したアイデアをより深く熟成させるために、品銀鉄工所の品田社長様に相談をさせていただいた。アイデアの説明をしたところ、金属以外に使用できそうな「柔らかな素材」を教えていただいた。

### 3 まとめ

#### (1) 得られた成果

小水力発電機は着実に発展し、当初の目標を大きく上回り実用性の高い小水力発電機へと成長している。これは我々の取り組みだけでは達成することができず、惜しみなく協力をしていただいた地元企業・大学・地域の方々の存在が大きかったものと思われる。得られた一つ一つの成果は大変大きいものではあるが、「研究を維持できる環境」を築けたことが本研究の最大の成果であったと考えている。今後も本研究を継続できるよう、しっかりと引き継いでいきたい。



写4 ゴミ除去アイデアの一例



写5 別機能をもたせるアイデアの一例

## <Ⅳ バイオマスの研究 ～ミドリムシの大量培養～>

### 1 研究目的

本研究では、ミドリムシ懸濁液(国立環境研究所分譲株:ユーグレナグラシリス Nies-48/HUT 培地(軟寒天))から段階的に培養液を増量する方法により、室内に設置したこども用ビニールプール中でミドリムシの大量培養を行った。ミドリムシの培養システムにかかるコスト面、メダカの生育状況と水質測定の結果から、この育成システムの評価を行い、問題点を整理する。

### 2 研究開発の経緯

#### (1) 3年次(平成29年度)

4月～7月 準備期間

- ① 微生物実験の基本(ミドリムシの取扱い方法、光学顕微鏡・オートクレーブの使用方法)
- ② 培養液の調製(秤量、溶解、希釈、滅菌) ③ 微生物の植付け(微生物懸濁液を培養液へ)
- ④ フラスコサイズでの培養実験 ⑤ メダカの飼育とグリーンウォーターの予備実験

9月～12月 培養・応用(フラスコ培養、こどもプール培養、グリーンウォーターとメダカ飼育)

1月 研究のまとめ(レポート・プレゼンスライド)、校内課題研究発表会

3月 新潟薬科大学応用生命科学部高等学校理科系部活動支援事業「報告・交流会」発表

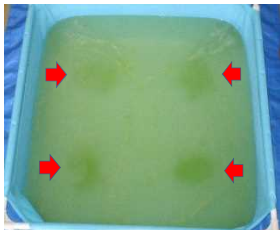
### 3 研究内容(H29年度の取り組み)

#### (1) 準備期間

ミドリムシ懸濁液(HUT培地(ユーグレナ濃度不明))5mLを軟寒天HUT培地200mL(三角フラスコ内)に加え、実験室内にて培養した。フラスコの外から目視すること、及び培養液の一部をピペット採取して光学顕微鏡による観察を行うことにより、ミドリムシの増殖状況を確認した。

#### (2) こどもプールでの大量培養とエトワットによる使用電力等の測定

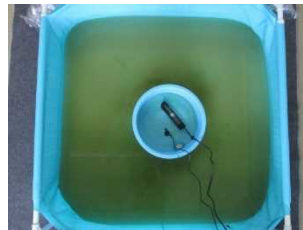
必要な試薬量を加えた2Lの高濃度培養液をオートクレーブ滅菌した後、寒天と48Lの蒸留水を加えて調理鍋で煮沸する操作を行い、それを2回繰り返して100Lとした。こどもプール(縦122cm×横122cm×高さ30cm、最大容量297L、材質・ポリ塩化ビニル)に常温にした培養液を投入し、培養したミドリムシ懸濁液200mLの4本プール内の培養液に植え付けた。(写1)。



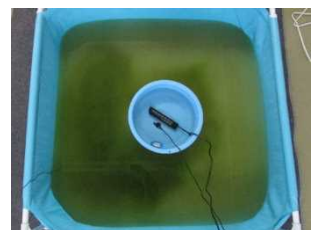
写1 こどもプール培養の  
植え付け直後



写2 培養プール全体



写3 培養2週間後



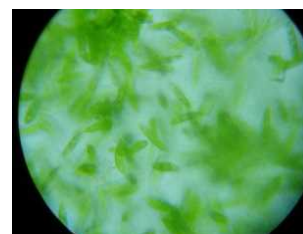
写4 培養1ヶ月後



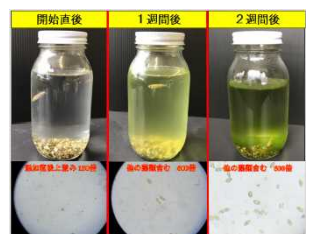
写5 水流発生装置による攪拌



写6 培養2ヶ月後



写7 こどもプール培養した  
ミドリムシ(600倍)



写8 グリーンウォーター  
の変化と顕微鏡観察

こども用ビニールプールの中でミドリムシを大量培養させた後、得られたミドリムシを含む培養液を、メダカに「生のえさ」として与え、パケットによる水質検査や顕微鏡観察などにより水質評価することで、グリーンウォーターの水環境中でメダカが生育できることが確認できた。今後の課題は、大量培養の際の保温に電気を多く使用するため、加熱する電気設備の種類やレイアウトを検討することや水質を汚染しないことなどが挙げられる。

(様式1)

高農第 250号

平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番70 県立高田農業高等学校長

オンラインワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

県立高田農業高等学校

【テーマ】 地域と連携した商品開発をととした6次産業化の推進

【目 標】

地域と連携し、地元食材を使った食品を開発し、地域の特産品を開発する。

【取組の概要】

1 地元の食材の学習と地域との連携

地域の特徴的な食材について学習し理解を深め、本校の卒業生をはじめとした地域の農家または食品関係の企業と連携し、上越地域または本校生物資源で生産した食材を使用した食品を開発し、商品化につなげる。

2 加工・製造の専門的な知識・技術の習得・試作・試験販売・商品化

(1) 地域の食品製造の現場から講師を招いて技術指導を受け、専門的な知識を学び技術を高める。また、現場実習（インターンシップ）を実施し、職業現場における実技指導を受けて専門性の高い技術・知識を身につける。

(2) 習得した知識・技術を活用して商品を試作する。必要に応じて関係者を招き、試作品の評価を受ける。

(3) 本校の模擬販売店舗「山カフェ」や地域のイベント等で試験的に販売し、評価を受ける。販売に関わる広報、用具の用意、原材料の生産等、他学科と連携を図る。

(4) 商品化にあたり、パッケージ等のデザインを必要に応じて各学科・コースと連携して検討する。また「山カフェ」等イベント開催時に使用するフォーク、スプーン、小皿などを来客に紹介し、商品化を目指す。

3 学科間連携として「山カフェ」の店舗の内装の製作・提供

(1) インテリア家具（テーブル・椅子）の製作・提供

(2) フラワーアレンジメントの製作・提供

4 活動成果の発表

校内研究活動発表会に地域住民を招いて3年間の活動成果を発表する。文化祭等で開発した食品の紹介、展示等を行う。

【取組の成果】

○地元企業等と連携し、クリスマスケーキの商品開発を進めることで、地域における「高農」ブランドのイメージを高めるとともに定着を図ることができた。

○地元食材の利用として「大豆」に注目し食品開発に取り組んだ。

○NPO法人との連携事業や地域住民対象の園芸教室については、生徒の積極性やコミュニケーション能力の向上につながった。

## 【これまでの経過】

平成27・28年度の2年間の外部講師の指導により、生徒の和洋菓子の知識・技術及び製造・販売に対する意識が向上し、クリスマスケーキの新商品を開発し年々販売数を増やすことができた。他学科との連携として森林資源コースが「山カフェ」店舗用の木製テーブルを提供した。更に草花園芸コースにおいて地域住民対象の園芸教室を開催し、学校の教育活動を紹介することができた。

## 【平成29年度の取組】

今年度は食品科学科が行う「山カフェ」の充実を図ることに重点をおいた。まず、これまで開発したクリスマスケーキなどの和洋菓子の販売と並行して、食物アレルギーがある人にもおいしく食べられるアレルギーフリースイーツの開発・商品化に取り組んだ。次に上越市より地元産品の開発と商品化を依頼され、地元産大豆を使ったソイバターの研究開発・商品化に取り組み、「山カフェ」での試験販売を目指した。更に生物資源科と連携し、木製折り畳み椅子とフラワーアレンジメントの提供を受けることにより、店舗のインテリアの充実を図った。

### 1 地元の食材の学習と地域との連携による食品開発

#### (1) 上越市との連携

上越市は東京オリンピックを見据えて、平成27年度より地域の資源を活かした消費者目線の商品の開発と商品化に取り組んでおり、そのひとつとして上越市の特産品である大豆を利用したソイバターの開発・商品化を、上越市ものづくり振興センターから依頼され、この取組を開始した。

#### (2) 取組内容

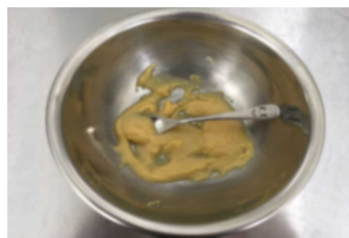
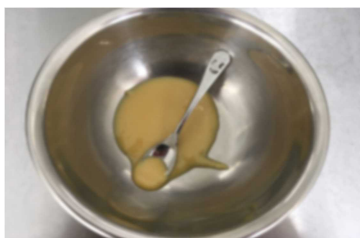
9/19 (火) 上越市ならではの製品づくり (ソイバター) における事前説明会

まずソイバターの既存製品を研究し、普通のバターとの相違点および製造原理について調査した。

10/17 (火) 管理栄養士 望月恵理子 様によるソイバター検討会健康、栄養の面から検討した。

その結果、大豆をベースとし、大豆の粉に植物油を添加し、ペースト状とする方法を採用し、使用する植物油には「健康」により $\alpha$ -リノレン酸を多く含むエゴマ油を用いることに決定した。

その他の添加物として、グラニュー糖・黒糖・メープルシロップ・塩麴・味噌・醤油・魚ぼん (海洋高校) ・プレーンの8種類を候補とし、それぞれ試作品を作り、アンケートを採った。



(ソイバター試作品：左からプレーン・グラニュー糖添加・黒糖添加)

1/31 (水) ものづくり振興センター 本田勝之助 様によるソイバター検討会をものづくり振興センターで実施した。

2/3 (土) 「山カフェ」においてソイバターの試食会を実施した。

## 2 アレルゲンフリースイーツに関する知識・技術の習得・試作・試験販売・商品化

### (1) アレルゲンフリースイーツ開発の経緯

外部講師が経営している店舗や「山カフェ」に、食物アレルギーに対する問い合わせが多く寄せられていた。そこでインターネットニュースサイト上越タウンジャーナルの協力を得て市民にアンケートを実施したところ、「卵アレルギーがあり、シュークリームやチーズケーキを食べられない。」「卵と小麦粉のアレルギーがあり、ケーキを食べたことがない。」などの声が数多くあり、「食物アレルギーがある子供たちが食べられる洋菓子へのニーズが高いことが分かった。そこで、食物アレルギーがある人にとって「3大アレルギー物質(アレルゲン)」とされている小麦粉、卵、乳製品(バター)を使用しないアレルゲンフリーの「家族で楽しめるスイーツの開発・改善」に取り組んだ。



＝2017年3月30日＝

「山カフェ」出店などでおなじみの新潟県立高田農業高校(上越市)の食品科学科食品加工コース新3年生23人が、卵や小麦、乳といったアレルギー対応のメニュー開発に乗り出した。商品製造、販売に向けて情報収集やレシピ作成などをスタートさせたほか、アレルギーに悩む人たちの「声集め」にも取り組んでいる。完成、販売は今年夏頃を目指す。

班ごとに分かれ、メニュー開発を行う生徒たち



### (2) アレルゲンフリースイーツの取組

#### ① 洋菓子への取組

今年度も「パティスリー・オ・ラランティ」の澤田 俊太郎氏の指導を受けた。

4/15(土)「山カフェ」の開催

4/17(月)澤田氏講座「アレルゲンフリースイーツ」の開発各班が研究の方針に則り製作した試作品を、試食・評価していただいた。

4/24(月)澤田氏による技術指導

卵・小麦粉フリーのスポンジケーキを試作した。鶏卵の起泡性を利用する代わりに膨張剤を使用した。また、小麦粉の代わりに米粉を使用した。

5/8(月)澤田氏による講座

卵・小麦粉フリーのスポンジケーキを元に他の製品を検討し、柑橘のフレッシュケーキ、ブラウニー、甘酒プリンを製造することに決定した。

5/22(月)試作品の製造と評価

澤田氏に試作品の味・色彩や形状の指導を受けた。そこで改善点をあぶり出し、その改善方策について検討した。

5/28(日)妙高市文化ホールで行われた「みょうこうファミリーフェスタ」に「山カフェ」を出店し、アレルゲンフリースイーツの試食コーナーを併設、試験販売を行った。

6/3(土)妙高市 家'sハセガワ株式会社本社で行われた「家'sハセガワ サンクスフェア」に「山カフェ」を出店した。アレルゲンフリースイーツの試食コーナーを併設、試験販売を行った。

6/12(月)澤田氏による講座

試食会を受けてアレルゲンスイーツの評価と改善点について検討した。



(スポンジケーキ)



(みょうこうファミリーフェスタ)

- 6/17 (土) 「山カフェ」でのアレルギーフリースイーツ試食会の実施・試験販売  
 上越市本町5丁目「ほっとステーション5番館」において通常の営業と並行して、「卵・小麦フリースポンジケーキを使った柑橘フレッシュケーキ」「甘酒プリン」「ブラウニー」の試食会と試験販売を行った。



(フレッシュケーキ)



(ブラウニー)



(甘酒プリン)



(山カフェでの販売の様子)

- 6/19 (月) 澤田氏講座  
 試食会・試験販売を受けて今後の改善点について検討した。
- 7/13 (木) 新潟県学校農業クラブプロジェクト発表県大会の区分2類に「アレルギーフリースイーツ開発・改善の取り組み」と題して、これまでの取組を発表した。
- 7/22 (土)・9/2 (土) 「山カフェ」アレルギーフリークリスマスケーキの試食会の実施
- 9/30 (土) 「山カフェ」アレルギーフリークリスマスケーキの試食会
- 11/11 (土) 高農祭に「山カフェ」を出店 アレルギーフリースイーツ試食会を開催
- 12/16 (土) 「山カフェ」アレルギーフリークリスマスケーキの試食会を実施
- 12/22 (金)～25 (月) アレルギーフリーのクリスマスケーキの販売  
 インターネットニュースサイトに載せたところ、前年以上に予約が増加した。
- 1/20 (土) 「山カフェ」の実施



(アレルギーフリーのフレッシュケーキ)



(アレルギーフリーのブラウニー)

## ② 和菓子への取組

今年度も菓子処「ほそ山」の細山 剛氏の指導を受けた。

- 9/4 (月)・9/11 (月) 細山氏講座  
 団子・餡子・大福の製造技術講習の実施
- 9/25 (月) 細山氏講座  
 前回の講座で製造した餡子を使用した焼き饅頭製造技術講習の実施
- 10/2 (月)・16 (月) 細山氏講座  
 どら焼き製造技術講習及び練り切り製造技術講習会の実施
- 10/23 (月)・30 (月) 細山氏講座  
 饅頭及び水饅頭・赤飯・栗おこわ製造技術講習会の実施

### 3 学科間連携

#### ① 生物資源科 森林資源コースの取組

食品科学科との連携事業で「山カフェ」の店舗に設置する折り畳みイスを製作した。昨年度設置した分解式丸テーブルのデザインに合うように「形状」「色彩」を検討し1年間かけて仕上げた。生徒は折り畳みの仕組みや構造を既製品から検討したり、材質・強度などを考え、試行錯誤しながらも作業を行った。「山カフェ」来店者から様々な問い合わせがあり好評だった。



(折りたたみ椅子の製造実習：座面の組立・可動部の調整)

(「山カフェ」への提供・展示)

#### ② 生物資源科 草花園芸コースの取組

ア) 「山カフェ」店舗に提供するインテリアの知識・技術を学ぶため、「農業の最新技術の取得事業」において5月に地元園芸店「花あそび」の店長を講師に招き、フラワーアレンジメント作品の製作指導を受けた。

イ) 地域住民対象の園芸教室の開催

フラワーアレンジメントの知識・技術を高めるため、地元東城1丁目の住民を対象に生物資源科草花園芸コース3年生が講師として取り組んだ。

第1回 5月24日(水) 9:00~10:30 「フラワーアレンジメント」

第2回 5月31日(水) 9:00~10:30 「夏の花の寄せ植え」

生徒は日頃学んでいる学習内容を参加者に丁寧に説明していた。しかし、いくつかの課題があったため「山カフェ」に園芸教室で製作したフラワーアレンジメントを提供できなかった。一方、2年間の取組で地域の人たちとの交流が深まり、来年度の東城町1丁目の道路拡張に伴う美化活動の一環として花壇作りの依頼や、「城下町高田花ロードの会」からも様々な催事の協力依頼が寄せられている。



(フラワーアレンジメント)



(夏の花の寄せ植え)

#### 4 活動成果の発表

1月17日（水）の校内研究活動発表会において3年間の取組を全校生徒に発表した。東城町1丁目の町内会長らが来校し、取組の成果を聴いていただいた。



(アレルギーフリースイーツ開発の発表)



(ソイバターの研究発表)

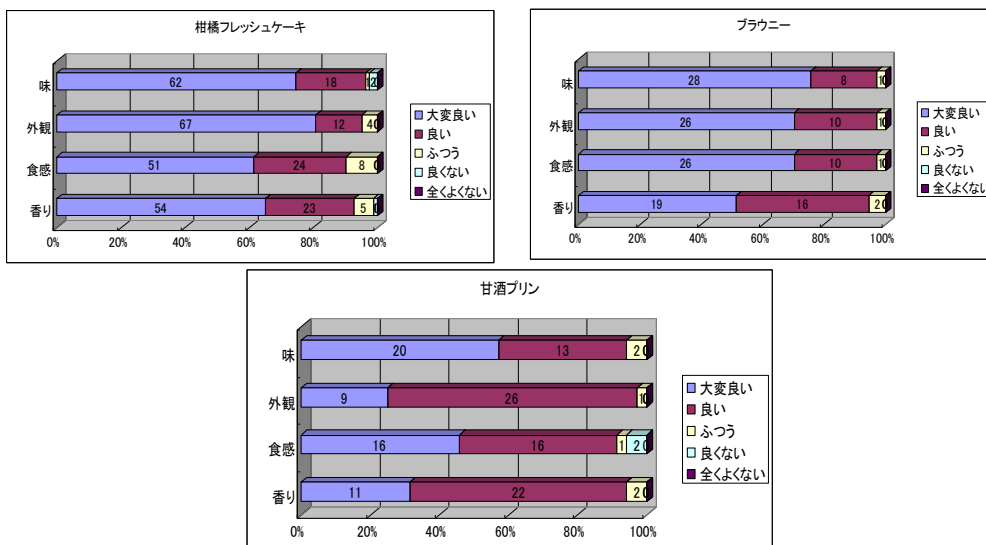
##### (1) 地元の食材の学習と地域との連携

「山カフェ」来店者3名にソイバターを試食していただき「『ソイバター』または『大豆バター』とお聞きになって具体的にイメージできますか」との問いに1～5（できない～できる）のうち約70%以上が1または2を回答し、具体的なイメージを持っている人が少ないことが分かった。

また、それぞれのソイバターを試食していただいた感想の中には甘いソイバターはピーナツバターのようにパンに使うスプレッド的な使い方に向いているという回答があった。塩味のあるものはご飯のおかずや酒の肴として利用するか、野菜のドレッシングとして使用するとよいという回答が多かった。このアンケートからソイバターの認知度を上げることが必要であることが分かった。

##### (2) アレルギーフリースイーツ等の商品化

今年度の製造技術講習会は和菓子・洋菓子各6回の計12回実施した。この講習会に対する生徒のアンケート調査（対象：食品科学科食品加工コース23人中19名）によると、生徒は外部講師の指導については今年もおおむね「参考になった」としており、「新商品の開発の力はついたかどうか」との問いに、生徒のほとんどは力がついたと回答している。この技術と自信がクリスマスケーキの製造・販売に活かされ、地域から好評を得たものと思われる。



(3) 学科間で連携した「山カフェ」の開催

- 高田商店街の協力を得て、月一回の「山カフェ」を出店し、取組の成果を地域に発信することができた。
- 森林資源コース製作の木製テーブルとイスを「山カフェ」に提供し、お客様から好評を得ることができた。草花園芸コースによるフラワーアレンジメントの提供は達成できなかったが、園芸教室で地域住民との連携や交流が深まり、県道沿いの花壇の設置活動へと繋がった。この取組を次年度に繋げていきたい。

校内活動研究発表会でこれらの成果を発表し、全校生徒からこの活動についての理解を得られたものと考えている。

(様式1)

上総技第 300 号の3

平成 30 年 2 月 9 日

高等学校教育課長 様

学番 71 県立上越総合技術高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

県立上越総合技術高校

**【テーマ】** 上越地域から活力を！  
～地域が生徒を育て生徒が地域を支える～

**【目標】**

社会生活を送る上で求められるものは、社会性、人間性、コミュニケーション能力などの人間力であると考え。そのような観点からキャリア教育のあり方を考え、技術と人間力を育てていくことを目標とした。(専門高校と地域の活性化)

**【取組の概要】**

(1) キャリア教育推進

上越地域に唯一の工業科専門高校として、地域に貢献できる人材育成に応えるために地域の企業等と連携したキャリア教育(インターンシップ・デュアルシステム)を推進した。

(2) 技術技能伝承

「課題研究」及び「実習」の時間を活用し、地元企業や上越テクノスクール等の熟練技術者の指導を受けることにより技術技能の伝承を図った。

(3) 産業理解

機械工学科を中心として県立海洋高校との連携による施設設備の有効活用により他産業への理解を深めた。

**【取組の成果】**

(1) 生徒の勤労観、職業観の育成を地域の企業と連携できるよう、かつ一人でも多くの生徒をインターンシップやデュアルシステムに参加させるために、地元企業及び企業組合等とともにインターンシップ・デュアルシステム推進会議を構成したことで、受入協力企業の掘り起こしができた。

(2) 機械加工技術を習った生徒はものづくり関係コンテストへの参加を通しながら身につけた技能を発揮し、電気工事施工技術を習った者は国家資格取得挑戦へと結びつけていった。一方、受けた技術の還元として、生徒が講師を務める「ものづくり塾」を開催して地域の小中学生にもものづくり指導が実践できた。

(3) 実習船「海洋丸」での船上実習は、授業で学んだ理論を実機で検証し、自身が学んだ技術が地域の産業に生かされていることを体感した。

(機械工学科・メカトロニクス科)

## 1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

### (1) 実施形態

インターンシップには 15 事業所に受入れていただき、機械工学系 2 年生のおもに就職希望者のうち 21 名、デュアルシステムにはメカトロニクスコースから 2 名の生徒が参加した。

### (2) 報告会の開催 (機械工学科・メカトロニクス科)

10 月 10 日 (火) 本校会議室において、機械工学系 2 年生 79 名を対象として、各事業所別にインターンシップ 15 社、デュアルシステム 2 社についての発表を行った。受入事業所等より 15 名並び本校他科職員 10 名が参加した。



インターンシップ風景

## 2 ものづくり塾について

### (1) 目的や実際の取り組み

文化祭で、おもに地域の中学生・小学生に向けて実施した。内容は「バーサライターの製作」および「ハンドスピナーの製作」について行い、課題研究などで取り組む生徒が子供たちを指導した。

### (2) 取り組みの成果

子供達を中心に熱心に取り組んでもらうことができ、また広い年齢層から大勢の参加があった。



ものづくり塾

## 3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

### (1) 県立上越テクノスクールとの連携

機械設計部溶接班の 2 年生 1 名・1 年生 3 名が、高校生溶接コンクールへの出場に向けてアーク溶接の実技指導を受けた。

### (2) 地元企業による出張授業

機械工学系 2 年生の 79 名を対象に、新和メッキ工業株式会社専務締役の瀧見直晃様よりメッキの基本と最先端めっき処理についての授業を受けた。実演等をまじえた内容に生徒は興味深く学ぶことができた。



アーク溶接の実技

## 4 県立海洋高等学校との連携

機械工学科・メカトロニクス科 3 年生 73 名 (機械科職員 5 名が、能生港で海洋高校所属の実習船「海洋丸」にて機関実習として、船用ディーゼル機関 (主に燃料噴射弁) の調整・試運転の実施や船内の見学を行った。また同所において 8 月 7 日 (月) ~ 10 日 (木) に、課題研究の現地実習として 3 年生 11 名が、主エンジンや発電機の分解・組立など、さらに詳細な内容に関する実習を行った



海洋丸

## 5 総合所見

インターンシップ・デュアルシステムは、就職希望者全員が可能な限り参加できるようにさらに拡大させたい。ものづくり塾は概ね成功した。さらに地域への積極的な PR を図る必要がある。また新潟県高校生溶接コンクールでは、生徒は健闘し、次回はさらに上位を目標としたい。海洋丸の実習は、今後も学校間の連携を維持して次年度以降も継続させたい。

(電子情報科・電気工学科)

## 1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

### (1) 実施形態

新潟県電気工事工業組合上越支部ならびに地域企業計 14 社から生徒 27 名を受け入れていただき、7 月 26 日～8 月 27 日の期間でそれぞれ、3 日間の企業実習を実施した。



大和電建(株)実習風景

### (2) デュアルシステムの実施

#### ア 大和電建(株) 電気工学科 2 学年 1 名参加

8 月 3 日～10 日、8 月 17 日～19 日の間で合計 10 日間実施した。照明器具配線・取り付け、電柱設置・撤去各作業補助、JW-CAD 入力等の実習を行った。

#### イ (有) カザマデンキ 電気工学科 2 学年 1 名参加

7 月 27 日～7 月 31 日、8 月 2 日～6 日の間で合計 10 日間実施。エアコン取外し、取付工事、新築家屋でのエアコン取付、光ケーブル接続工事、給湯器の取付工事等の実習を行った。

#### ウ (株)オアシス 電子情報科 2 学年 1 名参加

8 月 7 日～10 日、8 月 21 日～8 月 26 日の間で合計 10 日間実施。イベントでの PA を操作する他、手書きのポスターをデジタル加工するときの補助等の実習を行った。

## 2 ものづくり塾について

昨年実施した「カントダウンタイマー」は工程が多く初心者が参加しづらかったため、今年度は「ラムンタイマー」として 30 分程度で製作できるものとして企画。文化祭(10 月 28 日)で小中学生を主な対象に実施。電気科の生徒が講師となり、はんだづけのしかたや電子部品の役割などを説明・指導した。



ものづくり塾

## 3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

### (1) 地元企業との連携

「ものづくり技能・技術伝承講習会」事業として、電気技能講習会を(有)カザマデンキ様から、講師を招聘し7月7日、14日の2日間で合計4時間実施した。電気工事士技能試験受験者20名が参加した。

### (2) 電気工事工業組合との連携

#### ア 電気工事技能講習会

新潟県電気工事工業組合上越支部様から、第二種電気工事技能講習会を7月15日(土)に実施。技能試験公開問題を中心に指導していただき、電気工事士技能試験受験者15名が参加。また、11月18日(土)には第一種電気工事技能講習会を実施。受験生徒3名参加。

#### イ 電気工事業界人材確保・育成事業

電気工事組合のご協力、ご指導のもと、1年生(電気工学科電気エネルギーコース40名)を対象に電気工事業界人材確保・育成事業をねらいに、3月16日(金)に電気工事に関する講義、電気工事作業の実演の見学、さらに電気技術者の皆様との情報交換会を実施予定。

## 4 総合所見

地域との連携、交流により社会でのマナーなど大変多くのことを学ぶことができた。体験を通して自分の進路について考え、生徒自身の視野や知識を広げた。

(建築・デザイン科 建築システムコース)

## 1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

今年度も2年生31名全員が参加し(内デュアルシステム参加者2名)、学校の授業では経験できない建築現場の魅力を肌で感じ、職業意識を高めることができた。さらに、受入企業を招き報告会を実施し、実習の成果を確認すると共にプレゼンテーション能力を向上させた。

## 2 ものづくり塾について

### (1) 目的や実際の取り組み

本校文化祭の中で来場した小中学生を対象に、建築システムコースの生徒が講師となり子供用のイスの製作を行い約50名に体験してもらった。

### (2) 取り組みの成果

子供たちにもものづくりの体験を行うことで、生徒自身ものづくりの楽しさを再認識することができた。



ものづくり塾の体験風景

## 3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

### (1) 建築大工技能講習及びものづくりコンテスト課題の指導

新潟県職業能力開発協会様との連携によりフジモト建設様を講師に迎え、2年生12名対象に3級大工技能士受験に向けた指導をいただいている。

また、高校生ものづくりコンテスト木材加工部門の課題も指導していただいた。

### (2) 左官技能講習

地元の企業である株式会社佐藤左官工業所様から3年生4名を対象に3級左官技能検定の指導をしていただき、全員が合格することができた。同日に行われた新潟県技能競技大会を2年連続で優勝することができた。



コンテスト課題の指導

## 4 上越市との取り組みについて

### (1) 目的や実際の取り組み

上越市と協力し、南本町3丁目に市民が交流できる場として空家をDIYで改修した。「町家DIY in なんぼんさん」というテーマでイベントを行い、多くの地元住民や小学生らと共にまちづくりに関して話し合いやふれあい・交流を行った。

### (2) 取り組みの成果

地元のことを調べ、住民や小学生等との交流を深めることでコミュニケーション能力も培われ、地元「形」としての成果を残すことができてよかった。



新潟県技能競技大会表彰式

## 5 総合所見

市役所と連携し、地元雁木通り商店街の空き家の活用に取り組んだイベントや、本校文化祭時に開催したものづくり塾を通して子供達に「ものづくり」の楽しさを伝える地域貢献ができた。技能競技会を通して本校生徒の持つ技術力を知ってもらうことができた。

## (環境土木科)

### 1 インターンシップ・デュアルシステムについて

#### (1) 実施形態

地元建設関連・測量調査・市役所(上越市、妙高市、糸魚川市)、環境科学センター・美土里ネット等の事業所にて就業体験を行った。

#### (2) 反省と課題

夏休みは中学校実施分と時期が重なり、事業所側からも実施時期の改善を強く望まれている。

#### ア 地元建設業・業界からの意見や要望

「生徒の皆さんは一生懸命に体験している。そのまま仕事に就いてほしいくらい。」と、協力事業所から意見要望をいただいている。

#### イ 参加した生徒の感想・影響

参加した生徒は、「専門的機材や技術に触れることができた」「日頃の学校生活や授業、今後の人生の中で活かしたい」との感想が多い。

授業では自信をもってリーダーシップのある行動ができ、頼もしい存在へと成長が感じられ就業体験学習の好影響とみられる。

### 2 ものづくり塾について

#### (1) ものづくり塾の実施までの流れ

「地域の皆様に、普段、見えてない・気付いていない身近な土木の心・楽しみ・親しみ・支えを伝え、知ってもらう」をコンセプトに、「1 開発重視」⇒「2 宣伝拡充」⇒「3 熟成深化」と、経年毎の3年間のステップを考慮して計画した。次に主なターゲットを「小学生とその保護者」とし、楽しさ、面白さ、そして安全性に配慮して内容を考案し、道具の取り扱いや宣伝用のリーフレット等でも好奇心や興味を演出するよう思いを込めた。

#### ア 主な体験キット

- ①「コンクリートメダルづくり」
- ②「水耕栽培キットづくり」
- ③「橋梁模型づくり」
- ④「汚れた水の浄化(着色ヨゴレ・溶解性ヨゴレ)」
- ⑤「小さな絵を巨大地上絵として絵画する」
- ⑥「環境(騒音・二酸化炭素・水)の測定と評価」

#### イ 実施内容および結果

宣伝用リーフレットの効果は大きく、近隣小学校5年生をはじめ沢山の方が参加した。更に建設フェアへの出店依頼もあり協力した。

### 3 総合所見

インターンシップ・デュアルシステムの推進では、「しごとに対する価値観・就業感の向上」「学科と関連協会や業界との関わりを深くする」として実現できた。

ものづくり塾では、たくさんの方から参加いただき、家に帰ったあとも「つくったり・植物の成長を観察したり、その出来事や方法や原理・技術を話題にしたり」と、学びと共に楽しめて良いと好評を得た。今後もこの取組みは継続し、より多くに向け「暮らしを支える技術とその素晴らしさ」を伝えていきたい。



工事現場見学と鉄筋結束体験



インターンシップの様子



試作とパッケージ化の様子



ものづくり塾の実施の様子

(建築・デザイン科 環境デザインコース)

### 1 インターンシップ・デュアルシステムの取り組みについて

2年生19名のうち、3名がインターンシップ、2名がデュアルシステムに参加した。インターンシップは、イベントの企画・運営を体験した。デュアルシステムは、画像編集・構成ソフトを学習し広告やポスターのデザインを体験した。



茶会イベント企画運営



グラフィック画像編集

### 2 ものづくり塾の目的や取り組みについて

#### (1) ものづくり塾で使用するのぼり旗のデザイン

3年の実習で取り組み、デザインを11案提案し、その中の1案が採用され、5本を製作した。ものづくり塾や工業教育フェスタなど多くの展示会場で使用した。



のぼり旗のデザイン (平成27・28・29年度)

#### (2) エコバッグの制作

本校文化祭において、昨年に引き続き消しゴムスタンプを使用したエコバッグのデザインを実施した。生徒がデザインしたオリジナルスタンプを使用して、一般の方がレイアウトを工夫しながらワークショップを体験していた。



エコバッグ体験

#### (3) 錫を使用した鋳造体験

デザインコースの生徒が鋳造型のデザインを提案し、レーザー加工機を用いて型を作成した。錫を230℃前後に加熱し、注ぎ口から型に流し込み、オリジナルストラップを製作した。生徒が安全に気を配りながら、一般の方に説明し鋳造体験を実施することができた。



スズの鋳造体験

### 3 地元企業等の熟練指導者による指導の取り組みについて

#### (1) 地元デザイン関連企業による出張授業

11月17日4時間目、本校にて2年生を対象に「デザインの仕事」について(株)桐朋 太田均代表取締役社長より講義をいただいた。共通認識を踏まえ、見る人の文化を考慮し伝わるデザインにすること、デザイナーの心得(話をよく聞く、メモをとる、締め切りを守る、時間の限り粘る)は社会人の心得と共通すること等、生徒が今の自分に足りない物に気づき、将来についてより深く考える機会となった。



デザインの仕事について

#### (2) 大学による出張授業

長岡造形大学プロダクトデザイン学科鈴木均治教授から、2年生を対象に「味を色で表現しよう」の演題で、色彩の演習を例年通り2月に予定している。

### 4 総合所見

取り組みを通して、デザインの仕事をするために必要な技術や知識、社会人として重要となるコミュニケーション力や意識を学ぶことができた。「ものづくり塾」では、ものをつくる楽しさや難しさ、苦労してつくり上げたものにかかる付加価値などを感じてもらい、体験した多くの方々にもものづくりに対する興味・関心を持ってもらう事ができた。

(様式1)

海 高 第267号

平成30年 2月16日

高等学校教育課長 様

学番 78 海洋高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

県立海洋高校

【テーマ】 地元漁業の維持・発展のための活動をととした水産専門人材の育成

【目標】

地域との連携を一層図り、地方の課題の解決を図るとともに、地域の活性化に貢献できる将来の水産専門人材を育成するため、以下の能力・態度の育成について取り組む。

(1) 課題解決能力の育成

国際的な視野を持ち、地域が直面する課題に対して、幅広い視点から解決しようとする能力と態度を育成する。

(2) マネジメント能力の向上

専門家と連携した実践を通じて、水産業に対応できるマネジメント能力を育成する。

(3) 自己有用感の向上

実践をととし、生徒に社会への参画意識を醸成させるとともに、その経験から自己有用感を向上させる。

【取組の概要】

(1) 栽培技術コース (資源育成コース)

「チョウザメの養殖」

(2) 食品科学科 (食品科学コース)

「干物等の製造におけるHACCP取得及びハラールの研究」

(3) 海洋生産コース (海洋技術コース)

「バイ貝及び甘エビの漁獲方法の習得」

(4) マリン技術コース (海洋創造コース)

「潜水技術を用いたイシモズクの採集方法の研究」

【取組の成果】

(1) 特産水産物の復活や、新たな特産物の生産への可能性を広げるとともに、地元の産業に目を向ける端緒となった。

(2) 地元漁業者から指導を受けることによって、専門的な職業人としての自覚に目覚めた。

(3) チョウザメの養殖をとおして、新たな特産物の創出に貢献しようとする意欲が生まれた。

(4) 本校開発の魚醤「最後の一滴」のハラール認証に向けた学習会を開催したことにより、日本はもとより外国への流通への可能性を感じ取り、経営的な感覚の醸成がなされた。

## 1 各コースの具体的な取組

### (1) 資源育成コース

本年度導入した稚魚の成長と生産率を調査し、平成27年度、平成28年度と比較することによって飼育上の問題点を明らかにするとともに今後の飼育に活かす。

### (2) 食品科学コース

- ・さば缶詰2種（水煮缶・味噌煮缶）のHACCPによる製造実習。
- ・鮭魚醬「最後の一滴」のハラール認証とイスラム文化圏における販売活動。

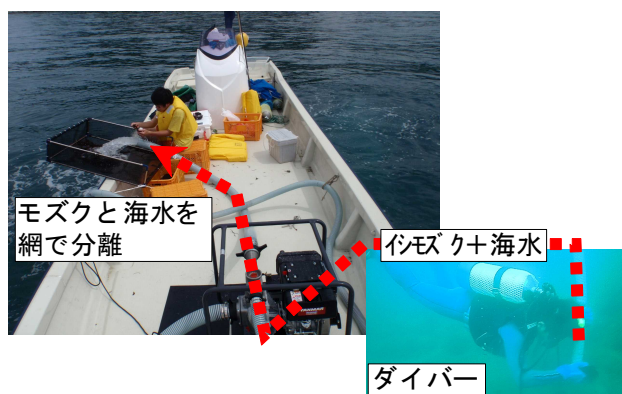
### (3) 海洋技術コース

専門家による技術指導を下記のとおり行った。

- ①実施年月日 1回目 平成29年7月4日（火）9：20～12：00  
2回目 平成29年9月12日（火）9：20～12：00
- ②実施場所 糸魚川市能生小泊 上越漁協市場及び能生沖合
- ③協力漁業士 上越漁協能生支所漁業研究員（磯貝 由一 研究員ほか）  
大栄丸（池田 和嘉 漁業士）7.3トン  
光洋丸（中村 浩 漁業士）8.5トン
- ④講習内容
  - ・漁具の構造及び操業方法（講話：荷さばき所用地前岸壁）
  - ・操業体験実習（実習：海上）
  - ・漁獲物選別実習、質疑応答（実習：旧荷さばき所）
- ⑤講師 陸上：磯貝 由一 研究会長 ほか  
海上：池田 一嘉 漁業士、中村 浩 漁業士ほか

### (4) 海洋創造コース

- ・モズクスイーパー（エンジンポンプ）を用いた効率的なイシモズクの採集方法の確立
- ・イシモズク塩蔵品の商品化および販売促進活動の実施



<モズクスイーパーによるイシモズクの収穫>



<商品説明および試食による販売促進活動>

## 2 取組の成果

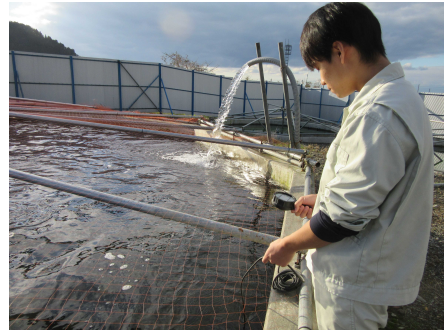
### (1) 資源育成コース

1年目の生残率は60%から75%、2年目の生残率は32%から55%と向上していることから、本事業の3年間を通じて、飼育技術の向上が認められた。また、1年魚の平均全長は、41から38cm、2年魚は51から48cmで、年度によって大きな差は認められなかったものの、温水（20℃前後）で飼育している養魚場の成長と比較すると10cm前後の成長不足が認められた。当養魚場の水温は、年間を通じて11から15℃であり、チョウザメのような温水魚には低めの水温であることから、成長不足は技術的な問題ではなく、水温の問題であると思われる。今後は、生残率80%以上を目指して、用水管理や給餌法など、飼育方法の改善を図る必要があると考えられる。

| 年魚 | データ(cm) | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|----|---------|--------|--------|--------|
| 0  | 平均全長    | 10     | 10     | 10     |
|    | 生存率(%)  | 100    | 100    | 100    |
| 1  | 平均全長    | 41     | 38     | 38     |
|    | 生存率(%)  | 50     | 60     | 75     |
| 2  | 生存率(%)  | 51     | 48     |        |
|    | 平均全長    | 31     | 55     |        |
| 3  | 平均全長    | 60     |        |        |
|    | 生存率(%)  | 30     |        |        |



<100 t 水槽収容の2年魚に給餌する生徒>



<100 t 水槽の溶存酸素を測定する生徒>

- チョウザメ養殖への興味・関心に関する基本調査（第3学年16人）によると、
- チョウザメに親しみをもった。
  - 地域振興に役立つと思う。
  - 進学して将来は水産に関する仕事に携わりたい。
  - 水産業には可能性があると思う。
  - 養殖業の意義がよく理解できた。
  - 将来養殖に関する仕事をしてみたいと思う。
- などがあげられた。

以上の結果から、本事業におけるチョウザメ養殖をとおして、養殖業の社会的貢献の可能性を肯定的にとらえる生徒が多くいることが分かった。生徒の期待に応える意味においても、糸魚川地域でのチョウザメブランド化に成功を収めたいと思う。

- また、本事業に取り組んだ生徒の主な感想として、
- チョウザメの成長が楽しみだ。
  - 地域振興の目玉になると思う。
  - チョウザメが地域の特産品になる日が早くきて欲しい。
  - 特産品になるまで後輩に頑張ってもらいたい。
  - 肉やキャビア出荷までの時間が長く、自分たちの代に間に合わないのが残念だ。
  - 糸魚川産キャビアを作成してみたかった。
- などが上げられる。

これら主な感想から、生徒達がチョウザメの地域に果たす可能性をよく理解している様子が伺えたものの、この3年間、養成するだけで最終的な成果を手にすることができなかったことに残念な気持ちを抱いていることが分かった。

## (2) 食品科学コース

平成29年3月に一般社団法人大日本水産会より認定されたHACCPによるさば缶詰製造実習を実施した。今年度から金属探知機を導入したことで、重要管理工程のモニタリング方法について生徒自らが運用しながら体験的に学び取れる機会が増えた（図1、2）。



図1 金属探知機を操作する生徒



図2 重要管理工程の記録をする生徒

これらの取り組みにより、HACCPについて体系的な理解ができる生徒が増え、一般社団法人大日本水産会後援HACCP基本技能検定の合格率が前年と比して5%増加した。HACCPによる実習は、製造現場におけるモニタリングや記録、検証活動等が食品の安全性の維持向上に繋がること理解させるために有効であった。

一方、食品産業の重要な活動であるマーケティング及び販売については、ハラールを活用した販売実習を実施するなかで体験的に学んだ。平成29年8月のマレーシア・クアラルンプール市内の百貨店における販売では、参加生徒2名が英語を使って商品説明をして、2日間で国内価格の約2倍のボトルを約40本売り上げた。店員のほとんどがイスラム教徒であり、温かく迎え入れてもらいながら販売ができた。購入者のほとんどは中華系であるが、イスラム文化圏への販路構築の面でハラール認証が欠かせないことが実感できた（図3）。

また、平成30年1月にはマレーシア・ペナン州の「ペナンハラールEXPO」に出展し、商社やメーカー、飲食業者との商談を行った。最終消費者への販売活動と異なり、高い英会話能力を必要とされたが、英語科教員のサポートのもと3日間の展示を無事終わらせることができた（図4）。

現在、香港でハラール食品を取り扱う業者との商談を継続していて、やはりハラール商品であることの市場での優位性について知ることができた。



図3 百貨店での販売をする生徒



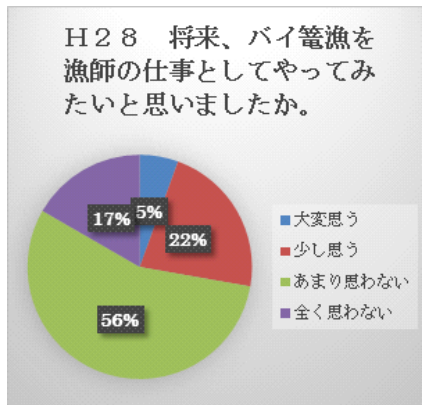
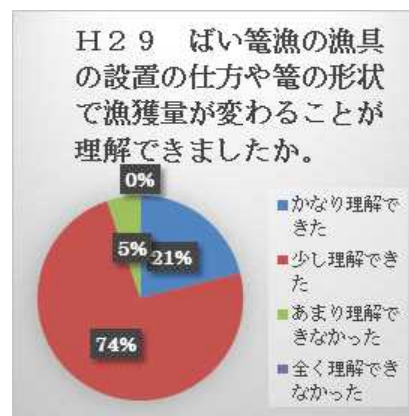
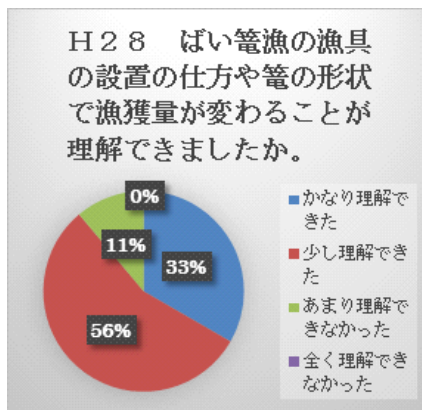
図4 展示会で商品説明をする生徒

## (3) 海洋技術コース

- ・作業の流れが理解できた。
- ・安全に作業するにはどうすればよいか理解できた。
- ・籠による漁獲の違いから、どのような籠を作ればよいかを考察できた。
- ・以下のアンケート結果より、平成28年度より平成29年度方が、「バイかごの漁具の設置の仕方やかごの形状で漁獲量が変わることが理解できた」「将来バイかご漁を漁師の仕事としてやってみたいとしたい」とした生徒が増えた。

※ アンケート対象者

平成28年度2年生18名、平成29年度2年生19名、3年生18名 計55名



<バイ貝の漁獲>



<専門家による指導>

- 主な感想
- ・自分が将来バイ籠漁船に乗ったときは、今回の事を生かしたい。
  - ・バイ籠実習を間近で経験できたので良かった。今後も海洋高校の授業で取り組んでほしいと思いました。
  - ・ロープを巻く作業は、コツが必要なので大変でした。これからも頑張してほしい。

(4) 海洋創造コース

- ・モズクスイーパーを活用した効率的で安全な採集方法を確立し、約100kgのイシモズクを採集した。
- ・パッケージデザインおよび販売価格を決定し、塩蔵したイシモズクを商品化した。
- ・埼玉県越谷市の大型ショッピングモールで販売促進イベントに参加して、生徒が生産から加工、販売まで一貫して携わることができた。
- ・北海道大学が開催する「海の宝アカデミックコンテスト2017」において能生産イシモズクの研究・開発について発表した。

### 3 総合所見

#### (1) 資源育成コース

本事業をとおして、チョウザメというあまり馴染みのない魚を飼育する技術を身に付けることができたことが、生残率の向上からも推察できる。魚を正常に飼育することができて初めて次のステップ、即ち、肉やキャビアの加工、販売の段階に進むことができるのである。そのような意味において、本事業で基本的な飼育技術を身に付けることができた意義は十分に大きいといえる。

また、地域と連携することにより（産学連携）、学校での学びを地域振興に役立てることができるという実感は、生徒の自信に繋がるだけでなく、学校の将来のあり方を考えるうえで大いに役立つ部分があったと思われる。それと同時に、地域に本校の存在価値を再認識してもらう機会にもなったことは本事業の大きな成果の一つである。

チョウザメは魚肉の出荷に3年以上、キャビア作成には8年以上を要することから、今後も科目「総合実習」のなかで養殖を継続する。3歳魚については、今春に雌雄判別を行い、2から3kg以上の雄はフィレーンとして出荷したり、燻製などに加工したりして出荷することができる。

加工品については更なる研究が必要であり、そのような意味において、今年度からは、養殖実習の他に、加工販売実習が付加され、一層充実した実習ができるものと期待しているところである。

#### (2) 食品科学コース

HACCPによる製造実習は、単なる作業に陥りがちな高等学校の実習に「考える」機会を多く提供する。我が国においてもHACCP義務化が決まっており、高等学校の実習スタイルとして当たり前のものとしていかなければならない。引き続き、HACCP認証される実習品目を増やすとともに、現行の運用体制を維持していきたい。

ハラール認証を活用した学習活動は、県内外からも注目され、多くのマスコミに取り上げられた。このことが商品認知にもつながり、さらなる需要を生み出していると考えられる。本校の糸魚川市との産学官連携事業の根幹は、開発商品が連携事業所に利益と雇用をもたらすことにある。まさに、オンリーワンの学習活動が地域振興に結びつくという循環が、今年度ほぼ完成したと言える。今後も、地域との連携を維持発展させながら、新しい時代に対応できる食品産業従事者の育成を行っていく。

#### (3) 海洋技術コース

本事業の取り組みにより、バイ簗漁への興味関心を示した生徒が多かった。漁をするだけでなく、普段食卓に上がることが少ない水産物を食べたこと、そしてその食味のよさに自分もバイ簗漁をしてみたいという生徒もいた。

糸魚川地域振興局と上越漁協能生支部の青年会の方々と共同で行うことで、海洋高校の生徒の様子を見ていただくことができ、生徒が漁師になるにあたって、もっと専門性を高めてほしいなど、どのような教育が必要かと言った議論ができた。

今後も、地元の漁業士から指導を受けながら、漁業技術を伝承し、地元特産水産物の生産と漁業後継者を維持していくことに努めていく。

#### (4) 海洋創造コース

本校がイシモズクを採集している場所は、漁業者が利用していないため、未利用資源の有効活用につなげることができた。

今年度はイシモズクの生産から販売まで携わることができた。イシモズクの販売は県内外のイベントおよび「道の駅マリンドリーム能生」、地元宿泊施設の「権現荘」で行い、10月には東京都の「インターコンチネンタル東京ベイ」のイタリアンレストラン「ジリオン」での本校実習品を食材としたイベントの料理にも使用され、能生産イシモズクを広くPRすることができた。今後は生産量を増やして、地元経済の活性化の一助となることを目指す。

本事業の活動をとおして、生徒は「授業で学んだ技術を活かして新たな産業を生み出す方法を、身をもって知ることができた。」「自分たちの活動が地域の活性化に役立っていることにやりがいを感じた。」と感想を述べていることから、課題解決能力の育成や自己有用感の向上を達成したと考える。

(様式1)

阿高第 127 号

平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番 中1・21 県立阿賀黎明中学校・高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

阿賀黎明中学校、阿賀黎明高校

**【テーマ】** あがまち まるかじり  
～町を元気にするためにいつか帰りたい～

**【目標】**

- ① 地域の魅力の再発見と課題探究を通じた人づくり
  - 地域で活躍する専門家の協力を得ながら、地域の魅力や地域を取り巻くさまざまな課題の探究と体験活動をとおして、コミュニケーション能力と課題解決能力の向上を図るとともに、地域との関わりを強め、地域への愛着を育む。
- ② 地域との連携を深化させた人づくり
  - 「狐の嫁入り」をはじめとする地域行事や交流活動、ボランティアへの参加及び企画・運営を通じ、自尊感情を高め、人間関係能力の向上を図るとともに、学校と地域との連携を深化させ、地域の協働体制を構築する。  
様々な年齢の町民と交流を図り、学校と地域の連携を深化させる。

**【取組の概要】**

- ① 阿賀町や諸団体の協力を受け、町内の小中学校との連携も見据えた取組
  - 狐の嫁入り行列などの町おこしイベントなどに積極的に参加するとともに、高校生の視点でアイデアを提案するなど参画し、地域活性の拠点化を目指した。
  - 文化祭を地域の行事として位置づけ、町民が来校する機会を多く設定した
- ② 町の魅力や強みの発信活動と地域の課題やその解決法等を探求する活動
  - 阿賀町の花「雪椿」や、森林資源を活かした地域づくり・ひとづくりに関する探究活動を行い、町内外に対し町の歴史や魅力等の伝承、普及活動を行った。
  - 町が推進する「地域のちからで支え合う福祉のまちづくり」に関する探究活動や体験実習を実施した。
  - 英語力を活用し町の魅力を発信する取組に貢献した。中でも、阿賀町が雪椿発祥の地として、広報活動の一環で作成した冊子の英語化に取り組み、町の発信に貢献した。

**【取組の成果】**

併設中学校・高等学校の全学年が、それぞれの生徒の習熟度に応じた学びを設定し、歴史・観光・産業・文化など、多岐にわたる分野の学習を通じ、わが町「阿賀町」多角的にとらえることができた。また、その学びを通じ町の魅力と課題を理解することで、郷土への誇りと愛着を一層深めることができた。

## 【平成 29 年度の取組概要】

### 1 地域の魅力の再発見と課題探究を通じた人づくり及び地域との連携を深化させた人づくり

#### (1) 地域に関する知識を充実させる取組の実施

昨年度に福島潟にある「県立環境と人間のふれあい館」を訪問した現高校3年生が、本年度は新潟昭和株式会社鹿瀬工場を9月3日に訪問し、新潟水俣病に対しての正しい理解を一層深めることができた。これから社会の一員になる生徒たちが、自分たちの故郷の歴史を十分に理解するとともに、現在会社がトップクラスの厳しい排水基準で操業しているばかりでなく、地域貢献のためにアルミ缶リサイクル事業など様々な取組を行っている事を学んだ。

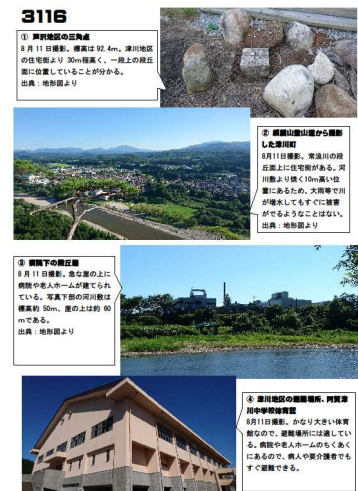


#### (2) 地域の地形と防災学習の取組

本年度は高校2年生地理選択者の夏休みの取組として、夏季休業期間を利用したフィールドワークに取り組んだ。

①地域・テーマの設定、②予備調査、③聞き取り・観察調査、④補充調査、⑤調査の分析、⑥調査結果のまとめ

といった一連の学習手順に従い、生徒は普段見慣れている景色の中に、どのような自然災害のリスクが潜んでいるのかを学んだ。この学習に取り組んで初めて、町がハザードマップを作製していたことを知った生徒もいた。自分たちの成果物を廊下に掲示し、全校生徒が閲覧できるかたちとし、共有することで全校の防災意識を向上させることができた。また、文化祭の際に来場者の方々も興味深そうに閲覧しており、有意義な取組となった。



#### (3) エネルギー対策

限りある資源を有効に活用し、持続可能な社会を築くことが求められる社会において、地元阿賀町ではどのような取組を行っているのかを高校1年生が学習した。その際、学習目的を以下のように設定した。また、見学する施設の候補を絞り下に示す2か所とし、12月4日(月)高校1年生が2隊に分かれて以下の施設を訪問し、省エネルギーの取組を見学した。

A「かのせ温泉赤崎荘(温泉廃熱利用)  
B「三川温泉 You&湯 ホテルみかわ(地下水冷房利用)」

- ① 企業がどのように省エネ対策をしているか学ぶ
- ② 持続可能な社会とはどんな社会かを考える
- ③ 阿賀町に「もったいないもの」はないか、それをどう生かせばいいか考える
- ④ 自分の意見をまとめ、発表する力を付ける
- ⑤ グループで話し合い、意見を聞く力・まとめる力等をつける
- ⑥ 他人の発表を聞き、視野を広げ、学習を振り返る



**かのせ温泉 赤崎荘**



**新三川温泉 You & 湯 ホテルみかわ**

見学した施設の省エネ事業を見学していないグループに対し、情報提供を行うため、見学したグループごと（5グループ×2）にまとまって、レポートの作成と発表用の資料を作成した。各グループの中で意見交換をした後、他グループへの発表用資料を作成した。生徒は見学した施設の現状だけでなく、阿賀町の眠った資源の活用についての具体的な方法などを考え、意見をまとめた。



**レポートへのまとめ活動**

レポート作成と意見交換をした 10 グループの発表をおこなった。全員が発表できるように 5 部屋に分け、発表者は「企業の取り組み」「省エネ事業のメリット・デメリット」「阿賀町の資源の活用方法」を中心に他のグループに情報提供をし、自分の感想を述べていた。

発表を聞いた生徒は、他のグループの発表を聞くことで、見学していなかった施設の内容を知り、阿賀町にとって何が必要なのかを再確認

することができた。全員が時間のないなか、レポートのまとめから発表資料作成まで一生懸命取り組みことができ、大変な有意義な学習となった。

#### (4) 林業調べ

中学2年生は7月26日（水）に林業について知するために木質ペレット製造などを行う株式会社阿賀ウッドを訪問した。「阿賀ウッド」はエネルギー循環型のまちづくりに力を入れ、間伐を促進して林業の維持拡大に取り組んでいる。また、阿賀町地域の間伐材を原料としたおが粉から、燃料用



ペレットを生産・販売している。生徒は到着後、木質ペレットができるまでの工程を学び、工場内を見学した。その後、伐採現場や運搬作業現場も拝見させていただいた。



#### (5) 小出和紙職人講演会

高校1年生は9月15日(金)に小出和紙を製造している渡部夫妻の講演を聞いた。

小出和紙は新潟県無形文化財であり、400年以上の歴史ある産業である。阿賀町上川地区の小出集落は古くから、春から秋は水田耕作を冬には小出和紙を漉く人々が多かったが、西洋紙の普及に伴って現在では和紙を漉く職人はこの講演をしてくださった夫婦1組となっている。

本校の卒業証書は小出和紙できており、その方々から講演を聴くことは極めて貴重な体験であった。また、生徒からは、「和紙の歴史の長さや、その寿命の長さに驚いた。」「和紙を作る上で、一番重要なものが水だと分かり、驚いた。」とか「和紙製造の工程を実際に見ていないが、真冬に暖房もない工房で天然の水を使って紙を漉くという話を聞いただけで大変だなと思った。」などの感想が寄せられた。彼らが2年後に本校の卒業証書を受け取る際には、一層その和紙の貴重さを感じる事となると考える。



#### (6) 外から見た阿賀町の魅力理解と町外への発信活動

中学2年生は地域おこし協力隊の人たちに直接インタビューし他地域からの目線で町がどのように見えているのか、自分たちとは別の角度から阿賀町の良さを知ることがを目的に、5月29日(月)に「奥阿賀グロッサリー コンビリー」、6月2日(金)に阿賀町公営塾「黎明学舎」取材した。事前に事業内容をインターネット等で調べ、各々質問をまとめて取材に臨んだ。また、阿賀町の自然に魅了され美しい風景写真を撮り続けており、地元で写真館を営んでいる写真家山口冬人さんから、阿賀町の魅力について美しいスライドとともに講演して頂いた。

「奥阿賀グロッサリー コンビリー」は調理飲食営業業務として、クルミをはじめとする阿賀町の山の食材を使ったお菓子や惣菜パンを販売しており代表の柳沼さんから、原料の調達方法や原料から販売に至るまでの工程を学んだ。この取材から、阿賀町の自然や食材が、新潟県内・県外に発信できる最大の宝であることに改めて気づき、それらが相互につながり合っている事を知った。

次に黎明学舎は、阿賀黎明高校で学ぶ生徒の日々の学習サポートや生徒の進路が実現できるよう支援する学習施設である。阿賀町地域協力隊の4名の方々が運営に携わっている。生徒は塾長の川田さんやスタッフの中野さんから、塾の取り組み、阿賀町に移り住んだ経緯や外から見た阿賀町の良さを中心に取材した。塾長の川田さんは、外部からの視点で町には誇れるものがたくさんあり、「全体でおもてなししてくれる町」と語る一方、阿賀町の子は自分の地域について気づいていないことが多いと述べていた。取材を通して、この県内唯一の公営塾の存在に魅力を感じていたことが伺えた。生徒の一人は「町の良いところが違う地域の人からも認めてもらえたのが嬉しかった」と語っていた。

また、阿賀町えごま組合の塩野さんの全面的な協力を得て、えごま栽培にも取り組んだ。えごまを育て、搾油したえごま油を阿賀町PRの際に活用するため、6月28日（水）に1時間かけて植え付け作業を行った。さらに数日後に「阿賀黎明中学校2年生 えごま畑」という看板も作った。

10月16日（月）に搾油作業を行い、塩野さんから油ができるまでの一連の流れを見せてもらった。搾油の機械から油が出てくると、生徒から歓声があがった。

植え付けから搾油までを通して、生徒から、「阿賀町のえごま油は一般的なものに比べてクセがなく食べやすい阿賀町の魅力が詰まった郷土愛溢れる新たな名産」、「今回の経験でえごまについて初めて知ることが多かった。もっといろんな事を学んでいきたい」という感想が聞かれた。

中学2年生は「町の魅力を再発見することで地元を誇りを持ち、町のこれからを語れる子」を育む目的で1年生の頃から総合学習の充実を図ってきた。2年間に渡って、自分たちの足で現地に赴き、阿賀町の魅力取材した。



プロジェクト2年目の本年度は、これら取材してきたことをもとに町の魅力をPRするとともに、町自慢の特産品等売り込む機会として、研修旅行先である大阪市内で自分たちで作製した「阿賀町パンフレット」としてまとめ、研修旅行先の大阪市内にある京橋中央商店街において、植え付け作業と搾油作業を行った町の新たな特産品である「えごま油」や仕入れた黒米や笹団子、間伐材を利用して作った自作のコースターなどを販売。メガホンを使って商店街に鳴り響くほど大きな声で呼び込みを行った。現地では、「狐の嫁入りメイク」を施し、自作のパンフレットを配り、阿賀町をPRした。

また、阿賀町の魅力をクイズ形式で伝えることも同時並行で行った。生徒から事前学習や当日の体験活動を通して、「阿賀町の魅力を知るとともに商売の大変さを痛感した」などの声を聞くことができた。生徒たちは、自分たちが住む町、郷土にたくさん誇れるものがあり、阿賀町の自然や食材が新潟県内はもとより県外にも発信できる最大の宝であることに気づいた。今後もこの活動を通し「町に貢献できる人になりたい」と生徒たちは力強く語っていた。このことから生徒たちが、意欲を高めながら「地域の情報発信」という体験活動を通して、生きた「地域学」を学んだと言える。



## (7) 町立中学校と連携して行うレガッタ体験

阿賀町のシンボルスポーツである「ボート競技」、阿賀黎明ならではのこの体験を、本事業でも活用した。

阿賀黎明中では例年、1・2年生によるレガッタ体験を行っている。今年度は残念ながら中学生が少人数ということもあり、今年は今後の連携も視野に入れて阿賀津川中との合同レガッタ体験を6月22日(木)に本校のレガッタ委員会が中心となって隣接する阿賀津川中学校との、「合同レガッタ」を企画した。本校生徒の中1～中3、25名、阿賀津川中は3年生の36名が参加し、当日は穏やかな気候の下に初めての試みを実施された。住民レガッタ用の安定した艇で、初めてのボート体験。津川漕艇協会のメンバーによる手ほどきを受け、5人1組で艇に乗り込み、緊張した様子で水上へと漕ぎだしていった。川を周回し、無事に桟橋に戻ると、「楽しかった！」と満面の笑みで答える生徒の表情が印象的であった。今後は町立中学校との多角的な連携を推進して行きたい。



## 2 総合所見

プロジェクト指定の2年目となった本年は、昨年取り組んだ事柄に加えて、地域の探求をさらに深め、学んだり考えたりした事柄を様々な形で発信する段階として位置づけた。生徒たちはそれぞれの成長や習熟度に応じた発信の仕方を工夫し、積極的に発信していた。発信する事で自分の身に付けた知識・技術を確かなものにして、発信をした相手からの反応から様々なことをさらに考え、次の学びの欲求へのつながっていくサイクルを実感していた。この2年の取組で故郷への愛着と誇りが高まり、地域の魅力化のために自分なりに出来ることがある事をも実感していた。

(様式1)

正徳高第164号  
平成30年2月22日

高等学校教育課長 様

学番39 県立正徳館高等学校長

オンリーワンスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

## 県立正徳館高校

**【テーマ】小規模校のメリットを生かした地域との連携による人づくり  
～地域の交流拠点としての学校活用と地域の活性化に貢献する若手人材の育成～**

### 【目 標】

#### ①本年の活動目標

初年度の活動テーマに加えて、発進力と課題解決能力の育成を目指す。

1 学年 「よいた学」を中心とした体験的学習をとおして地域連携について学ぶ。

2 学年 キャリアガイダンスⅡの活動を通じプレゼンテーション能力や発進力を高めるとともに、インターンシップを通じて社会的視野を広げる。

3 学年 地域連携型行事の中心となり、主体的に活動を行う。

#### 【取組の概要】

#### ①人材等地域資源の活用と交流拡充、地域学習の充実

- ・地域交流の文化拠点として「コミュニティールーム」を活用する。
- ・「正徳館サポーターズ・クラブ」と連携し地域を取り込んだ行事を実施する。
- ・地域のスポーツ振興の拠点として本校の施設を活用する。
- ・「よいた学」や「藩校正徳館」の精神等を学び、地域や修学旅行先で発信する。
- ・与板藩と彦根藩の「藩校交流」を実施し、相互の学校について学び交流する。
- ・「正徳館フェスティバル」をはじめ、地域連携型行事や活動を通じて、地域とふれ合う。
- ・与板の小中高のキャリア教育について情報交換を実施し、連携の糸口を探る。また、県外大学視察等の行事を合同参加で実施する。

#### ②体験的活動による人づくり

- ・講演会や授業等を通じ、協働作業の基盤となる「人間関係づくり」について学び、地域での活動に生かす。また、教員が生徒を理解しサポートするための調査や面談を含む学校体制の確立と生徒への教育支援の充実を図る。
- ・「長岡学」で長岡地域が抱える社会的課題や実情を学び、インターンシップ体験を通じて自分が設定した課題について考える。

#### 【期待する成果】

- ・「コミュニティールーム」や地域と連携した学校行事をとおし、学校が地域交流の拠点としての役割を果たす。
- ・地域連携・地域貢献の取組をとおして、生徒の社会性、発進力、表現力を磨く。
- ・県外・地域など多様な世代の人との交流を通じ、人と関わることの大切さを知る。
- ・「よいた学」「長岡学」を通じて、生徒の地域理解・地域振興への意識を高めるとともに、地域が抱える課題について主体的に探究する姿勢を育む。

## 【取組の成果】

### 1 発信力を高めるための取り組み

#### ○留学生ふれあい事業の活用

修学旅行における国際交流プログラム、「よいた学」の成果を英語にまとめて発表する取り組みとして、メキシコから長岡技術科学大学へ留学されている学生から来てもらい、英文の作成指導及びプレゼンテーションの仕方について指導していただいた。

指導期日 平成29年 9月15日、10月6日、  
10月13日、11月17日、11月24日

指導していただいた留学生

ペニャ・ゴンザレス・ルイス・エドアルドさん  
ムニユス・オルティス・ロベルトさん  
レンドン・ビジャロン・イスラエル・エドゥアルドさん



(授業の様子)

#### ○修学旅行時における国際交流プログラム

##### 「よいた学」の成果を英文で発表

留学生の方々から指導していただいた内容を基に各班ごとに英語によるプレゼンテーションを行った。

実施期日 平成29年12月6日(水)

実施場所 アメリカンビレッジ内ホール(沖縄県中頭郡北谷町)

対象 ホストファミリーの皆さん



(与板マップの発表)

### 2 学校設定教科「キャリアガイダンス」等での地域と連携した教育活動とその取組

#### ○平成28年度入学生(現2年生26名)

##### (1) インターンシップ事前準備企業訪問 「長岡学」

夏季休業中〔8月22日(火)～25日(金)〕に2年生全員で行うインターンシップの事前準備として、生徒が受入先リストから企業・事業所を選び、その企業の概要、地元産業界に果たしている役割等を調べ、下記の期日に企業訪問を行った。

期日 平成29年6月23日(金)～7月21日(金)

キャリアガイダンスⅡの時間、  
各企業が指定した曜日、時間帯に訪問した。



(こぶし園訪問)

##### (2) 長岡各管内の課題について調べ、地域を活性化させる方策を考える(取組中)

長岡市内各支所(中之島・三島・和島・栃尾)において、地域を活性化されるためにどのような取り組みが行われているかを調べ、そのデータを基により地域を盛り上げていくための方策を高校生の視点で考えさせる。2月末の巡検をPPにまとめ、3月に発表会を行う。

##### (3) 主な活動の自己評価

| 活動                       | とても意義があった | 意義があった | あまり意義がなかった | 全く意義がなかった | この活動で学んだこと                              |
|--------------------------|-----------|--------|------------|-----------|---|
| 与板藩井伊家の歴史学習              | 40%       | 50%    | 10%        | 0%        | 与板の歴史の奥深さ<br>藩校の精神や誇り                   |
| 留学生ふれあい事業<br>プレゼンテーション指導 | 58%       | 32%    | 10%        | 0%        | 英語でプレゼンする手順を学んだり、どうしたら分かりやすい英語になるかを学べた。 |
| 修学旅行でのよいた学のプレゼンテーション     | 72%       | 22%    | 6%         | 0%        | 英語が苦手でも、知っている単語を言えば何とか会話できることが分かった。     |

上記の活動や正徳館サポーターズ・クラブとの活動を通じて、地域との交流や貢献は前進できたと思いますか。

| 大幅に前進した | 着実に前進した | 少しは前進した | 全く進まなかった |
|---------|---------|---------|----------|
| 8       | 13      | 5       | 0        |

## ○平成29年度入学生（現1年生34名）

### （1）地域おこしについての学習

平成29年4月13日、岩室温泉での2泊3日の林間学校で、岩室地域の町おこしの先進的な取り組みを学ぶため、講演会とボランティアガイドの方による街あるきを行った。

- ・講演会「地域おこしについて」 岩室観光施設「いわむろや」館長 小倉壮平様
- ・散策 「いわむろ温泉街ガイドツアー」 町あるきガイド「いわむろ案内人」様



（いわむろやの前のワラアート）



（岩室温泉の源泉にある社）

### （2）よいた学

- ・遠足 「与板史跡探訪遠足」 平成29年5月2日（火）
- ・講義 「与板学の進め方」 平成29年9月8日（金）  
講師 井伊神社管理委員会代表 池上 宗則 様
- ・よいた歴史検定 平成29年10月20日（金）  
指導 与板町歴史ボランティアガイド会  
会長 大谷 伸一 様
- ・散策 「よいた街あるき 楽山亭・与板歴史民俗資料館編」  
11月28日（火）  
案内人 与板町歴史ボランティアガイド会 会長 大谷 伸一 様
- ・よいた学PP作成指導 平成30年1月12日（金）  
2年生が修学旅行プレゼンテーション用にまとめたPPを発表し、1年生がそれを参考にして、PP作成上の留意点等を学んだ。



（直江兼続の銅像前にて）

### （3）キャリア教育への取組

- ・福祉実習・保育実習  
従来から行って来た保育体験実習に昨年度から福祉体験実習を加えて、より広範な体験活動に取り組んだ。  
実施期日 平成29年12月8日（金）、15日（金）  
実施場所 与板保育園  
桃李園（ディーサービスセンター）  
志保の里荘



（保育体験実習（与板保育園））

### （4）学校設定教科「キャリアガイダンス」における生徒の主な感想

- ・いろいろな活動で自分たちで調べて、動いて様々な体験ができた。いろいろなことを学び、もっと深く知りたくなった。
- ・どの活動もとても楽しかったです。積極的になれました。今年学んだことをもとにして来年は地域に貢献したいです。
- ・一から作業をしていくことの大変さを知りました。班のメンバーと協力することの大切さやリーダーシップを発揮することの難しさを学ぶことができたと思います。

(5) 主な活動の自己評価 (1年生34名)

| 活動           | とても意義があった | 意義があった | あまり意義がなかった | 全く意義がなかった | この活動で学んだこと                            |
|--------------|-----------|--------|------------|-----------|---------------------------------------|
| 畑作実習         | 44%       | 32%    | 15%        | 9%        | 農業の大切さを知ることができた。                      |
| 鼓童の公演        | 26%       | 41%    | 12%        | 9%        | 世界を舞台に活躍することの大変さ、努力することの大切さを知ることができた。 |
| モザイクアート製作    | 47%       | 35%    | 9%         | 9%        | 集団で協力しあうことの大切さを学んだ。                   |
| 与板うまいもの市販売体験 | 26%       | 44%    | 6%         | 12%       | 人とのコミュニケーションの大切さ、接客の難しさを学ぶことができた。     |
| 井伊家の歴史 (講演)  | 18%       | 47%    | 23%        | 12%       | 歴史を知ること、その地域の文化を知ることができた。             |
| 与板巡検         | 26%       | 38%    | 24%        | 12%       | 与板の歴史の深さを実感することができた。                  |
| 福祉・保育実習      | 56%       | 23%    | 15%        | 6%        | 相手の気持ちに添って行動することの大切さを学べた。             |
| よいた歴史検定      | 18%       | 38%    | 26%        | 18%       | 与板についてさらに深く知ることができた。                  |

キャリアガイダンス I で取り組んだことは、あなたにとって自分自身の成長を促したと思いますか。

| そう思う | どちらかといえばそう思う | そう思わない |
|------|--------------|--------|
| 44%  | 50%          | 6%     |

### 3 スポーツ交流・文化的交流の拠点

学校が地域の拠点となるように、平成28年度に2つのコミュニティルームを設置した。

#### ○スポーツ交流の拠点 コミュニティルーム1

中高合同の部活動や学校開放の利用者が更衣やミーティングに利用している。本校体育館・グラウンドを活用し、外部指導者等により中高合同でサッカーやバレーボールの指導を行っている。中高合同で実施することで、互いに良い刺激を受け相乗効果が生まれている。

#### ○文化的交流の拠点 コミュニティルーム2

主に、同窓会や正徳館サポーターズ・クラブの活動の拠点として活用している。また、与板高校や寺泊高校のアルバムや写真を所蔵している。隣接のミーティングルームを校歴室とし、藩校正徳館、与板高校、寺泊高校の文化的財産や記念品、賞状、歴代校長の写真等を展示しており、キャリアガイダンスでは、歴史講義に活用されている。

### 4 正徳館フェスティバル (平成29年11月10日・11日)

#### (1) 太鼓芸能集団「鼓童」公演

昨年度に引き続き「地域連携的な教育活動」を周知するために、地域の皆さんを招き、与板中学校と合同の芸術鑑賞を実施した。当日は本校生徒も含め約500名が参加した。校長先生が正徳館フェスティバルの意義、交流することの意義についてお話された後、与板中学生との合同太鼓体験を加えた90分の「鼓童」の公演を地域とともに楽しんだ。

## (2) モザイクアート製作 (1年)

1ピース15ミリ平方の色紙を10万枚貼りわせ、井伊家の繋がりを象徴する井伊直虎の姿を描き、ステージに展示した。



(モザイクアート)  
(鼓動のステージ)

## (3) 藩校交流、彦根市紹介

井伊家の繋がりにから藩校交流を行っていく滋賀県立彦根東高等学校の紹介を同校新聞部の紙面や学校紹介ビデオ等を交えて行った。また、彦根市観光協会から送っていただいた市の紹介ビデオを地域の皆さんにご覧いただいた。

## (4) よいた学の成果発表

2年生が昨年から取り組んで来たよいた学の成果を、各班ごとに模造紙にまとめ発表した。

## (5) インターンシップの発表

2年生が8月に行ったインターンシップの概要、感想等をPPにまとめ、大体育館で放映した。

## (6) 与板うまいもの市 (正徳館サポーターズ・クラブ)

正徳館サポーターズ・クラブが地域と学校をつなぐイベントとして企画運営、1年生の販売指導に携わった。町内の飲食店に出店を募り、12店舗が商品を提供した。与板の銘品を生徒がPRし、ほぼ完売した。また、今回は卒業生が販売の補助にあたるなど正徳館サポーターズクラブの活動を充実させるための手伝いを行った。

1年生が育てた作物を調理、販売した。



(うまいものの市販売体験)

## (7) その他の地域連携

- ・地元有志「天地人隊」による演舞の披露
- ・生徒会企画「ゆるキャラと遊ぼう!」。地元をPRするために長岡地域5体のゆるキャラが集結した。
- ・コミュニティルーム2・校歴室等の一般公開。
- ・美術・書道の作品展示を企画。



(ゆるキャラと遊ぼう!)

## 5 正徳館サポーターズ・クラブの活動

### (1) 「正徳館サポーターズ・クラブ」について

本校同窓生を事務局とし、地域の有志で結成された外郭団体である。現在は、団体としての組織固めをしつつ、本校の地域と連携した教育活動を支援し、県外大学視察や廃品回収等の地域と学校をつなぐイベントを企画、運営した。

### (2) 今年度の活動

以下の活動の中で、本校生徒と交流を持ち、定期的に指導に関わった。

- ・林間学校で「同窓生との交流会」平成29年4月12日  
岩室温泉ゆもとやで行った1年生林間学校の初日にサポーターズクラブが主となり、卒業生との交流会を行った。
- ・県外大学視察 平成29年8月4日  
後援会、同窓会の方々、PTA会長、与板中学校の生徒、保護者を交えて、明治大学の施設明治大学紫紺館をお借りし、与板高校同窓会東京支部の皆さんとの交流会を行うとともに、同大学のオープンキャンパスに参加した。
- ・長岡ハイスクールガイダンスでの2年生指導 平成29年8月8日  
ハイブ長岡で開かれた長岡ハイスクールガイダンスで、学校説明にあたる2年生の指導・補助を行った。



(交流会の様子)

- ・正徳館フェスティバルでの「よいたうまいもの市」プロデュース 平成29年11月11日  
昨年引き続き、サポーターズクラブが主となり、「よいたうまいもの市」の企画・運営に携わった。
- ・廃品回収 平成29年11月12日  
正徳館フェスティバルの翌日、本校生徒、保護者、職員ならびに地域の皆さんに参加していただき廃品回収を行った。

## 6 イブニング説明会（学校説明会）

12月15日（金）17日（火）27日（水）の3回実施したイブニング説明会では、保護者が参加しやすい18：00～19：00に時間を設定し、ポスターを近隣の中学校へ郵送するなどの取り組みを行い、保護者の参加が増えた。

平成28年度 参加者11名（中学生6名 保護者5名）

平成29年度 参加者15名（中学生7名 保護者8名）

## 7 総合所見

「セカンドステージ」がスタートして二年目となった。オンリーワンスクールの指定を受けながら、小規模校のメリットを生かした、本校でしかできない創造的な教育活動に取り組み、生徒とのふれあいの中で地域の皆さんの学校の方針等の理解が深まり、多くの協力を得た。しかし、様々な点で組織的、全体的な運営体制が不十分であり、基盤を固めることが課題である。また、本校の教育活動は、地域との密接な連携、協働の基に成り立っており、ご協力いただいている方々とのパイプを維持していくとともに新たな協力者を増やしてゆくためにもこれまでの検証を怠らず、しっかりマネージメントしていくことが必要である。

### ○取組の成果と課題

#### ①【正徳館高校が地域交流の拠点として地域に認識され地域の活性化に貢献すること】

2年続けてとなった正徳館フェスティバルでの「鼓童」公演は、地域のみなさんに大変好評をいただき、地域の皆さんから、本校が掲げている地域との連携という方針を理解していただく良い機会となった。昨年整備したコミュニティルームについては、活用の仕方を再度考えるなど、地域連携の拠点となるよう運用していく必要がある。

#### ②【地域連携・地域貢献の中で、生徒の社会性、発進力が養われること】

昨年度からの、オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト事業により、地域連携的な教育活動や学校行事を通じて、多様な世代の地域の方と触れ合い、学ぶ機会を得た。地域の皆さんとの触れ合いを通して生徒は社会性を養い、改めてコミュニケーションの大切さや敬意を示し礼を尽くすことの大切さを学んだ。同時に、自己を表現することの大切さや必要性を学んだ。

学校生活全般に関するアンケートの集計結果では、各質問項目に対し、肯定的な感想を述べている割合が、2年生は他の学年より高く、2年間のキャリアガイダンスに取り組んで来た成果の一つと考えられる。

#### ③【与板町について学ぶことで、生徒の地域理解・地域振興への意識が向上すること】

地域の歴史にスポットを当て、地域の皆さんの協力を得て学ぶことは、単なる歴史学習に留まらず、地域の素晴らしさを実感させ、それを未来の生かす方策を探らせるものである。また、同じ精神的風土を受け継いでいる他県、他校の生徒と交流することで、自分たちが見落としていた点を再認識させることができる。それらの活動を通して、地域に対する愛着心を高揚させ、将来主体的に地域社会に係わっていかうとする市民を育てることができる。

#### ④その他の課題

- ・計画立案が遅く、講師の確保ができなくなることがあった。年度当初にしっかりと計画を示すとともに講師との打ち合わせを密にする。
- ・藩校交流において、彦根東高校訪問は金銭面を地域の皆さんの協力を頼ってしまい実現できなかった。実現に向け、地域の皆さんに協力をお願いするだけでなく、他の方策・アイデアが必要である。

(様式1)

佐 総 第 243 号

平成 30 年 2 月 21 日

高等学校教育課長 様

学番 81 佐渡総合高等学校長

オンラインスクール新潟未来プロジェクトについて、下記のとおり報告します。

記

佐渡総合高等学校

**【テーマ】 「佐渡島活性化プロジェクト SO GOOD」**  
**～地域と共に学び協働し、新しい魅力を発見・発信する～**

**【目標】**

- ・地域と学校の交流拠点を作り、佐渡商工会議所や佐渡市教育委員会等と連携した取り組みを行い、キャリア教育をはじめ様々な支援や世代間交流、生涯学習の拠点として効果的に活用する。
- ・地域と連携し、環境保護活動を通して郷土愛を育むとともに、地域の農産物を活用した農産品やオリジナル商品の開発を通して「買って良かった」「安心して買える」という地域の声とともに生徒に喜びを与え、物作りへの責任感と母校愛を持てる生徒を育成する。
- ・地域企業との連携等の活動を通じて、地域に貢献するとともに地域活性化や地域産業を担う起業家精神と創造性を育成する。
- ・様々な活動を通して地域社会の一員としての自覚と誇りを生徒にもたせ、将来の地域振興を担える人材を育成する。

**【取組の概要】**

- ・模擬株式会社「STACH Island」を設立し、その活動において、佐渡島内の空きスペースを有効活用し、地域と学校の交流拠点を作る。
- ・地域企業等の連携により、オリジナル商品の開発・製造および販売実習。
- ・食品衛生に関する知識・理解の為の研修会・講演会の実施。
- ・佐渡の花「トビシマカンゾウ・イワユリ」の増殖及び地域と連携した植栽活動。
- ・佐渡特有の希少植物の保護と増殖・植栽活動。（オオアカバナ、サドオケラ等）
- ・佐渡の原材料を使用したオリジナル商品の開発。

**【取組の成果】**

- ・模擬株式会社運営や販売実習を通して、生徒の起業家精神の育成やキャリア意識の向上および地域振興・貢献する意識が向上した。また多くの地域イベント等に参加し、地域の方々と交流を通して、ふれあうことの喜びや重要性に気付き、協力して物事を遂行することの大切さを学ぶことができた。
- ・製品製造実習等による、物作りへの責任や社会的責任を理解し、使用者・消費者の視点で物事を考える態度を養うことができた。

## 1 平成 29 年度の取組概要

(4・5・6月)

- ・活動基盤となる模擬株式会社「STACH Island」を設立  
(4月末 設立準備委員会開催 5月出資者募集 6月初 創立総会開催)
- ・佐渡市役所連携 田んぼアート田植えへの参加
- ・小倉千枚田連携 オーナー田田植えイベントへの参加
- ・佐渡 kids 生き物調査への協力
- ・小倉千枚田耕作放棄地 耕運の共同作業
- ・小倉千枚田 アズキの定植

(7月)

- ・佐渡の花「トビシマカンゾウ・イワユリ」の増殖及び地域と連携した植栽活動
- ・食品販売における社会的責任意識の向上および食品衛生に関する知識・理解の為の研修・講演の実施  
(佐渡保健所より指導・解説をうけ、授業にて消費者庁資料を用いて「食品表示」に関する指導・徹底)
- ・地域企業等の連携により、オリジナル商品開発 (生活・福祉系列、農産・加工系列、環境工学系列)

(8・9月)

- ・販売実習 「アース・セレブレーション」  
開催地：小木 8月18日(金)～20日(日)  
「キラキラフェスタ・ハーバーマーケット」  
開催地：両津 8月19日(土)
- ・佐渡特有の希少植物の保護と増殖・植栽活動 (オオアカバナ、サドオケラ)

(10月)

- ・販売実習 「朱鷺 夕映え市」 開催地：新穂 10月8日(日)
- ・小倉千枚田連携 オーナー田稲刈りイベントへの参加
- ・佐渡市役所連携 田んぼアート稲刈りへの参加
- ・環境を意識して行動する消費者の増加を目的とした啓発活動に参加
- ・NPO 法人「トキどき応援団」の勉強会で、これまで同勉強会で学んだ佐渡におけるトキとの共生についての活動を発表
- ・キャリア教育小中高連携協議会 (佐渡地区) にて模擬株式会社の取り組みを発表

(11月)

- ・畑野行政サービスセンターでの定期販売会
- ・オリジナルイベント開催 「全国デリシャスフェスティバル」  
場所：佐渡総合高校 11月3日(金)
- ・佐渡めぐり塾 (「達者」の回) への参加
- ・新潟大学連携 佐渡三施設合同フォーラムにおける  
「地域と連携した活動」の高校生事例発表
- ・小倉千枚田 アズキ・赤ソバの収穫

(12月)

- ・AEONeco-1 グランプリ最終審査会への参加
- ・起業活動の振り返り (活動報告書作成・報告会実施)、株主総会の開催 (精算と解散)

(1月)

- ・佐渡に学ぶ芸術・学習発表会にて活動の発表

## 2 各系列の取組

### (1) 生活・福祉系列

#### ①オリジナルトートバックの製作

昨年度、全校生徒に呼びかけ、佐渡ご当地イラストをコンテスト形式で募集した。若く新しい感性が生かされたオリジナルデザインが集まった。その中から優秀作品を4点選考、表彰するとともに商品化を図ることを決定した。

地元の染織家を訪ねイラストのプリント方法について学び、版型作成。生活・福祉系列の選択生徒を中心にトートバッグを試作。よくできたものを地域の各種イベントや文化祭にて販売した。



昨年度実施したシルクスクリーンでは、不良品ができやすく、商品にできないバッグが大量にできてしまったため、今年度は、トートバッグから原価の安いエコバッグに、デザインのプリントは失敗の少ないアイロンプリントに変更し、作成した。

#### ②3Rキャンペーン参加

県では、県民、市民団体、事業者(企業)、マスコミ、行政が役割を分担し連携して、県内のごみ減量を進める「『買い物で暮らしを変えよう』ごみ半減県民運動」に取り組んでいる。今年度は、県の消費者団体からの要請を受け、10月の「3Rキャンペーン月間」に、環境を意識して行動する消費者(グリーンコンシューマー)の増加を目的とした啓発活動に参加した。

##### 活動内容

- ・街頭アンケート調査  
運動のPRと3Rやマイバッグ持参についてのアンケート調査(100名)
- ・本校オリジナルデザイン入りエコバッグの無料配布(先着100名)
- ・マイバック持参者・スーパーの有料袋使用者の目視による出口調査

最初は怪訝に思われ、なかなかアンケートに協力してもらえなかったが、学校オリジナルのエコバッグを無料配布していく中で、自分から進んでこちらに声をかけ、アンケートに協力してくれる利用客も現れるようになった。エコバッグは、イベントの主旨を理解していただくための大変よいツールとなった。また、3R啓発活動に参加した生徒たちにも、毎日の生活の中で、ごみの発生をなるべく減らすこと=Reduce(リデュース)、できるだけ繰り返し使い続けること=Reuse(リユース)、そして、繰り返し使えないものは、かたちを変えて再利用すること=Recycle(リサイクル)を意識し、環境問題を考えるよい機会となった。

##### 〈採用したデザイン〉

生活福祉系列3年生がデザインした。  
佐渡特産の八珍柿が朱鷺の着ぐるみを着ている。  
胸あてにはトビシマカンゾウが描かれている。



## (2) 農産・加工系列

地域農業の現状を学ぶと共に、交流拠点や継続的な連携活動を通し、実践力の向上を目指した。

- ① 地域農業の現状調査・イベントへの参加
- ② 世界農業遺産に関する研究・発表活動
- ③ 耕作放棄地の有効活動による地域交流
- ④ 農作物の定期販売会（畑野行政サービスセンターにて毎週水曜日に実施）



佐渡の農業の特色を知り、将来的に佐渡で農業に取り組む後継者の育成を目指し、佐渡市が主催する「佐渡めぐり塾」に参加した。

佐渡めぐり塾では、その回ごとに地域を限定し、そこで行われている農業の特徴や佐渡の食文化を学習できる。3月に実施された「木」の回では、佐渡南部の林業と農村生活のつながりをテーマに、里山の暮らしを学ぶことができた。「達者」の回では、佐渡市達者地区において受け継がれている藁細工をテーマに、農業が生み出す副産物の加工を知ると共に、佐渡金山の繁栄を支えた棚田、米、農業が生み出す生活必需品の製造について学習した。

また、トキの野生復帰には佐渡の農業を受け継ぐ必要があること、環境負荷を軽減した農業に取り組むことが、これから佐渡で農業を営む上での要になるというお話もいただいた。自分の目指す農業と、その地域における農業の特性をいかにすり合わせて経営していくかという難しさを感じた。また、この佐渡めぐり塾の中で、佐渡市、小倉千枚田管理組合の方との交流が生まれ、島内で行われる農業イベントへボランティアという形で参加し、地域農業のPRに貢献することができた。

佐渡市が推奨する「朱鷺と暮らす郷認証米」制度の開始10周年を祝う田んぼアートへの参加をとおり、トキが生き続けられる環境は、農業にしか作れないというお話を聞き、改めて農業の重要性を考えることができた。小倉千枚田はオーナー制度に取り組んでおり、県内外のオーナーが参加するイベントに協力した。小倉千枚田とは小佐渡山脈に位置し、非常に勾配が急峻で一枚一枚が細長く、農機具の入らないような田んぼも残る棚田である。田植え、稲刈りでは多くのオーナーの方と作業し、なぜ佐渡でオーナーになり農業をしてみようと思ったのかなど、貴重なお話を聞くことがで、良い刺激となった。

地域イベントへの参加をとおり、改めて佐渡の農業の特徴を肌で感じることもできたと共に、佐渡の農業を守る取り組みや、先進農家との交流も生まれ、将来は佐渡で農業をやっていきたいという生徒も出ており、活動の成果を実感している。



### (3) ビジネス・情報系列

#### ① 模擬株式会社「STACH Island」の経営活動



#### 設立準備委員会・株主総会



#### 販売活動



#### ② 生徒の感想

- ・ 模擬株式会社の活動をとおして思ったことは、言われて行動するのではなく自分で行動することが大事だということです。今までの自分は言われたら行動し、言われたことしかやらない人間でした。しかしこの活動を通して自ら何をすればよいのか考えて自ら行動すれば周りの人も楽になるし、自分にもプラスのなることが多いと思いました。これからはこの活動を生かし自ら行動し人の役に立てるような人になっていきたいです。
- ・ 会社を支えてくれた仲間と株主の方々の大切さに気付きました。最初は全く集まらなかった資本金を仲間が多くの人たちに声を掛けてくれたおかげでこの活動を行うことができましたと思っています。
- ・ 商品を売ることは、決して簡単なことではありませんでした。お客様と何を話していいかわからないと言って逃げるのではなく、自分から商品のよいところをお客さんに伝えたりすることが大切だということが分かりました。そのために、その商品の試食や、前もってどういう商品なのか説明できるようにしておくことが重要だと思いました。一番初めの販売実習で、お客様に商品を勧めるときに説得力のなさに勉強不足を感じました。接客をすることは難しかったですが、いろんな方とコミュニケーションをとることができ、コミュニケーション能力がついたと思います。お客様に「笑顔が素敵だね」、「あなたが食べてみて美味しかったというなら私も買ってみるわ」と言われて嬉しかったです。自分から話しかけることは勇気が要りますが、勇気を振り絞ることは大切だと学びました。
- ・ 誰かがミスをして責めたりせず、助け合って活動することでそれぞれ気持ちよく活動ができたと思います。ですが自分から仕事を見つけて活動する人の忙しさと、何か言われなければなにもせず遊んでいるだけの人、この人の差はとても大きなものでした。負担の差がある組織ではダメだと感じました。事前計画の重要性、お客様と接する楽しさ、協力することの大切さ、この活動で学んだことは、社会人の第一歩へと繋がると感じました。

#### (4) 環境工学系列

##### ①製品用の焼きごて

ロゴをコルクにレーザーで刻印したコースターを製作した。模擬株式会社では、スタンプの他にも、食品の生地や製品に押すための焼きごてが必要であったことから、φ50 黄銅丸鋼を NC 工作機械 (Roland PNC3100) で2mm 掘り下げて製作した。突き棒は鉄筋コンクリート用棒鋼を取り付けた。



##### ②おこし型の木型

佐渡の伝統的な食べものであるおこし型は花や動物などを象った木型に、食紅で染めた団子生地をつめて型抜きし、椿の葉にのせて蒸したものである。現在も桃の節句で飾り、食べる風習がある。しかし現在おこし型に必要な伝統的な木型は製作されていないため、家庭や菓子屋に残されている木型だけを使って作りつづけられている。そこで木型を製作し、各系列でおこし型の由来の学習、その上手な作り方の研究、おこし型に使う木型の製作実習を行い、さらに商品化のアイデアを検討した。本系列ではおこし型に使う木型の製作実習を行った。



##### ③佐渡を象った製品づくり

製品作りでは、次の3点を目標とした。

1. 一目で佐渡に係わる品物だとわかる商品であること。
2. 観光みやげになり、且つ佐渡市市民でも購入したいと思える商品であること。
3. 普段使うような実用的な商品であること。

商品はスズ91%の低溶融合金を用いて佐渡島を象った製品とした。



### 3 総合所見

- 佐渡において産業教育の拠点校として、総合学科における専門系列の特色を生かし、積極的に地域との連携活動・地域貢献に係わる学習を通して「実践力」を身につけることができた。
- 「地域と学校の交流拠点」として週一回の開催ではあったが販売会を行うことで、多くの方に喜んでいただき、また交流を通じて母校愛と地域愛を育むことができた。
- この活動を通じて形成された組織力や連携機能を生かし、今後も地域をリードする人材の育成に努めていきたい。